

Ⅱ．調査結果の分析

（在住者意識調査）

1. 回答者の標本構成

性別、年代、居住区については、さいたま市の人口（令和7年5月1日現在の18歳以上人口）と対比を行った。

（１）性別

属 性	回答者数	比率	市全体の人口比率
男 性	944	42.1%	49.2%
女 性	1,232	55.0	50.8
選べない・ 答えたくない	40	1.8	
無回答	24	1.1	
全 体	2,240	100.0	100.0

（２）年代

属 性	回答者数	比率	市全体の人口比率
18～19歳	28	1.3%	2.2%
20代	193	8.6	13.5
30代	295	13.2	14.9
40代	406	18.1	16.5
50代	472	21.1	18.4
60代	384	17.1	12.7
70歳以上	438	19.6	21.7
無回答	24	1.1	
全 体	2,240	100.0	100.0

（３）性・年代

属 性	回答者数	比率	市全体の人口比率	属 性	回答者数	比率	市全体の人口比率
男性18～29歳	86	3.8%	7.9%	女性18～29歳	131	5.8%	7.7%
男性30代	124	5.5	7.6	女性30代	165	7.4	7.3
男性40代	160	7.1	8.5	女性40代	230	10.3	8.1
男性50代	205	9.2	9.4	女性50代	254	11.3	9.0
男性60代	172	7.7	6.5	女性60代	211	9.4	6.3
男性70歳以上	197	8.8	9.3	女性70歳以上	238	10.6	12.4
				選べない・ 答えたくない	40	1.8	
				無回答	27	1.2	
				全 体	2,240	100.0	100.0

（４）居住区

属 性	回答者数	比率	市全体の人口比率
西 区	145	6.5%	7.0%
北 区	256	11.4	11.3
大宮区	230	10.3	9.5
見沼区	269	12.0	12.3
中央区	177	7.9	7.7
桜 区	155	6.9	7.3
浦和区	286	12.8	12.4
南 区	315	14.1	14.4
緑 区	211	9.4	9.7
岩槻区	176	7.9	8.4
無回答	20	0.9	
全 体	2,240	100.0	100.0

(5) 主に利用する駅

属 性	回答者数	比率	属 性	回答者数	比率	属 性	回答者数	比率
大宮	327	14.6%	与野	55	2.5%	西浦和	31	1.4%
浦和	228	10.2	南与野	54	2.4	北与野	27	1.2
北浦和	161	7.2	土呂	52	2.3	鉄道博物館	15	0.7
南浦和	129	5.8	七里	51	2.3	大宮公園	13	0.6
武蔵浦和	122	5.4	日進	49	2.2	今羽	12	0.5
東大宮	104	4.6	中浦和	45	2.0	加茂宮	6	0.3
岩槻	101	4.5	大和田	42	1.9	東宮原	6	0.3
宮原	82	3.7	西大宮	41	1.8	北大宮	5	0.2
さいたま新都心	80	3.6	指扇	39	1.7	吉野原	4	0.2
東浦和	79	3.5	浦和美園	38	1.7	その他	66	2.9
与野本町	72	3.2	東岩槻	38	1.7	無回答	66	2.9
						全 体	2,240	100.0

(6) 主な移動手段（複数回答）

属 性	回答者数	比率
徒 歩	1,197	53.4%
自転車	976	43.6
自家用車	1,142	51.0
バイク	72	3.2
電 車	1,215	54.2
バ ス	536	23.9
タクシー	79	3.5
その他	9	0.4
無回答	21	0.9

(7) 職業

属 性	回答者数	比率
自営業主・家業手伝い	144	6.4%
勤め人(正規職員・正社員)	884	39.5
勤め人(パート・アルバイトなど)	425	19.0
学 生	65	2.9
専業主婦・専業主夫	304	13.6
無職	320	14.3
その他	44	2.0
無回答	54	2.4
全 体	2,240	100.0

(7-1) 勤務先・通学先

属 性	回答者数	比率
さいたま市内	673	44.3%
さいたま市以外の埼玉県内	241	15.9
東京都23区	492	32.4
その他の東京都	36	2.4
その他の道府県	50	3.3
無回答	26	1.7
有職者・学生全体	1,518	100.0

(7-2) 通勤・通学時間

属 性	回答者数	比率
30分未満	588	38.7%
30分～1時間未満	405	26.7
1時間～1時間半未満	389	25.6
1時間半～2時間未満	97	6.4
2時間以上	16	1.1
無回答	23	1.5
有職者・学生全体	1,518	100.0

(8) 同居している家族構成

属 性	回答者数	比率
一人暮らし	249	11.1%
夫婦だけ	608	27.1
親子（2世代）	1,181	52.7
親と子と孫（3世代）	104	4.6
その他	55	2.5
無回答	43	1.9
全 体	2,240	100.0

(9) 子どもの有無

属 性	回答者数	比率
いる	1,471	65.7%
いない	717	32.0
無回答	52	2.3
全 体	2,240	100.0

(9-1) 子どもの年代（複数回答）

属 性	回答者数	比率
小学校入学前（0～6歳）	198	13.5%
小学生・中学生	337	22.9
高校生・大学生・大学院生・ 短大生・専門学校生	263	17.9
学校教育終了	761	51.7
その他	109	7.4
無回答	9	0.6

(10) 65歳以上の家族の有無

属 性	回答者数	比率
いる	1,140	50.9%
いない	1,065	47.5
無回答	35	1.6
全 体	2,240	100.0

(11) 居住形態

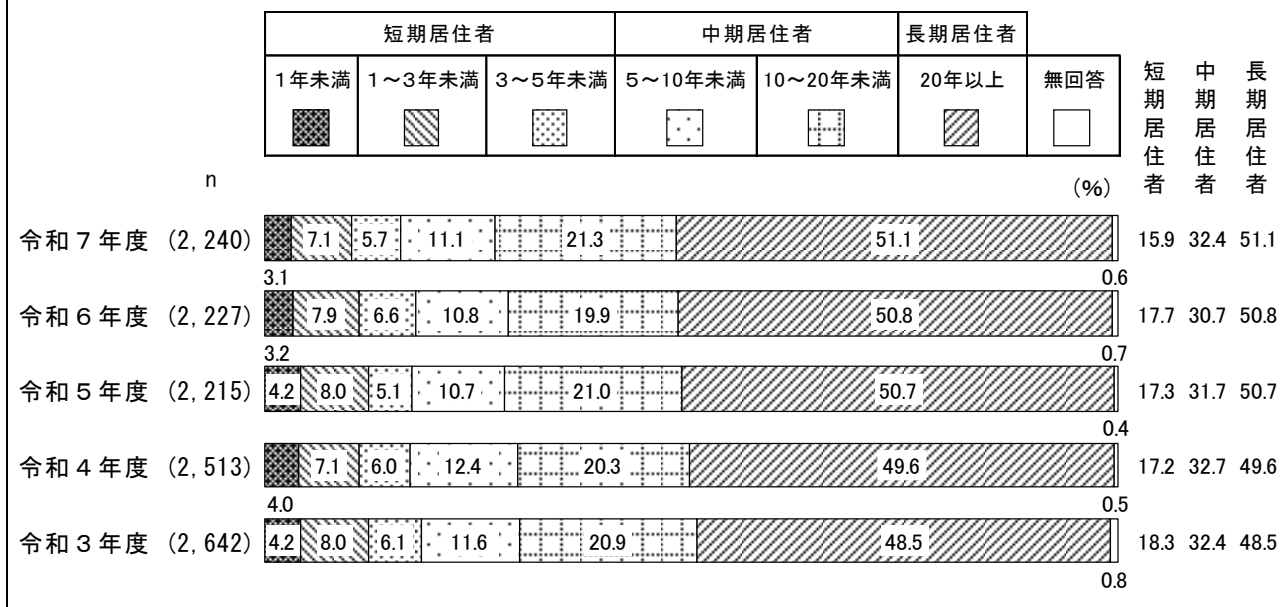
属 性	回答者数	比率
持ち家の一戸建て	1,227	54.8%
持ち家の集合住宅	478	21.3
社宅、公務員住宅など	36	1.6
民間の借家（一戸建て、集合住宅）	375	16.7
公営の借家（UR、市・県営住宅など）	62	2.8
その他	17	0.8
無回答	45	2.0
全 体	2,240	100.0

2. 地域での生活

(1) 居住年数

問1 あなたは、現在の「地域」にお住まいになって何年になりますか。あてはまるものに○をつけてください。(○は1つ)

図2-1-1 居住年数



全体結果

「1年未満」(3.1%)、「1～3年未満」(7.1%)、「3～5年未満」(5.7%)を合わせた『短期居住者』は15.9%、「5～10年未満」(11.1%)と「10～20年未満」(21.3%)を合わせた『中期居住者』は32.4%、「20年以上」の『長期居住者』は51.1%であった。

過去4年間の調査結果と、おおむね同じであった。(図2-1-1)

表 2 - 1 - 1 居住年数－性・年代別、居住区別－

	n	短期居住者			中期居住者		長期居住者	無回答	短期居住者	中期居住者	長期居住者
		1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上				
全 体	2,240	3.1	7.1	5.7	11.1	21.3	51.1	0.6	15.9	32.4	51.1
<性・年代別>											
男 性	944	2.3	8.7	5.3	10.2	22.4	50.6	0.5	16.3	32.5	50.6
18～29歳	86	7.0	16.3	3.5	9.3	27.9	36.0	－	26.7	37.2	36.0
30 代	124	8.1	25.0	17.7	24.2	6.5	18.5	－	50.8	30.6	18.5
40 代	160	2.5	13.1	8.1	15.6	34.4	26.3	－	23.8	50.0	26.3
50 代	205	0.5	3.9	2.9	8.3	36.1	47.8	0.5	7.3	44.4	47.8
60 代	172	0.6	1.7	2.3	3.5	16.3	75.0	0.6	4.7	19.8	75.0
70歳以上	197	－	2.5	1.0	5.1	11.2	78.7	1.5	3.6	16.2	78.7
女 性	1,232	3.7	6.1	6.1	11.8	20.7	51.3	0.3	15.9	32.5	51.3
18～29歳	131	13.0	14.5	9.2	6.1	22.9	33.6	0.8	36.6	29.0	33.6
30 代	165	6.1	20.0	17.0	29.1	9.1	18.8	－	43.0	38.2	18.8
40 代	230	1.7	5.7	8.3	20.4	41.3	22.2	0.4	15.7	61.7	22.2
50 代	254	2.8	2.4	2.8	6.3	27.2	58.3	0.4	7.9	33.5	58.3
60 代	211	2.8	0.5	2.4	9.0	9.5	75.8	－	5.7	18.5	75.8
70歳以上	238	0.8	1.3	1.7	2.9	10.1	82.8	0.4	3.8	13.0	82.8
<居住区別>											
西 区	145	0.7	4.1	6.9	12.4	16.6	59.3	－	11.7	29.0	59.3
北 区	256	3.9	8.6	4.3	10.2	21.9	50.4	0.8	16.8	32.0	50.4
大 宮 区	230	3.5	9.1	7.4	13.0	21.7	44.8	0.4	20.0	34.8	44.8
見 沼 区	269	4.5	4.5	3.7	7.8	21.6	56.9	1.1	12.6	29.4	56.9
中 央 区	177	1.1	10.7	5.6	12.4	23.7	45.8	0.6	17.5	36.2	45.8
桜 区	155	3.2	8.4	4.5	7.1	23.9	52.9	－	16.1	31.0	52.9
浦 和 区	286	3.1	7.3	6.3	12.6	23.1	47.6	－	16.8	35.7	47.6
南 区	315	4.4	7.3	4.8	10.2	22.5	50.8	－	16.5	32.7	50.8
緑 区	211	2.8	8.5	9.0	14.2	23.2	41.2	0.9	20.4	37.4	41.2
岩 槻 区	176	1.1	2.8	6.3	11.4	12.5	65.3	0.6	10.2	23.9	65.3

属 性 別

性・年代別でみると、『短期居住者』は、男性 30 代（50.8%）でほぼ 5 割、『中期居住者』は、女性 40 代（61.7%）で 6 割を超えた。一方、『長期居住者』は、女性 50 代（58.3%）で 6 割近く、男女とも 60 代以上は 7 割以上であった。

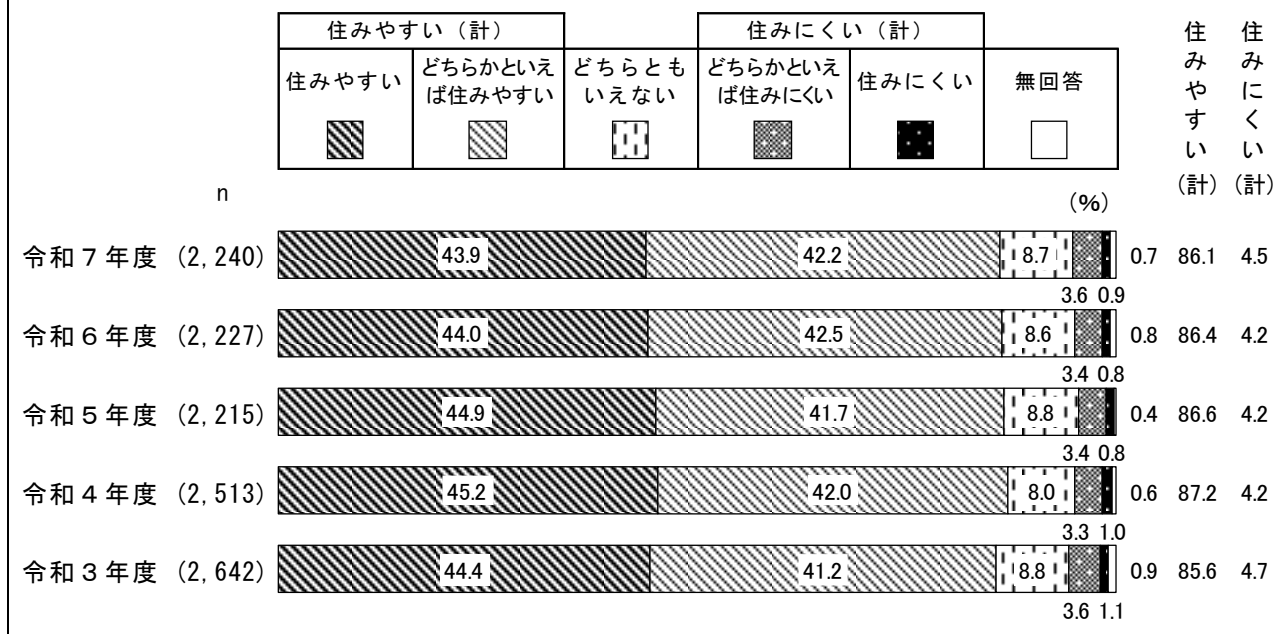
居住区別でみると、『長期居住者』は、岩槻区が 65.3%で最も高く、西区（59.3%）など 5 区も 5 割台であった。一方、『短期居住者』は、緑区（20.4%）、大宮区（20.0%）を除き、1 割台であった。

（表 2 - 1 - 1）

(2) 住み心地

問2 あなたがお住まいの「地域」の住み心地はどうですか。(○は1つ)

図2-2-1 住み心地

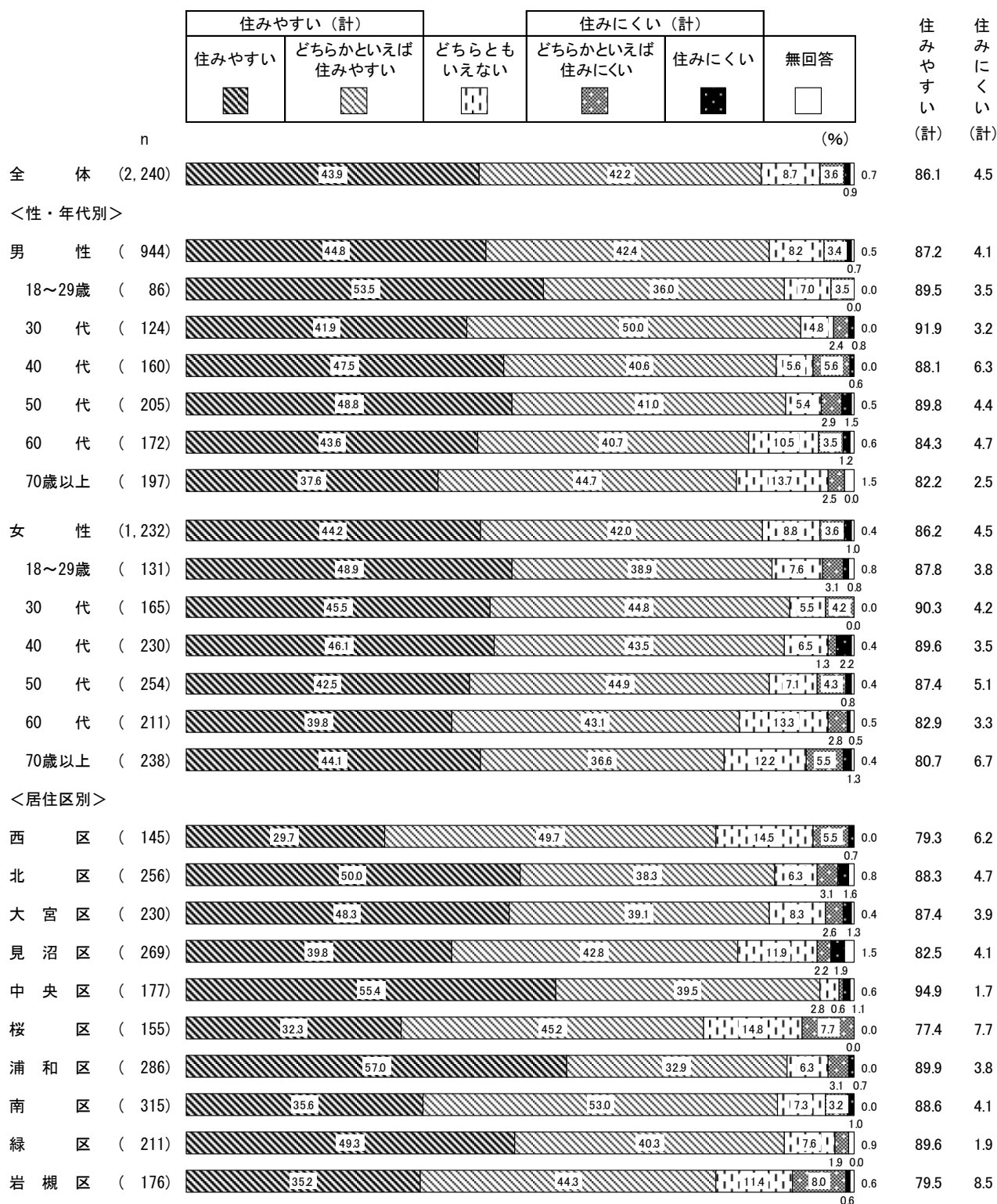


全体結果

「住みやすい」(43.9%)と「どちらかといえば住みやすい」(42.2%)を合わせた『住みやすい(計)』(86.1%)は、8割半ばであった。一方、「どちらかといえば住みにくい」(3.6%)と「住みにくい」(0.9%)を合わせた『住みにくい(計)』(4.5%)は、1割未満であった。

過去4年間の調査結果と、おおむね同じであった。(図2-2-1)

図 2-2-2 住み心地一性・年代別、居住区別



属性別

性・年代別でみると、『住みやすい (計)』は、男女とも 30 代が 9 割台で最も高く、他の年代は 8 割台であった。一方、『住みにくい (計)』は、すべての年代で 1 割未満であった。

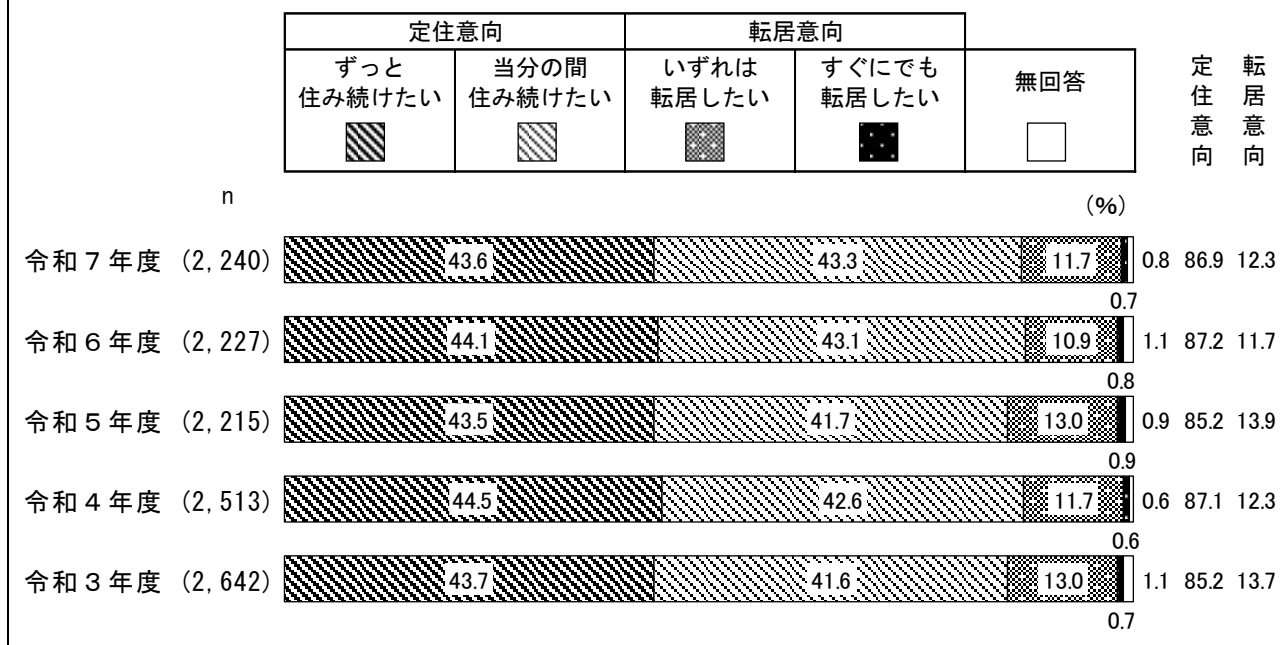
居住区別でみると、『住みやすい (計)』は、中央区 (94.9%) が最も高く、浦和区 (89.9%) など 6 区も 8 割台であった。一方、桜区 (77.4%)、西区 (79.3%)、岩槻区 (79.5%) は、7 割台であった。

(図 2-2-2)

(3) 定住意向

問3 あなたは、現在お住まいの「地域」にこれからも住みたいと思いますか。(○は1つ)

図2-3-1 定住意向

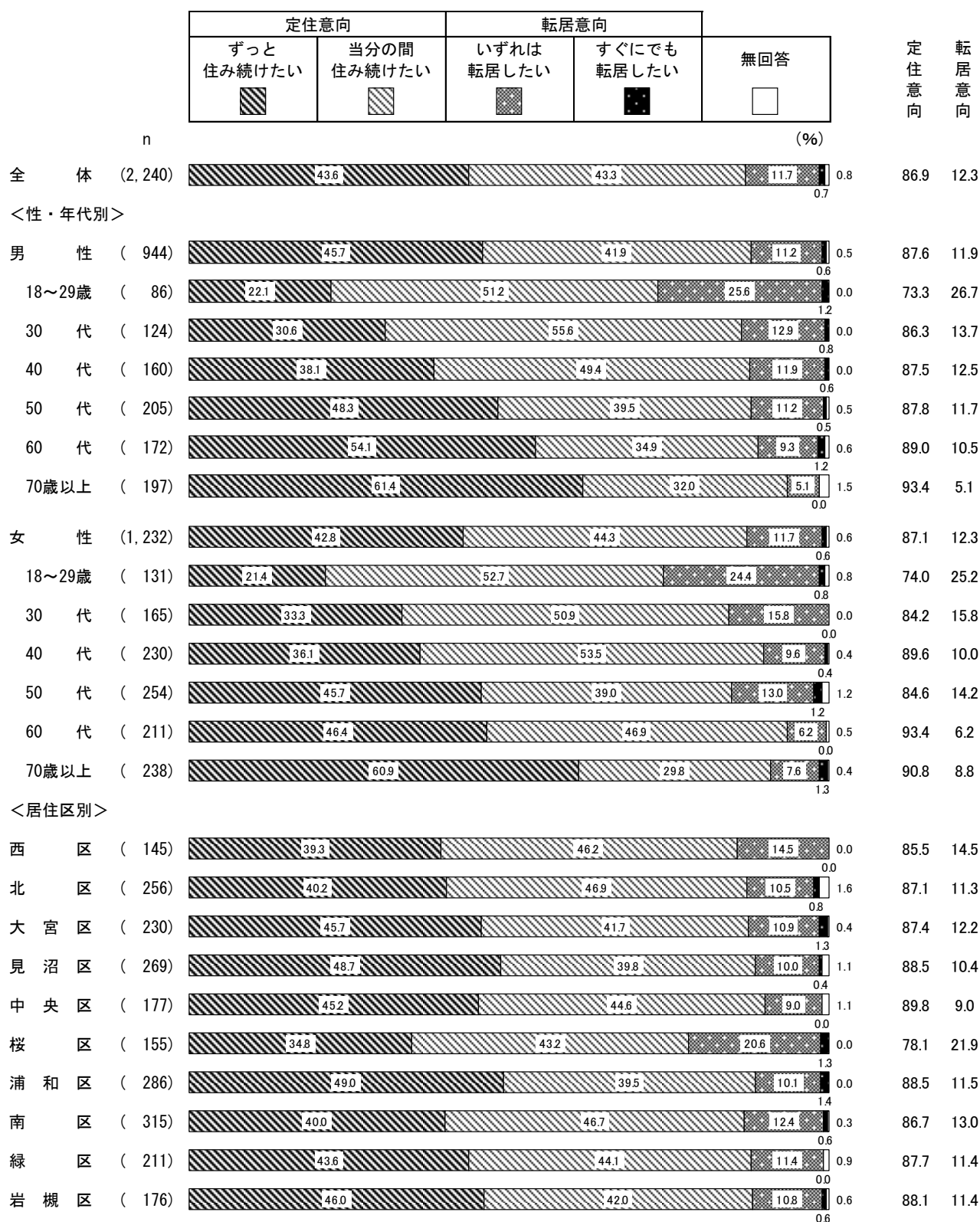


全体結果

「ずっと住みたい」(43.6%)と「当分の間住みたい」(43.3%)を合わせた『定住意向』(86.9%)は、9割近くであった。一方、「いずれは転居したい」(11.7%)と「すぐにでも転居したい」(0.7%)を合わせた『転居意向』(12.3%)は、1割を超えた。

過去4年間の調査結果と、おおむね同じであった。(図2-3-1)

図 2-3-2 定住意向－性・年代別、居住区別－



属性別

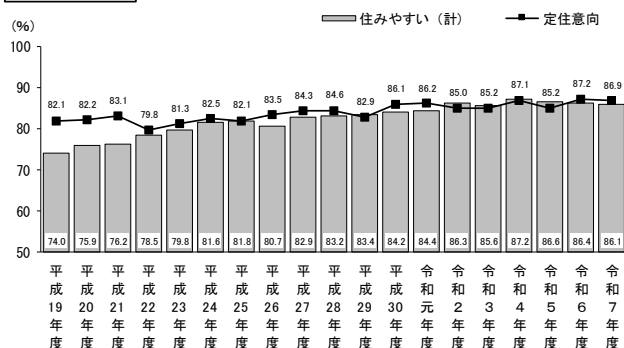
性・年代別でみると、『定住意向』は、男性 70 歳以上 (93.4%)、女性 60 代以上で 9 割台であった。一方、男女とも 18～29 歳は、7 割台であった。

居住区別でみると、『定住意向』は、中央区 (89.8%) が最も高く、桜区 (78.1%) を除き 8 割台であった。(図 2-3-2)

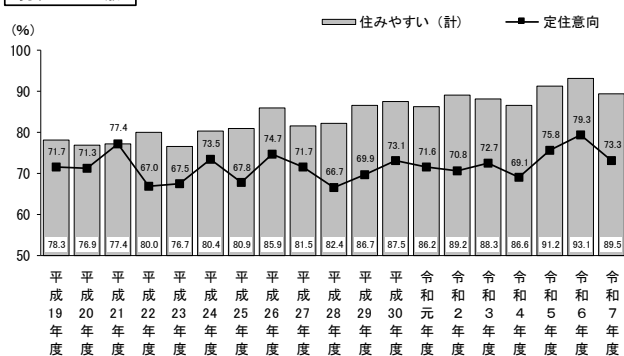
(4) 住みやすさと定住意向の推移

図2-4-1 住みやすさと定住意向の推移－性・年代別－

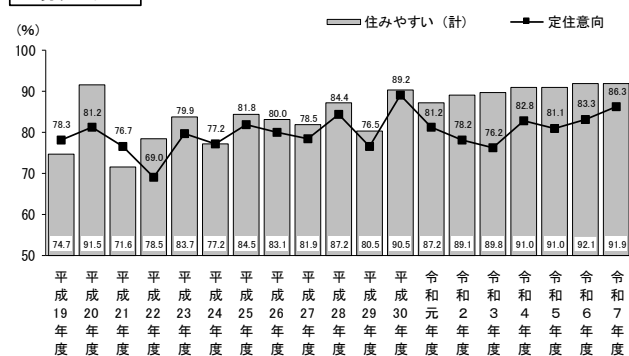
全体結果



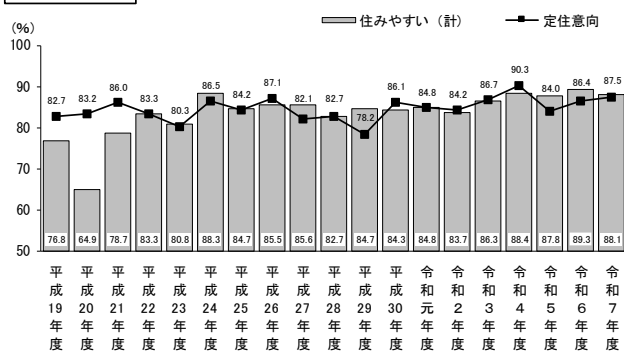
男性18～29歳



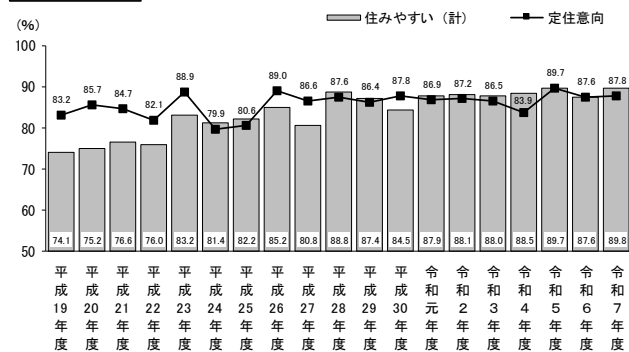
男性30代



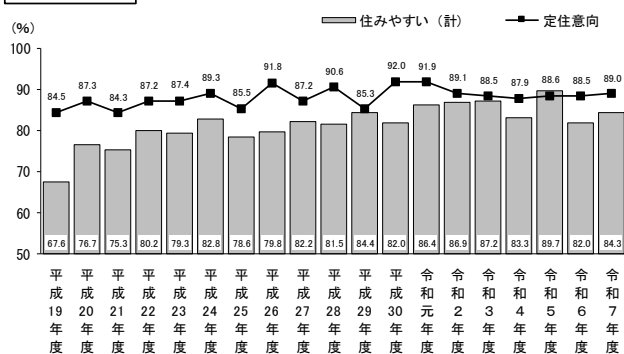
男性40代



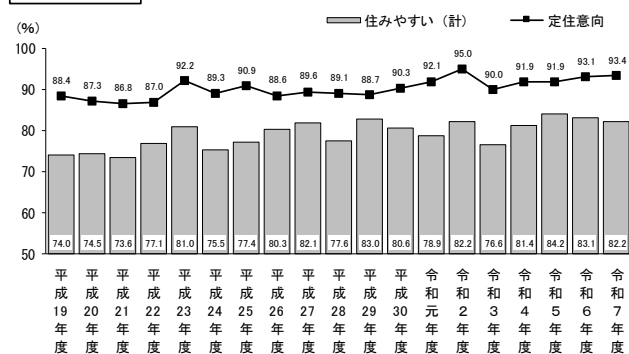
男性50代



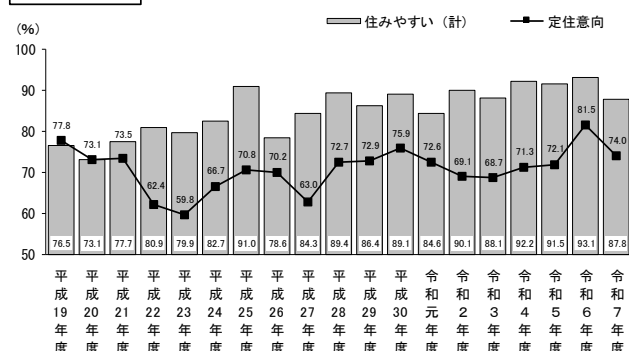
男性60代



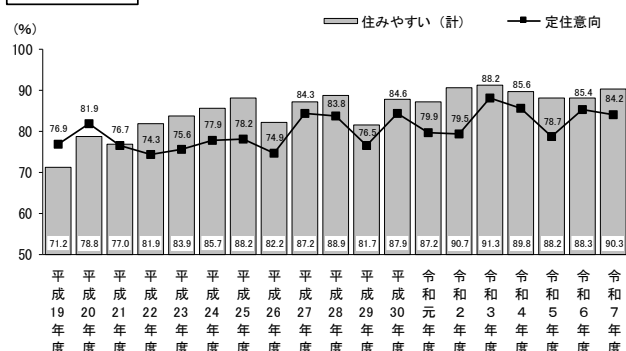
男性70歳以上



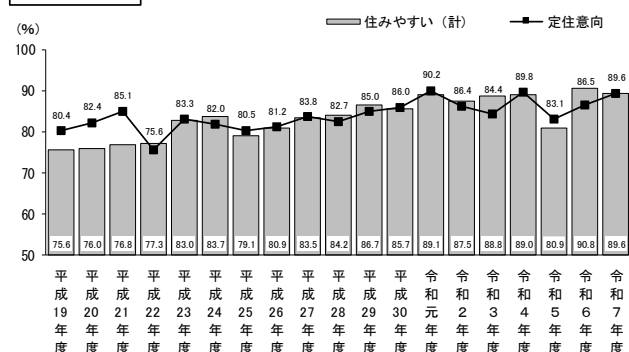
女性18～29歳



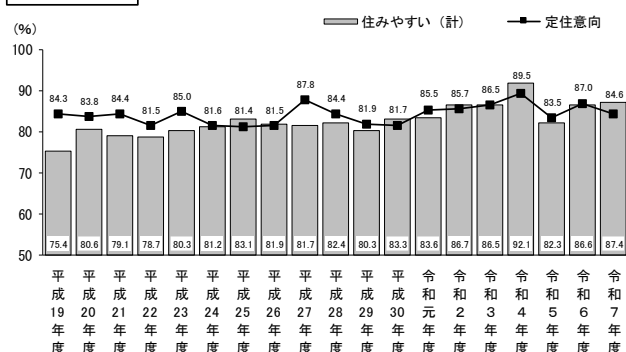
女性30代



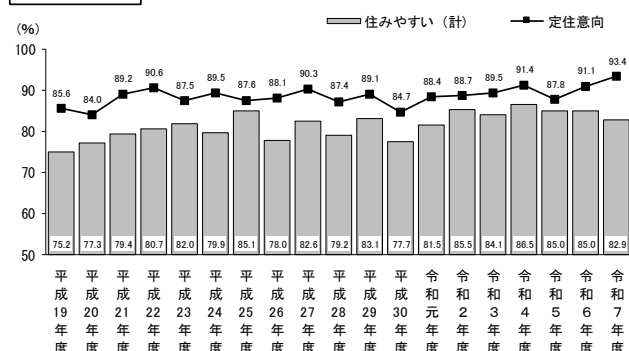
女性40代



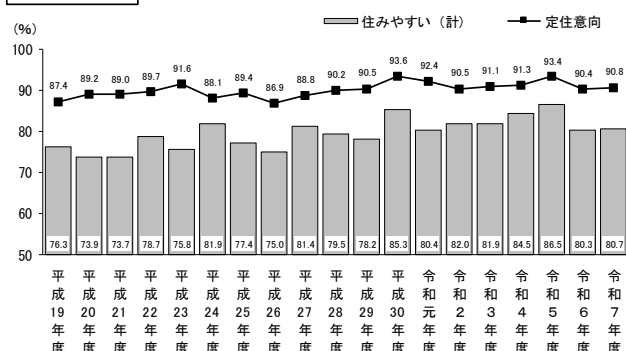
女性50代



女性60代



女性70歳以上



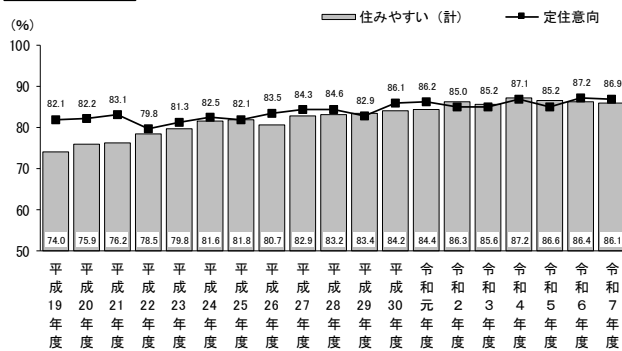
(注記)「男性18～29歳」「女性18～29歳」は、平成27年度までは「男性20～29歳」「女性20～29歳」で集計している。

性・年代別でみると、『住みやすい (計)』は、男女ともすべての年代で平成19年度を上回り、男性60代以下、女性50代以下は10ポイント以上増加した。

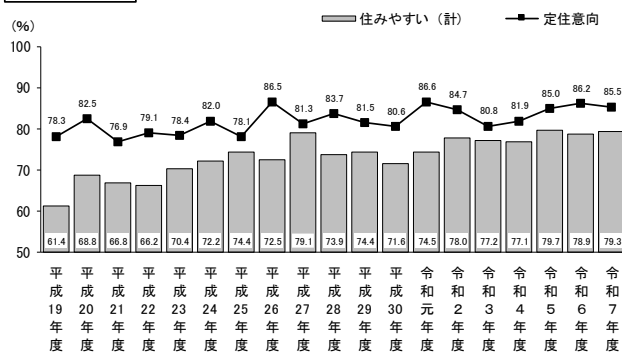
『定住意向』は、男性はすべての年代で平成19年度を上回った。女性は平成19年度と比べ、30代、40代、60代で7ポイント以上高くなる一方、18～29歳は、3.8ポイント減少した。(図2-4-1)

図 2-4-2 住みやすさと定住意向の推移－居住区別－

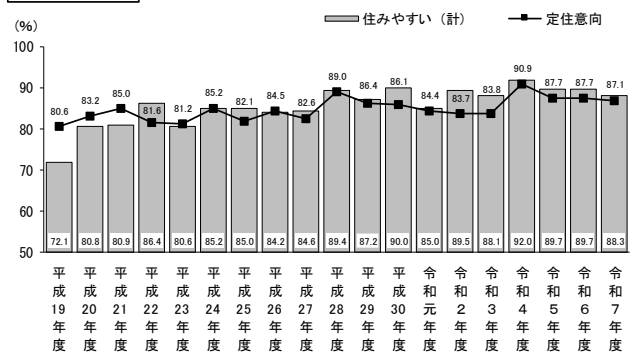
全体結果



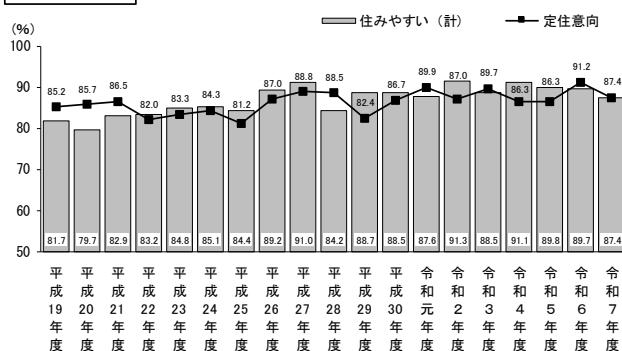
西区



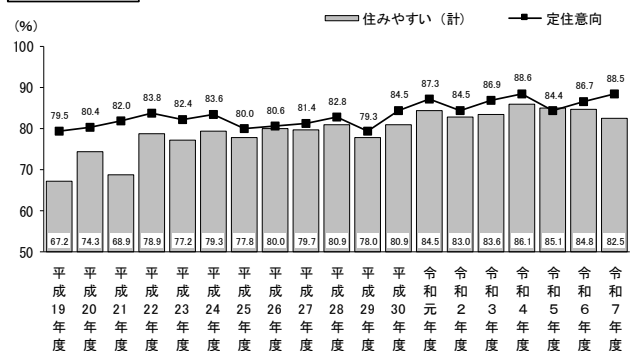
北区



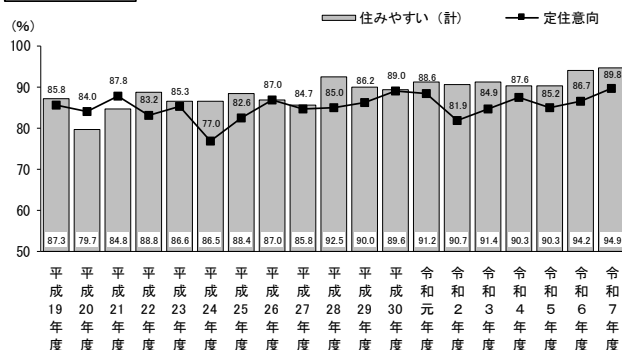
大宮区



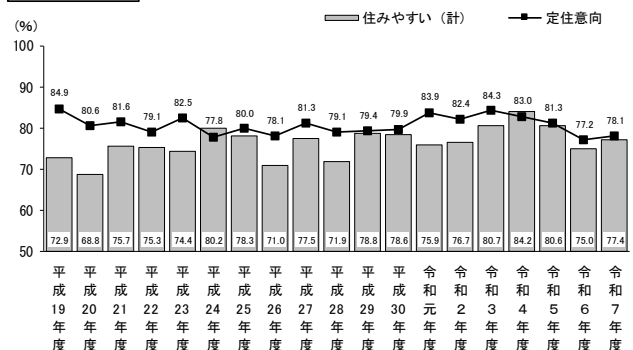
見沼区

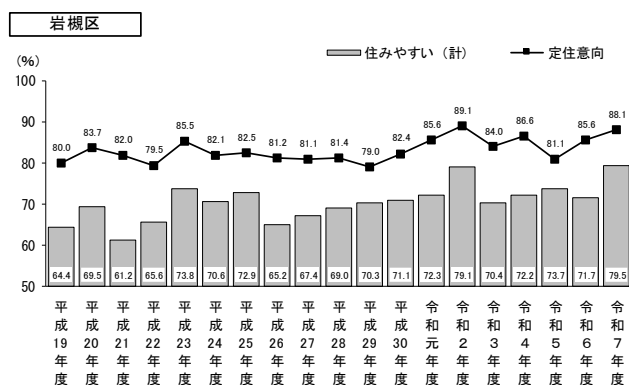
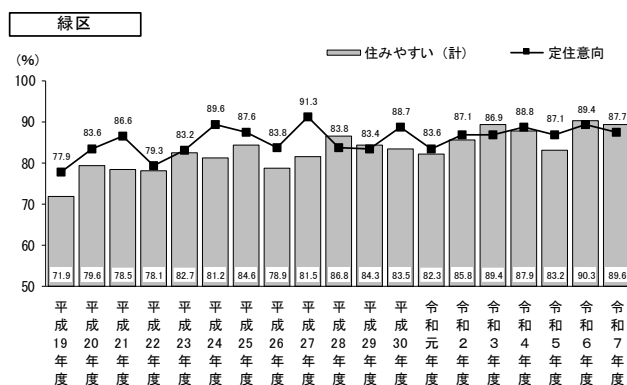
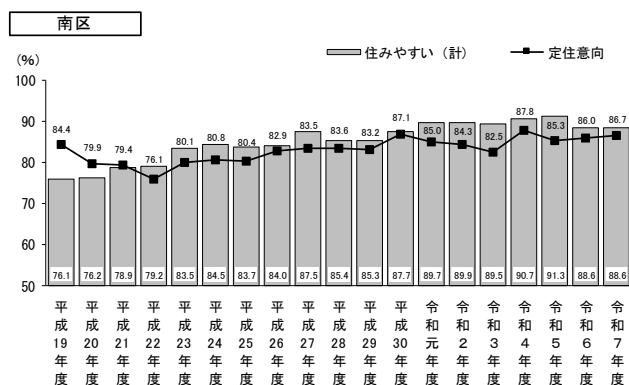
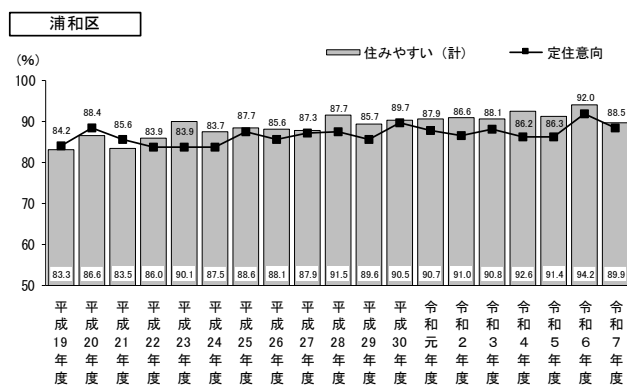


中央区



桜区





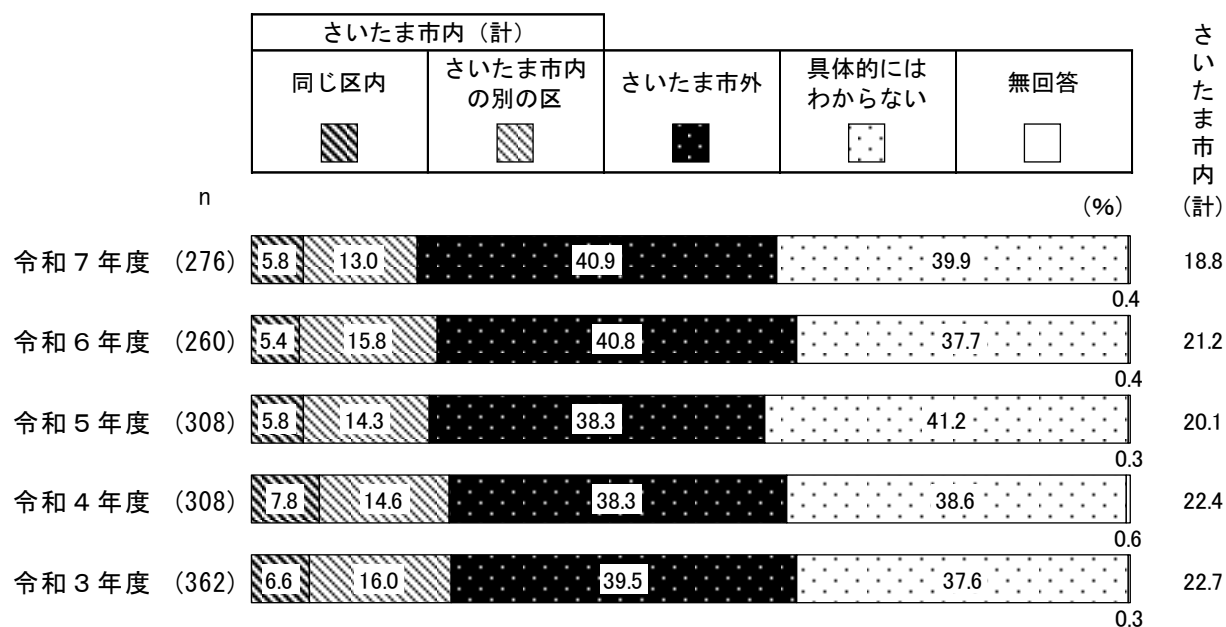
居住区別でみると、『住みやすい (計)』は、すべての区で平成19年度を上回り、10区中6区は10ポイント以上増加した。

『定住意向』は、平成19年度と比べ、緑区 (87.7%) で9.8ポイント、見沼区 (88.5%) で9.0ポイント増加し、10区中9区で平成19年度を上回った。一方、桜区 (78.1%) は、平成19年度と比べ、6.8ポイント減少した。(図2-4-2)

(5) 希望する転居先

(問3で「いずれは転居したい」「すぐにでも転居したい」と答えた方に)
問3-1 どこに転居したいと思いますか。(〇は1つ)

図2-5-1 希望する転居先

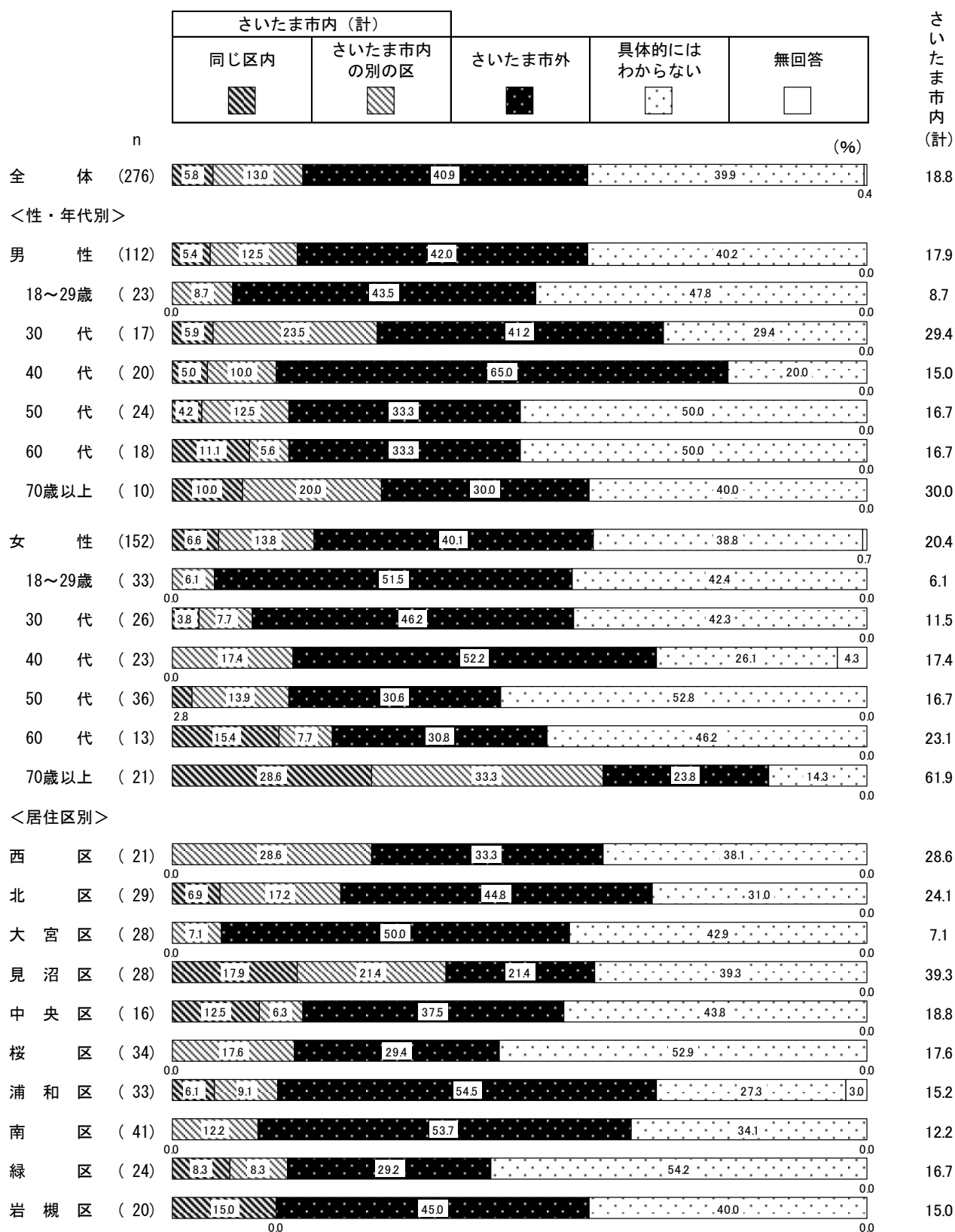


全体結果

「いずれは転居したい」、「すぐにでも転居したい」と答えた人の、希望する転居先は、「さいたま市外」が40.9%で、「同じ区内」(5.8%)と「さいたま市内の別の区」(13.0%)を合わせた『さいたま市内(計)』(18.8%)を上回った。

過去4年間の調査結果と、おおむね同じであった。(図2-5-1)

図 2-5-2 希望する転居先一性・年代別、居住区別一



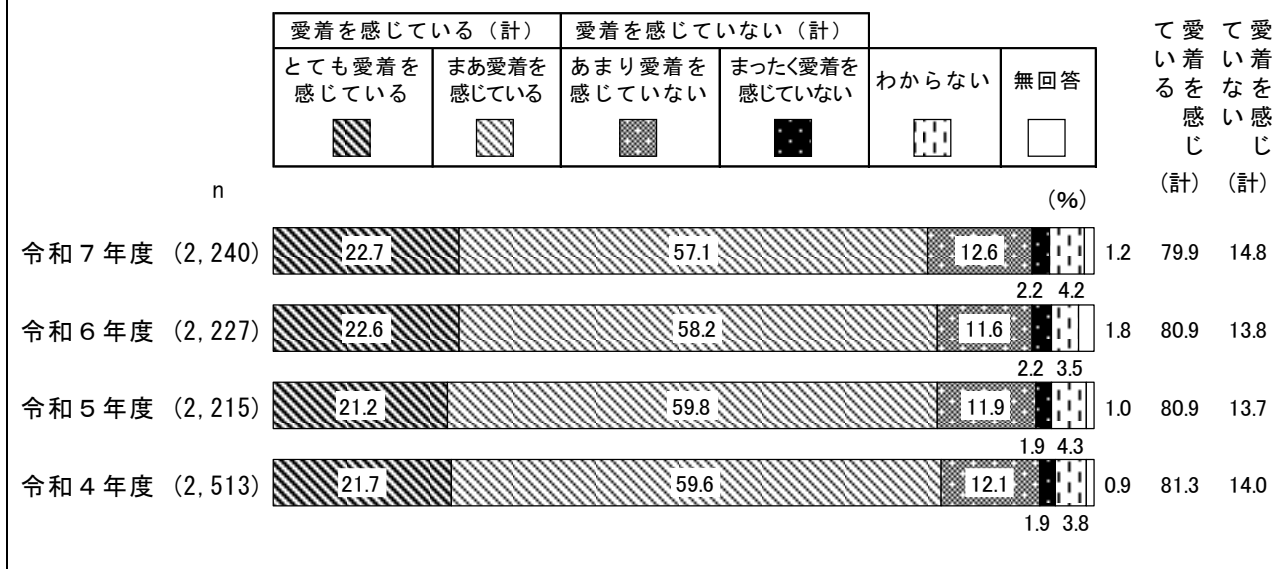
属性別

性別でみると、男女とも「さいたま市外」が4割台で最も高かった。一方、『さいたま市内 (計)』は2割前後であった。(図2-5-2)

(6) 地域への愛着

問4 あなたは、現在お住まいの「地域」に愛着を感じていますか。(○は1つ)

図2-6-1 地域への愛着

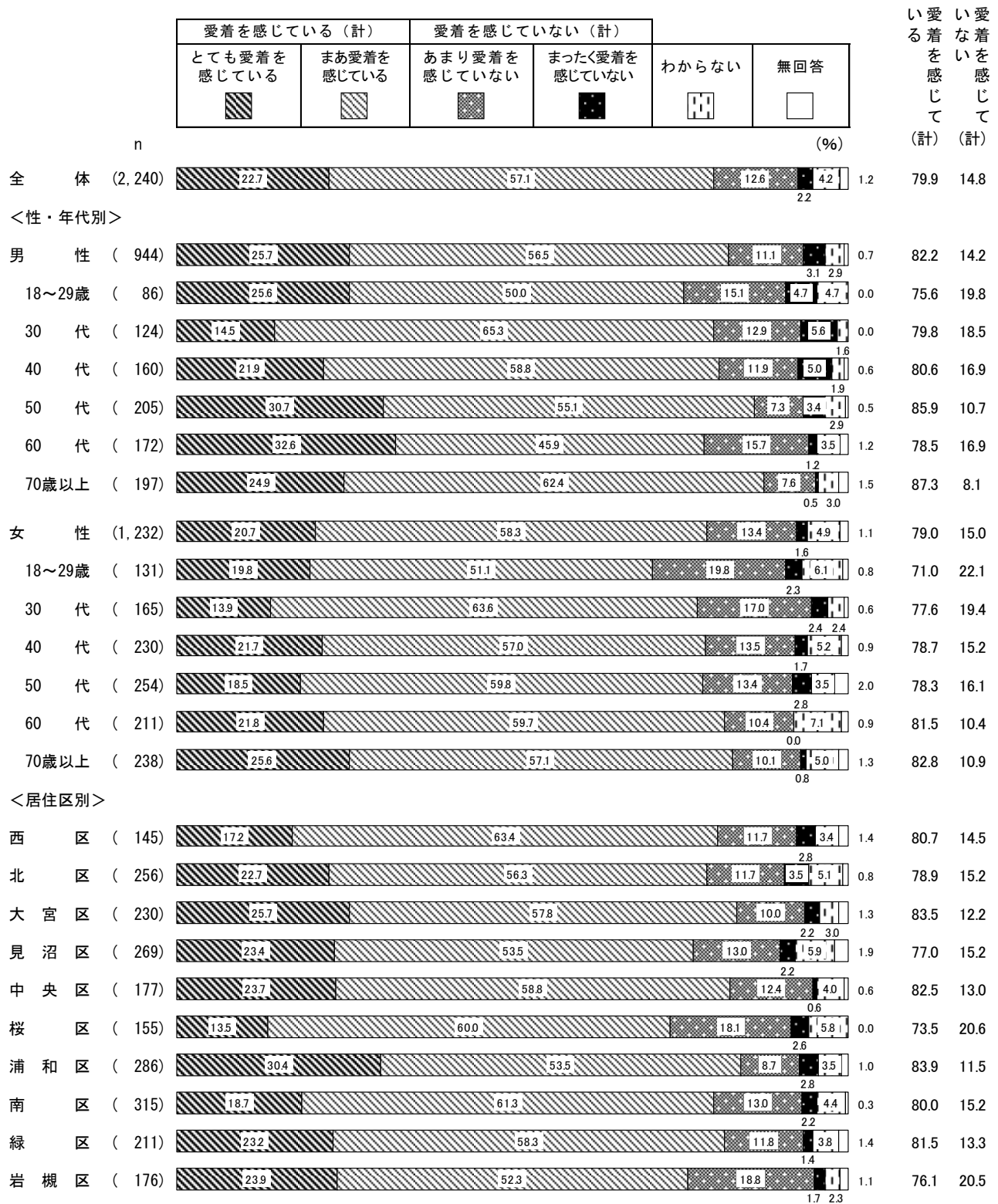


全体結果

「とても愛着を感じている」(22.7%)と「まあ愛着を感じている」(57.1%)を合わせた『愛着を感じている(計)』(79.9%)は、8割であった。一方、「あまり愛着を感じていない」(12.6%)と「まったく愛着を感じていない」(2.2%)を合わせた『愛着を感じていない(計)』(14.8%)は、1割半ばであった。

過去3年間の調査結果と、おおむね同じであった。(図2-6-1)

図 2-6-2 地域への愛着－性・年代別、居住区別－



属 性 別

性・年代別でみると、『愛着を感じている（計）』は、男性 70 歳以上（87.3%）が最も高く、男性 40～50 代、女性 60 代以上も 8 割台であった。

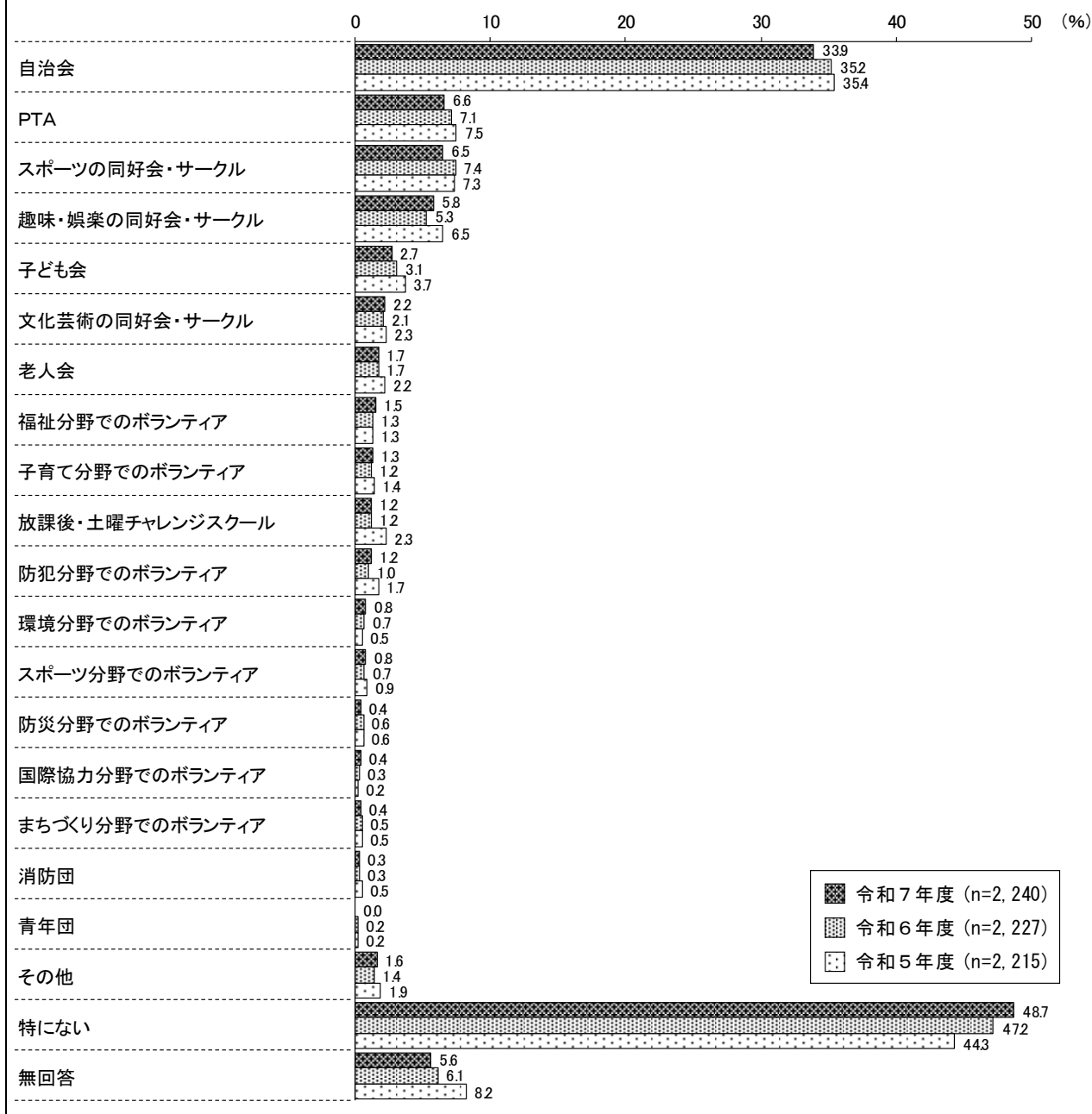
居住区別でみると、『愛着を感じている（計）』は、浦和区（83.9%）が最も高く、10 区中 6 区で 8 割台であった。（図 2-6-2）

(7) 現在参加している地域活動

問5 あなたは、どんな活動に参加していますか。

(1) 現在、参加しているすべての活動に○をつけてください。(○はいくつでも)

図2-7-1 現在参加している地域活動



全体結果

「自治会」(33.9%)が3割を超え最も高く、それ以外の活動はいずれも1割未満であった。一方、「特にない」(48.7%)は、5割近くであった。

過去2年間の調査結果と比較すると、「特にない」が増加傾向にある。(図2-7-1)

表 2-7-1 現在参加している地域活動－性・年代別、居住区別－（上位 11 項目）

												(%)
	n	自治会	P T A	スポーツの同好会・サークル	趣味・サークル・会・サークル	子ども会	文化芸術の同好会・サークル	老人会	福祉分野でのボランティア	子育て分野でのボランティア	放課後・土曜チャレンジスクール	ティアド分野でのボランティア
全 体	2,240	33.9	6.6	6.5	5.8	2.7	2.2	1.7	1.5	1.3	1.2	1.2
<性・年代別>												
男 性	944	32.5	3.8	6.0	3.3	1.5	1.9	2.1	0.6	0.4	1.3	1.8
18～29歳	86	9.3	—	3.5	2.3	—	1.2	—	—	2.3	—	—
30 代	124	21.8	4.0	2.4	—	2.4	—	—	—	—	3.2	—
40 代	160	27.5	13.8	5.0	2.5	4.4	1.3	—	0.6	—	1.3	—
50 代	205	33.7	3.4	8.8	1.5	2.0	1.5	—	0.5	0.5	1.0	0.5
60 代	172	33.1	1.2	5.8	3.5	—	2.3	1.2	1.2	—	0.6	2.9
70歳以上	197	51.8	—	7.6	8.1	—	4.1	9.1	1.0	0.5	1.5	5.6
女 性	1,232	35.4	8.8	7.0	7.6	3.7	2.4	1.5	2.2	1.9	1.2	0.7
18～29歳	131	6.9	—	4.6	2.3	—	0.8	—	—	—	—	—
30 代	165	24.8	10.9	1.8	1.8	6.7	0.6	—	—	1.2	3.6	1.2
40 代	230	34.3	30.0	1.7	3.9	12.6	0.9	—	0.4	3.0	0.9	1.7
50 代	254	35.0	8.3	4.3	3.1	2.4	2.4	0.4	2.4	2.8	0.8	—
60 代	211	45.0	0.5	10.9	9.5	—	3.8	0.5	2.8	2.4	1.4	0.9
70歳以上	238	51.3	—	16.4	21.4	—	5.0	6.7	5.9	0.8	0.8	0.4
<居住区別>												
西 区	145	43.4	7.6	6.2	3.4	2.8	2.1	2.8	2.1	—	1.4	1.4
北 区	256	30.9	5.5	4.7	6.3	1.6	1.6	2.3	2.0	0.4	—	0.8
大 宮 区	230	31.3	9.1	6.1	6.1	3.0	1.3	2.2	1.3	1.3	0.4	1.3
見 沼 区	269	37.9	4.8	7.1	8.6	0.7	1.5	2.6	2.2	—	0.7	1.1
中 央 区	177	25.4	9.6	7.9	3.4	5.6	2.8	1.1	2.3	3.4	2.8	—
桜 区	155	34.2	5.2	7.1	5.2	0.6	1.3	1.9	1.3	1.3	1.3	3.2
浦 和 区	286	29.7	7.3	6.6	7.3	5.6	3.5	0.7	1.7	2.1	1.7	2.1
南 区	315	28.3	5.4	4.8	4.4	2.5	2.9	0.6	0.3	1.6	0.3	0.3
緑 区	211	39.8	9.0	8.1	4.3	3.3	2.8	—	—	1.4	2.4	—
岩 槻 区	176	44.9	4.0	8.0	6.3	0.6	1.7	4.0	2.3	2.3	2.3	2.3

属 性 別

性・年代別でみると、「自治会」は、女性では、年代が上がるにつれ高くなり、70 歳以上は、男女とも 5 割台であった。また、「P T A」は、女性 40 代（30.0%）で 3 割、「趣味・娯楽の同好会・サークル」は、女性 70 歳以上（21.4%）で、2 割を超えた。

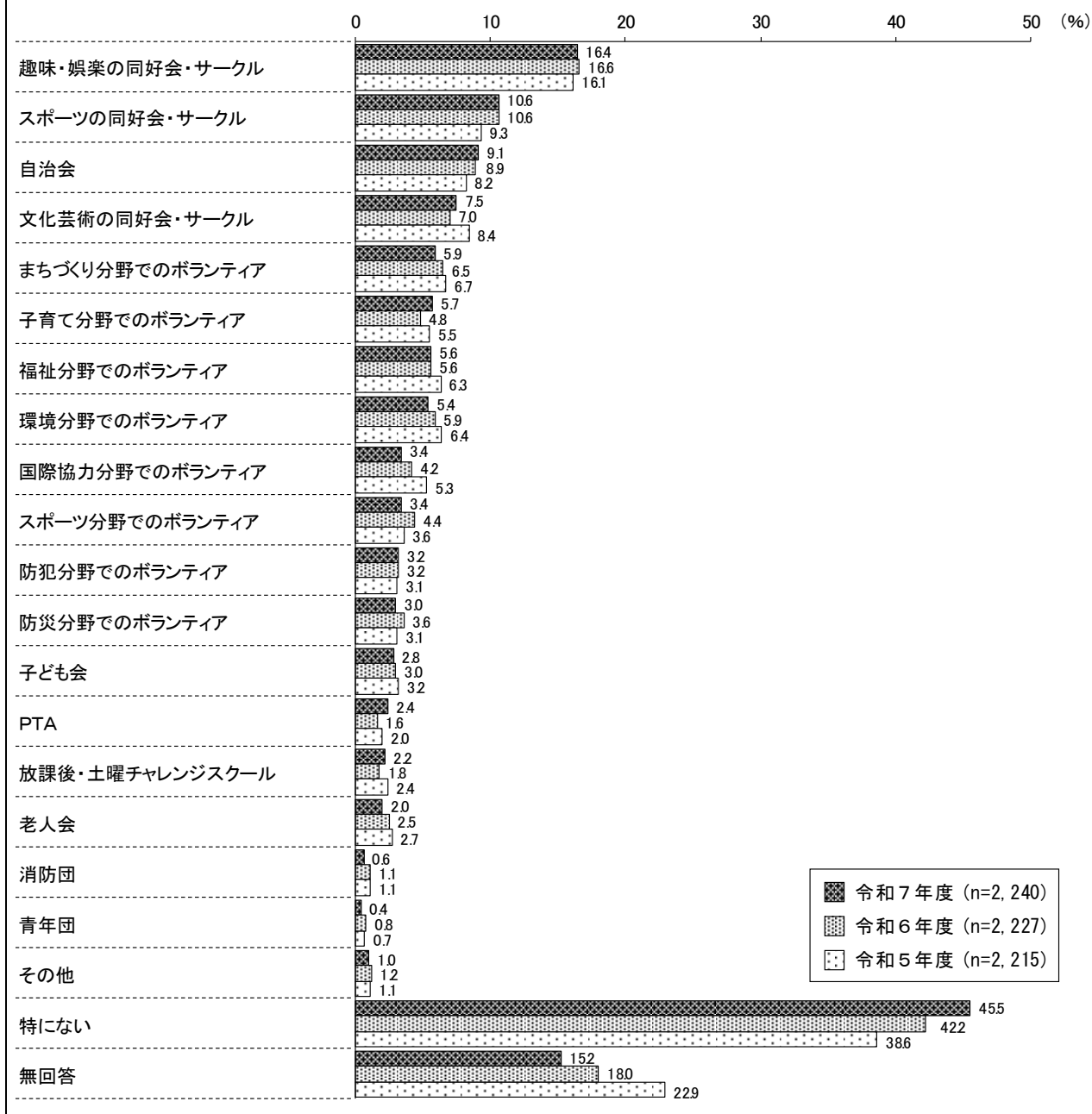
居住区別でみると、「自治会」は、岩槻区（44.9%）、西区（43.4%）で 4 割台となる一方、中央区（25.4%）、南区（28.3%）、浦和区（29.7%）は 2 割台であった。（表 2-7-1）

(8) 今後参加したい地域活動

問5 あなたは、どんな活動に参加していますか。

(2) 今後、参加したいと思うすべての活動に○をつけてください。引き続き参加したい活動も含みます。(○はいくつでも)

図2-8-1 今後参加したい地域活動



全体結果

「趣味・娯楽の同好会・サークル」(16.4%)、「スポーツの同好会・サークル」(10.6%)が1割台で、それ以外の活動はいずれも1割未満であった。一方、「特にない」(45.5%)は、4割半ばであった。

過去2年間の調査結果と比較すると、「特にない」が増加傾向にある。(図2-8-1)

表 2－8－1 今後参加したい地域活動－性・年代別、居住区別－（上位 10 項目）

											(%)
	n	会趣味・サークルの同好	スポーツの同好会・	自治会	文化芸術の同好会・	まちづくり分野での	子育て分野でのボラ	福祉分野でのボラン	環境分野でのボラン	国際協力分野でのボ	スポーツ分野でのボ
全 体	2,240	16.4	10.6	9.1	7.5	5.9	5.7	5.6	5.4	3.4	3.4
<性・年代別>											
男 性	944	13.8	11.8	9.9	5.1	6.8	3.7	3.7	5.9	3.6	5.5
18～29歳	86	8.1	11.6	5.8	－	5.8	3.5	－	－	4.7	5.8
30 代	124	12.9	11.3	11.3	7.3	5.6	8.1	4.0	3.2	1.6	2.4
40 代	160	8.1	11.3	11.9	3.8	6.3	1.9	1.9	3.8	5.0	6.9
50 代	205	18.0	14.6	8.8	5.9	7.8	2.4	2.9	6.3	4.4	7.3
60 代	172	15.1	11.0	11.0	6.4	7.0	6.4	5.8	8.1	5.2	7.6
70歳以上	197	15.7	10.2	9.1	5.1	7.1	1.5	5.6	9.6	1.0	2.5
女 性	1,232	18.6	9.8	8.8	9.4	5.4	7.4	7.2	5.1	3.2	2.0
18～29歳	131	9.9	6.9	3.1	6.9	4.6	6.1	2.3	1.5	0.8	2.3
30 代	165	8.5	9.7	9.1	4.2	4.8	10.3	1.2	4.2	4.8	1.8
40 代	230	14.3	7.4	10.4	6.5	4.3	10.4	5.2	3.0	3.5	2.6
50 代	254	19.7	11.4	6.7	11.8	7.9	6.7	9.4	6.3	3.9	2.8
60 代	211	25.6	10.9	11.4	12.3	5.7	8.1	10.4	6.6	5.2	2.4
70歳以上	238	27.3	11.3	10.1	12.2	4.2	3.4	10.5	7.1	0.8	0.4
<居住区別>											
西 区	145	12.4	6.9	8.3	4.8	3.4	5.5	4.1	4.1	－	1.4
北 区	256	13.3	11.3	7.0	7.4	7.0	4.7	5.5	5.1	5.1	3.9
大 宮 区	230	15.2	7.4	7.0	5.7	5.2	7.4	4.3	6.5	3.0	2.2
見 沼 区	269	19.0	11.5	7.4	8.2	5.6	3.7	6.7	5.6	3.0	2.6
中 央 区	177	18.1	14.1	10.7	10.2	8.5	10.2	9.6	7.3	4.5	5.1
桜 区	155	16.1	9.0	8.4	4.5	5.2	3.2	3.2	5.2	3.9	4.5
浦 和 区	286	18.9	10.8	8.7	9.1	7.7	9.4	5.6	4.9	2.8	3.1
南 区	315	14.6	9.5	10.2	7.0	5.7	4.1	5.4	5.1	4.8	4.8
緑 区	211	17.5	12.8	12.8	8.5	2.8	4.7	4.7	5.7	1.9	2.8
岩 槻 区	176	18.2	12.5	11.4	8.5	6.8	4.0	6.3	4.5	4.0	4.0

属 性 別

性・年代別でみると、「趣味・娯楽の同好会・サークル」、「文化芸術の同好会・サークル」は、女性が男性より 4 ポイント以上高かった。また、「趣味・娯楽の同好会・サークル」は、女性 60 代以上で 2 割台であった。

居住区別でみると、すべての区で「趣味・娯楽の同好会・サークル」が最も高くなっているが、いずれも 1 割台であった。（表 2－8－1）

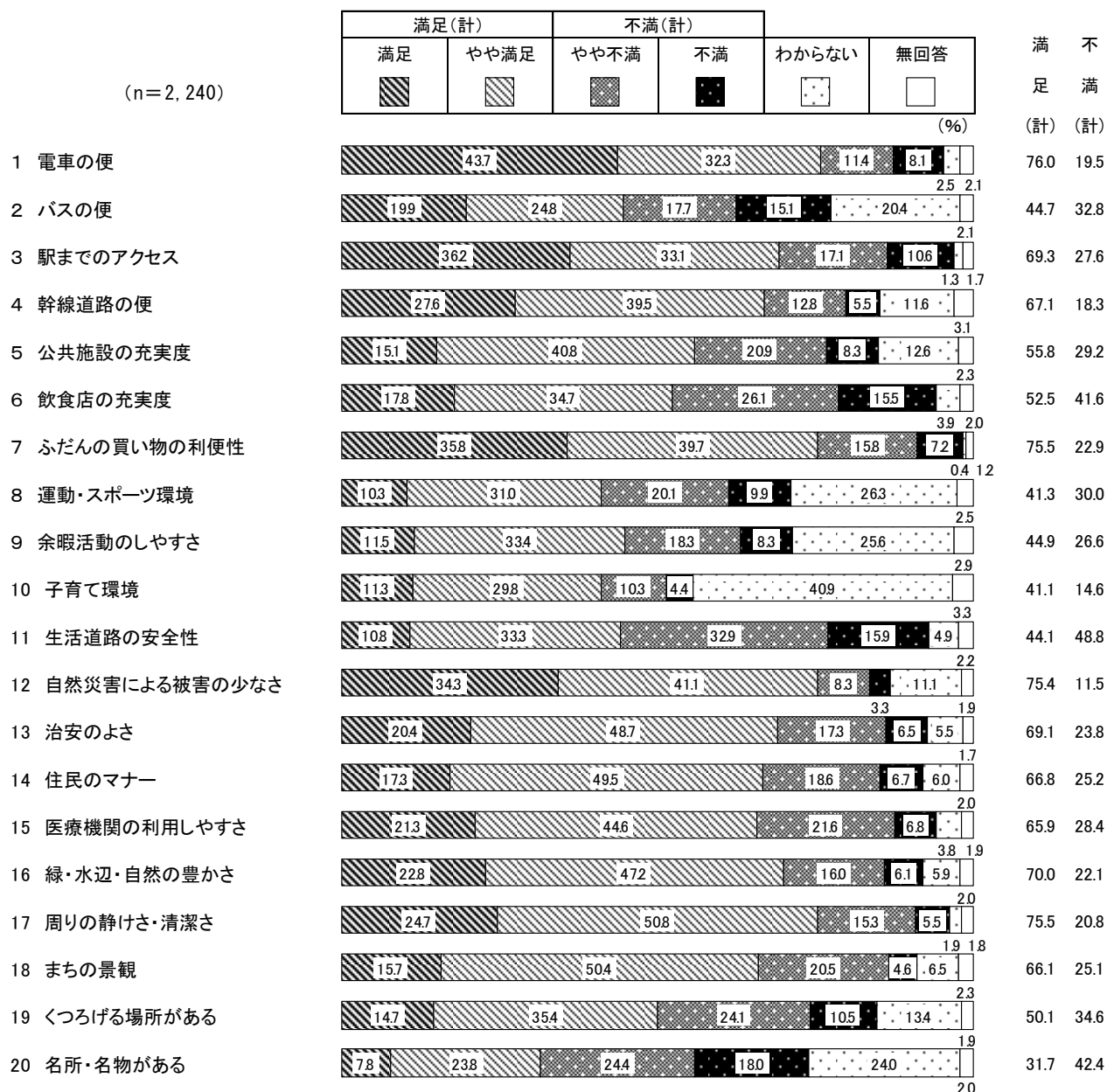
(9) 居住地域の満足度と今後の発展の方向性

問6 あなたの現在お住まいの「地域」について質問します。

(1) あなたは、お住まいの「地域」について、どの程度満足していますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

図2-9-1 居住地域の満足度



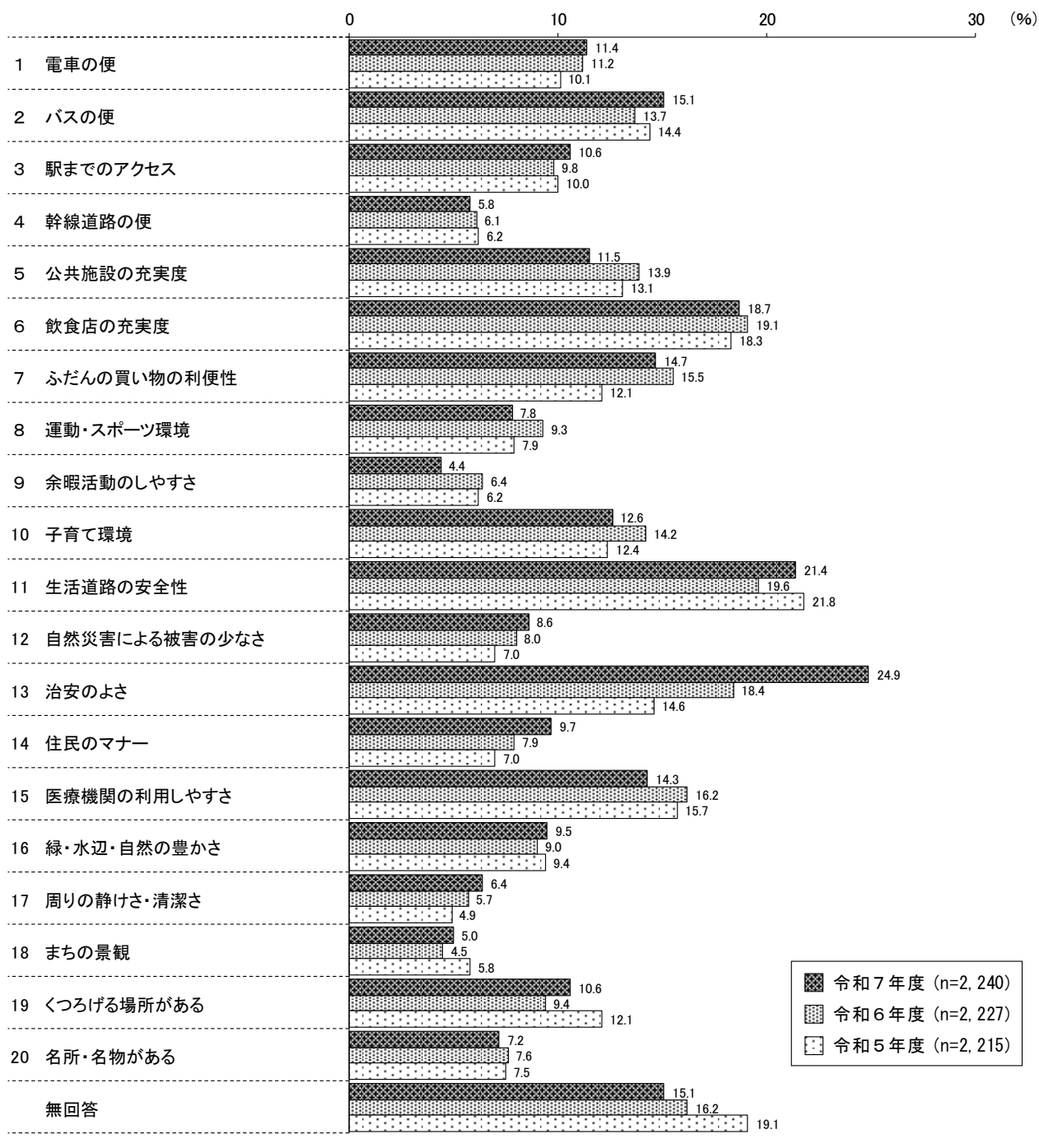
全体結果

「満足」と「やや満足」を合わせた『満足(計)』は、「電車の便」が76.0%で最も高く、「ふだんの買い物の利便性」、「周りの静けさ・清潔さ」(ともに75.5%)、「自然災害による被害の少なさ」(75.4%)が続く、20項目中14項目で5割を超えた。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満(計)』は、「生活道路の安全性」が48.8%で最も高く、「名所・名物がある」(42.4%)、「飲食店の充実度」(41.6%)が続いた。(図2-9-1)

問6 あなたの現在お住まいの「地域」について質問します。

(2) あなたは、お住まいの「地域」が、今後どのような方向へ発展してほしいと思いますか。
(○は3つまで)

図2-9-2 居住地域の今後の発展の方向性



全体結果

「治安のよさ」が24.9%で最も高く、「生活道路の安全性」(21.4%)、「飲食店の充実度」(18.7%)が続いた。

過去2年間の調査結果と比較すると、「治安のよさ」、「住民マナー」(9.7%)などは増加傾向にあり、令和6年度と比べ、「治安のよさ」は6.5ポイント増加した。(図2-9-2)

20 項目に分けて質問した「居住地域の満足度」にあてはまる割合（「満足」、「やや満足」、「やや不満」、「不満」の4段階）を得点化し、スコアを算出して比較を行った。

満足	+ 2
やや満足	+ 1
わからない	0
やや不満	- 1
不満	- 2

居住地域の満足度と今後の発展の方向性は、表 2－9－1 に示した 4 分野・20 項目を設定している。

表 2－9－1 居住地域の満足度と今後の発展の方向性（質問項目）

分野	質問項目
交通利便	1 電車の便
	2 バスの便
	3 駅までのアクセス
	4 幹線道路の便
生活利便	5 公共施設の充実度
	6 飲食店の充実度
	7 ふだんの買い物の利便性
	8 運動・スポーツ環境
	9 余暇活動のしやすさ
	10 子育て環境
安心・安全	11 生活道路の安全性
	12 自然災害による被害の少なさ
	13 治安のよさ
	14 住民のマナー
	15 医療機関の利用しやすさ
快適さ・親しみ	16 緑・水辺・自然の豊かさ
	17 周りの静けさ・清潔さ
	18 まちの景観
	19 くつろげる場所がある
	20 名所・名物がある

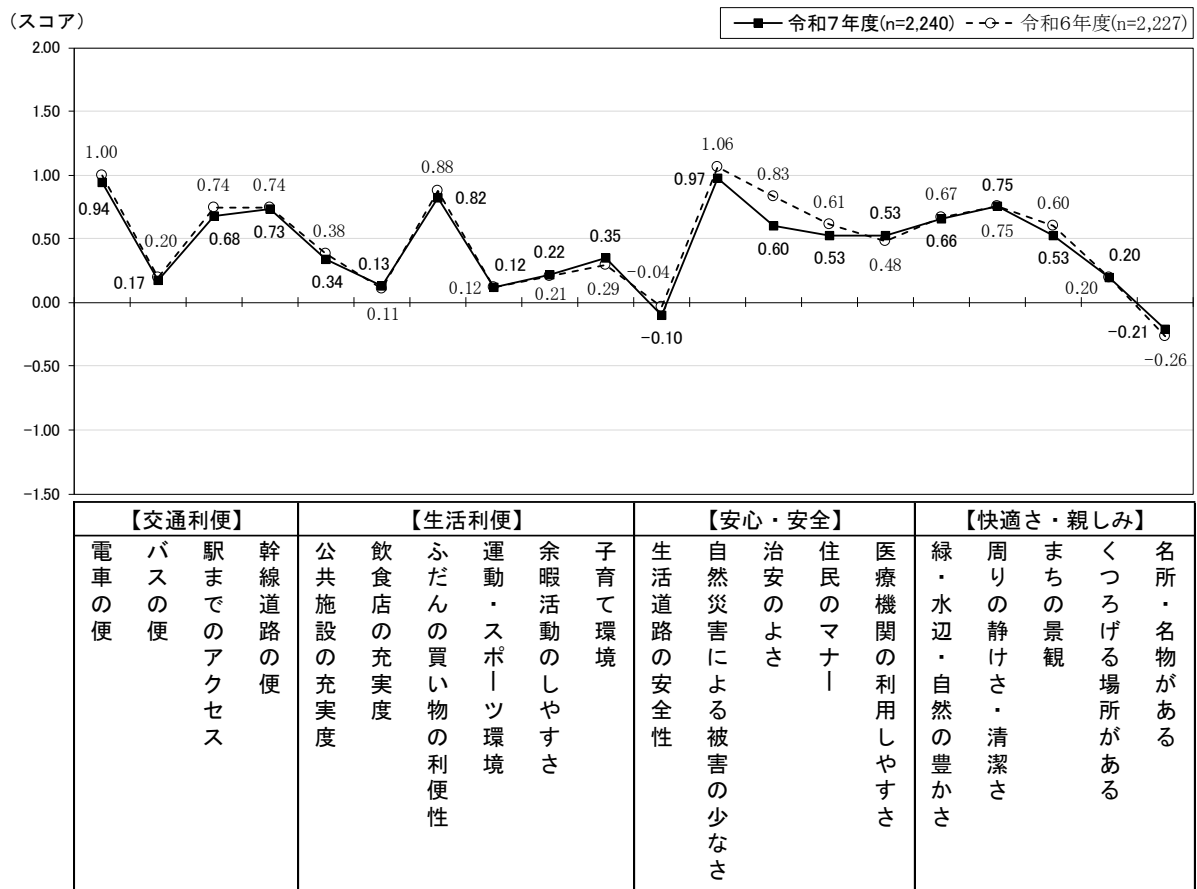
「居住地域の満足度」のスコアを算出した結果は表２－９－２のとおりである。「居住地域の今後の発展の方向性」の回答比率と合わせて示した。

表２－９－２ 居住地域の満足度と今後の発展の方向性（全体結果）

分野	質問項目	(１) 居住地域の満足度	(２) 今後の発展の方向性 (%)
交通利便	１ 電車の便	0.94	11.4
	２ バスの便	0.17	15.1
	３ 駅までのアクセス	0.68	10.6
	４ 幹線道路の便	0.73	5.8
生活利便	５ 公共施設の充実度	0.34	11.5
	６ 飲食店の充実度	0.13	18.7
	７ ふだんの買い物の利便性	0.82	14.7
	８ 運動・スポーツ環境	0.12	7.8
	９ 余暇活動のしやすさ	0.22	4.4
	１０ 子育て環境	0.35	12.6
安心・安全	１１ 生活道路の安全性	-0.10	21.4
	１２ 自然災害による被害の少なさ	0.97	8.6
	１３ 治安のよさ	0.60	24.9
	１４ 住民のマナー	0.53	9.7
	１５ 医療機関の利用しやすさ	0.53	14.3
快適さ・ 親しみ	１６ 緑・水辺・自然の豊かさ	0.66	9.5
	１７ 周りの静けさ・清潔さ	0.75	6.4
	１８ まちの景観	0.53	5.0
	１９ くつろげる場所がある	0.20	10.6
	２０ 名所・名物がある	-0.21	7.2

図２－９－３～図２－９－２４は、「居住地域の満足度」のスコアと、「居住地域の今後の発展の方向性」の回答比率を、全体結果および居住区別に算出したものである。

図 2－9－3 居住地域の満足度（全体結果）



令和7年度

満足(計) (%)	76.0	44.7	69.3	67.1	55.8	52.5	75.5	41.3	44.9	41.1	44.1	75.4	69.1	66.8	65.9	70.0	75.5	66.1	50.1	31.7
不満(計) (%)	19.5	32.8	27.6	18.3	29.2	41.6	22.9	30.0	26.6	14.6	48.8	11.5	23.8	25.2	28.4	22.1	20.8	25.1	34.6	42.4

令和6年度

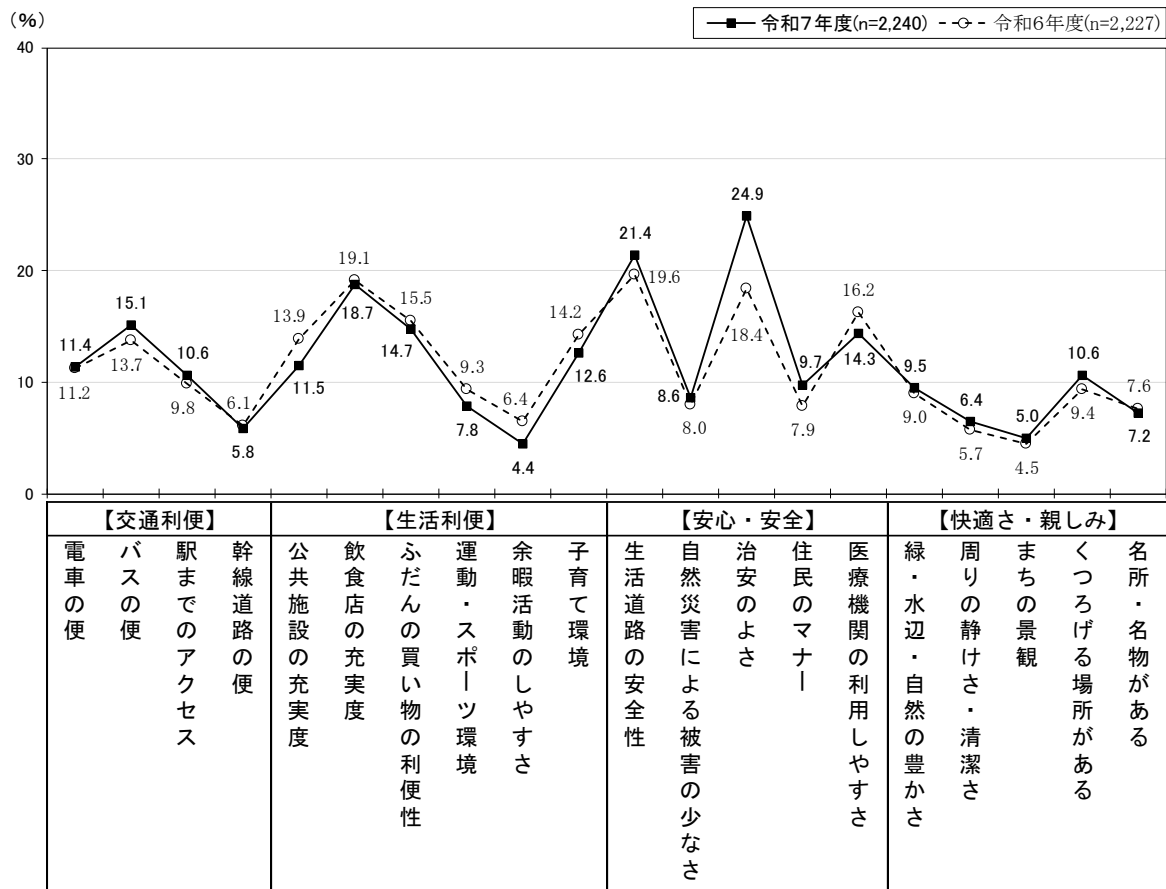
満足(計) (%)	76.7	45.0	70.4	65.9	56.2	51.1	76.7	41.4	44.6	38.1	46.4	78.3	76.2	69.1	64.0	70.0	75.0	68.3	49.5	30.2
不満(計) (%)	18.9	31.7	26.1	17.5	28.4	42.6	21.1	31.2	28.0	17.0	47.5	10.1	17.0	23.3	30.1	23.1	20.8	23.4	35.2	43.9

全体結果

居住地域の満足度をスコアでみると、「自然災害による被害の少なさ」が 0.97 で最も高く、「電車の便」(0.94)、「ふだんの買い物の利便性」(0.82)が続いた。「名所・名物がある」(-0.21)、「生活道路の安全性」(-0.10)はマイナスとなった。

令和6年度の調査結果と、おおむね同じであった。(図 2－9－3)

図 2－9－4 居住地域の今後の発展の方向性（全体結果）

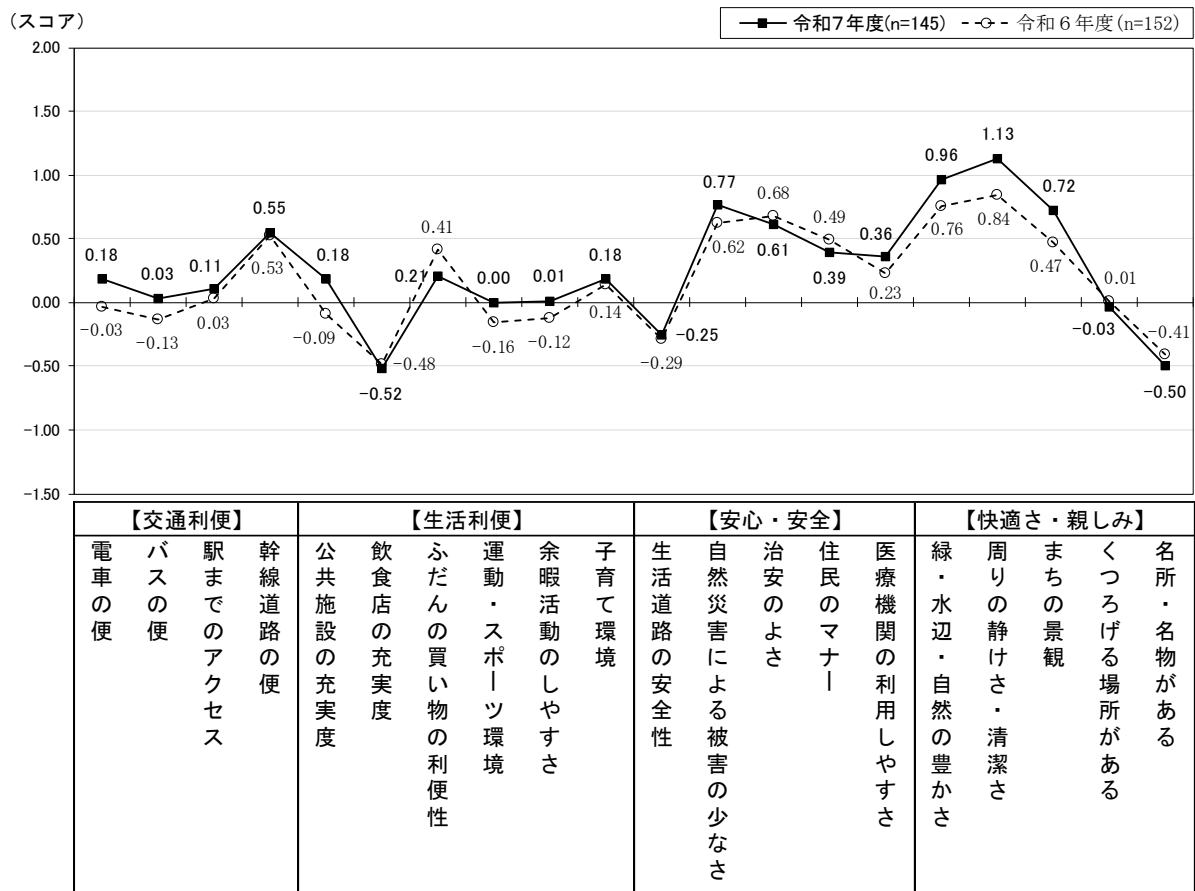


全体結果

居住地域の今後の発展の方向性をみると、「治安のよさ」が 24.9%で最も高く、「生活道路の安全性」(21.4%)、「飲食店の充実度」(18.7%)が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「治安のよさ」は6.5ポイント増加した。(図2－9－4)

図 2-9-5 居住地域の満足度（西区）



令和7年度

満足(計)(%)	51.7	47.6	54.5	64.1	49.0	30.3	55.9	40.0	40.7	35.9	39.3	71.7	70.3	62.8	61.4	79.3	89.7	75.2	41.4	20.7
不満(計)(%)	42.8	41.4	43.4	22.8	33.8	62.1	42.1	37.2	35.2	20.7	52.4	17.2	22.1	27.6	31.7	14.5	6.9	17.2	40.0	51.0

令和6年度

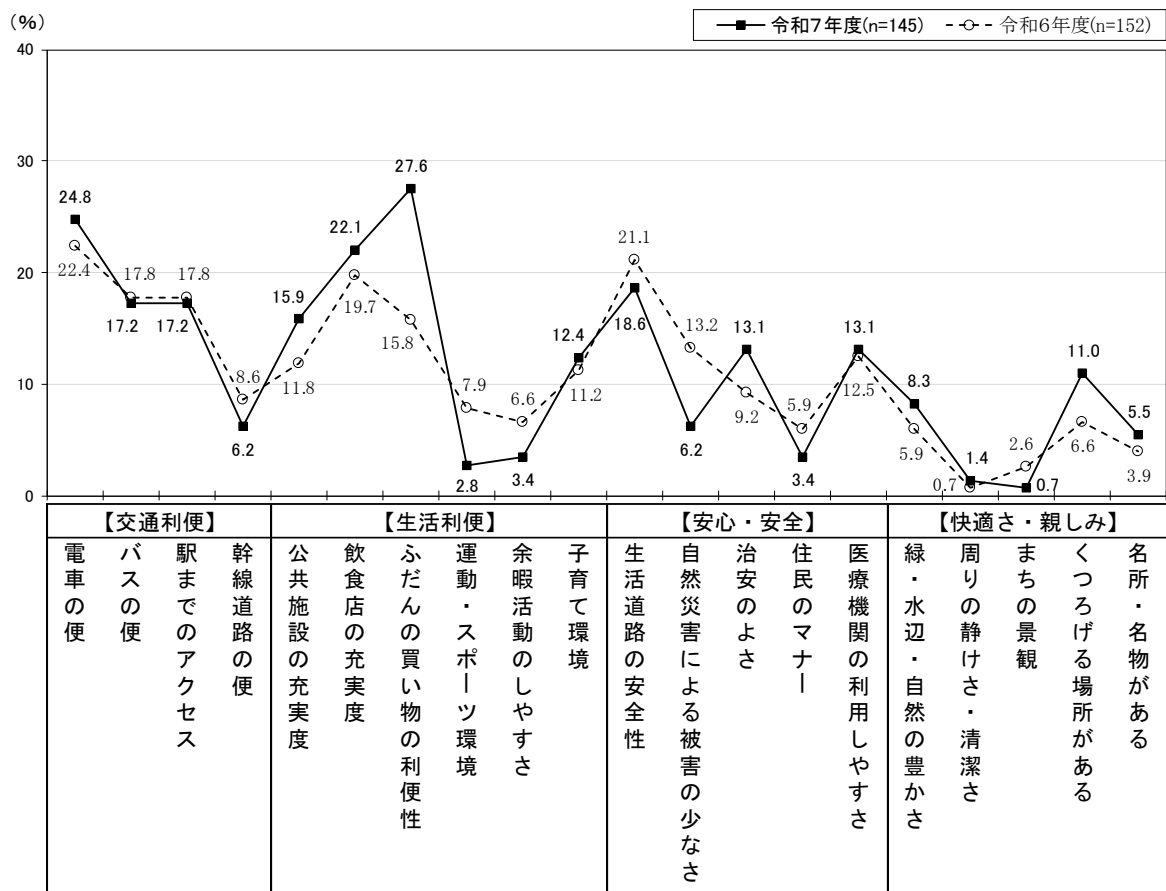
満足(計)(%)	44.7	42.1	49.3	59.2	42.1	30.9	59.9	34.9	34.2	30.9	36.2	67.1	70.4	60.5	55.3	72.4	78.3	57.9	38.2	23.0
不満(計)(%)	47.4	47.4	45.4	25.7	44.7	64.5	36.8	42.8	40.8	22.4	53.3	23.0	20.4	25.0	36.8	19.1	15.8	27.0	40.1	46.7

西 区

居住地域の満足度をスコアでみると、「周りの静けさ・清潔さ」が1.13で最も高く、「緑・水辺・自然の豊かさ」(0.96)、「自然災害による被害の少なさ」(0.77)が続いた。「飲食店の充実度」(-0.52)、「名所・名物がある」(-0.50)、「生活道路の安全性」(-0.25)、「くつろげる場所がある」(-0.03)はマイナスとなった。

令和6年度の調査結果と、おおむね同じであった。(図2-9-5)

図 2－9－6 居住地域の今後の発展の方向性（西区）

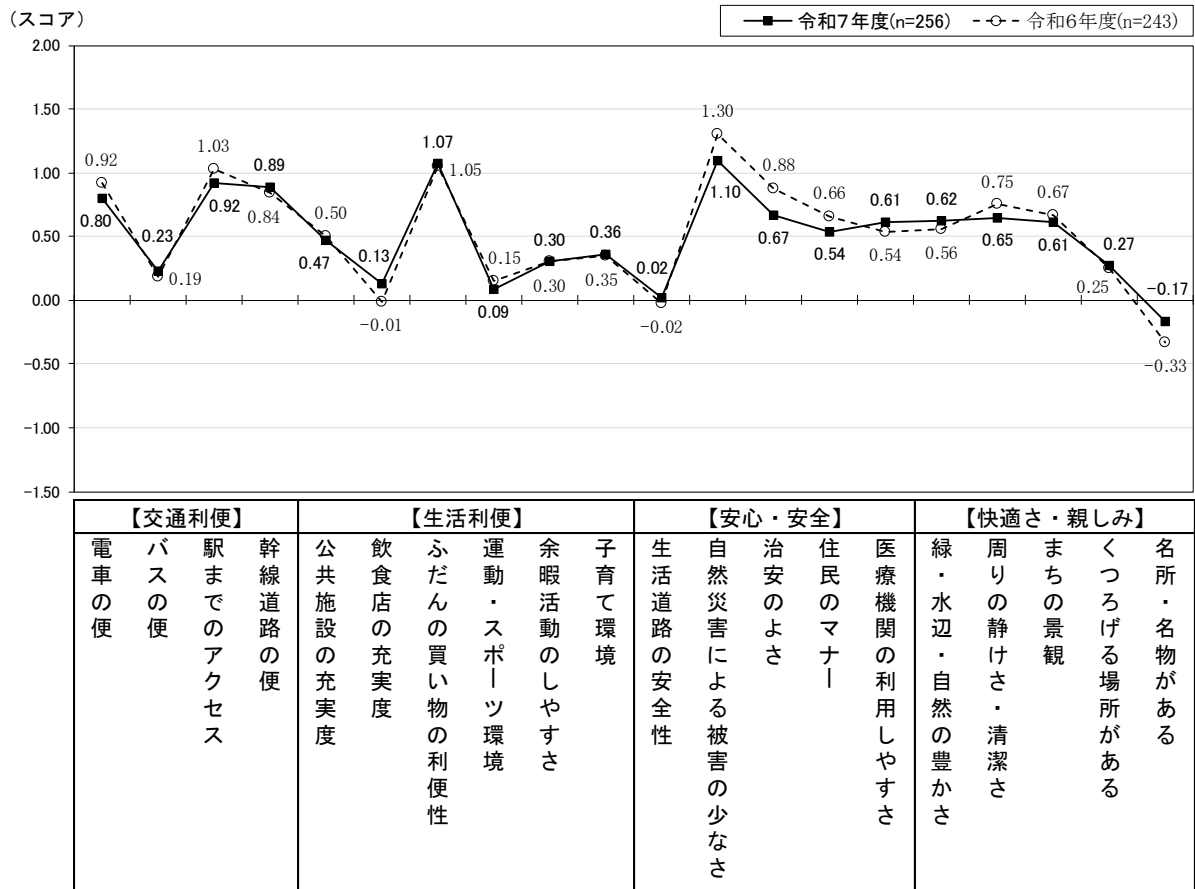


西 区

居住地域の今後の発展の方向性をみると、「ふだんの買い物の利便性」が27.6%で最も高く、「電車の便」(24.8%)、「飲食店の充実度」(22.1%)が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「ふだんの買い物の利便性」は11.8ポイント、「くつろげる場所がある」(11.0%)は4.4ポイント、「公共施設の充実度」(15.9%)は4.1ポイント、「治安のよさ」(13.1%)は3.9ポイント増加した。一方、「自然災害による被害の少なさ」(6.2%)は7.0ポイント、「運動・スポーツ環境」(2.8%)は5.1ポイント、「余暇活動のしやすさ」(3.4%)は3.2ポイント減少した。(図2－9－6)

図 2-9-7 居住地域の満足度（北区）



令和7年度

満足(計) (%)	73.4	43.8	75.4	71.9	61.3	53.5	82.8	40.2	46.5	39.5	46.1	77.0	72.7	68.4	70.3	70.7	74.6	70.7	52.7	30.5
不満(計) (%)	23.8	29.7	21.9	12.9	25.0	43.4	16.8	28.1	21.1	12.1	46.5	9.8	22.3	23.4	25.8	22.3	23.4	21.9	29.7	39.5

令和6年度

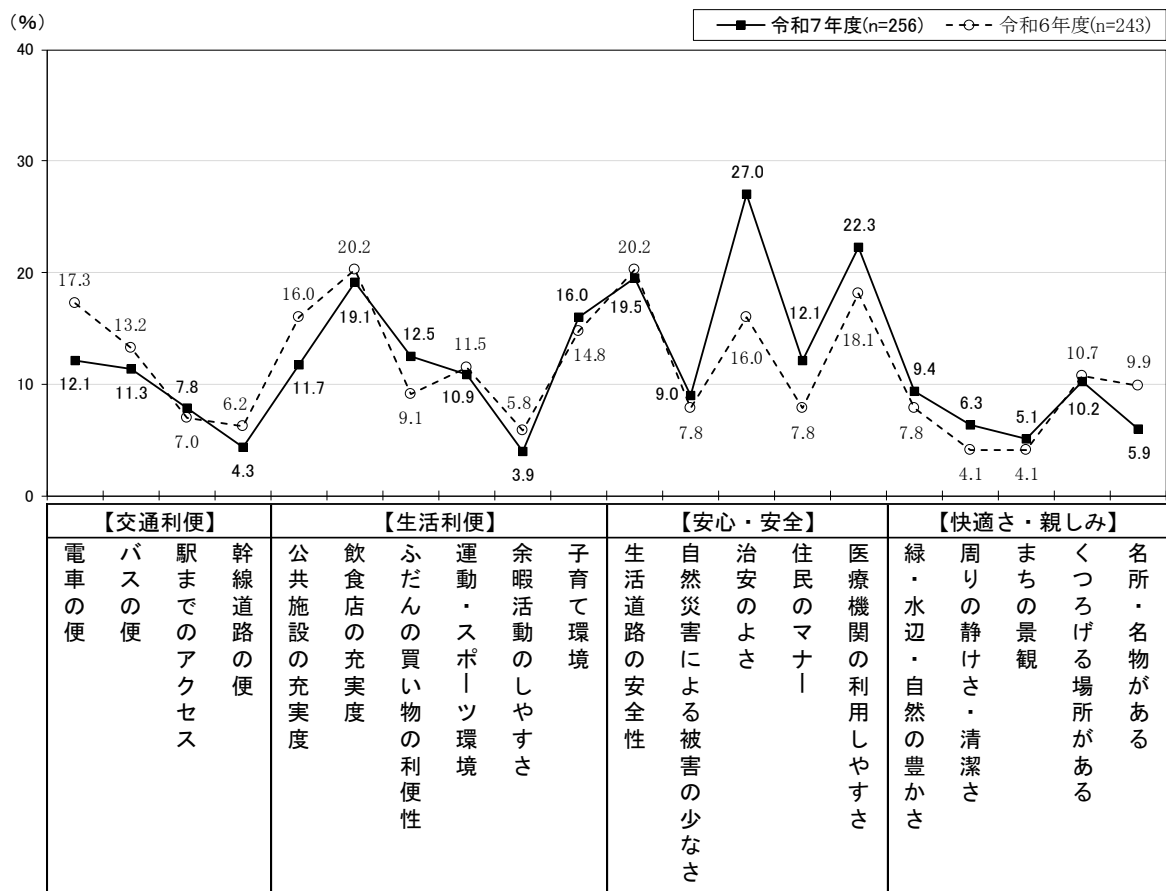
満足(計) (%)	76.5	47.3	81.5	70.8	64.6	49.0	82.7	43.6	47.3	42.0	48.6	88.5	79.8	73.7	68.3	68.7	77.8	74.1	53.5	27.6
不満(計) (%)	20.6	32.1	16.5	13.2	25.1	47.3	16.0	31.3	25.5	16.0	48.1	3.7	15.6	21.4	27.2	26.7	20.6	20.6	32.5	46.1

北 区

居住地域の満足度をスコアでみると、「自然災害による被害の少なさ」が 1.10 で最も高く、「ふだんの買い物の利便性」(1.07)、「駅までのアクセス」(0.92)が続いた。「名所・名物がある」(-0.17)はマイナスとなった。

令和 6 年度の調査結果と、おおむね同じであった。(図 2-9-7)

図 2－9－8 居住地域の今後の発展の方向性（北区）

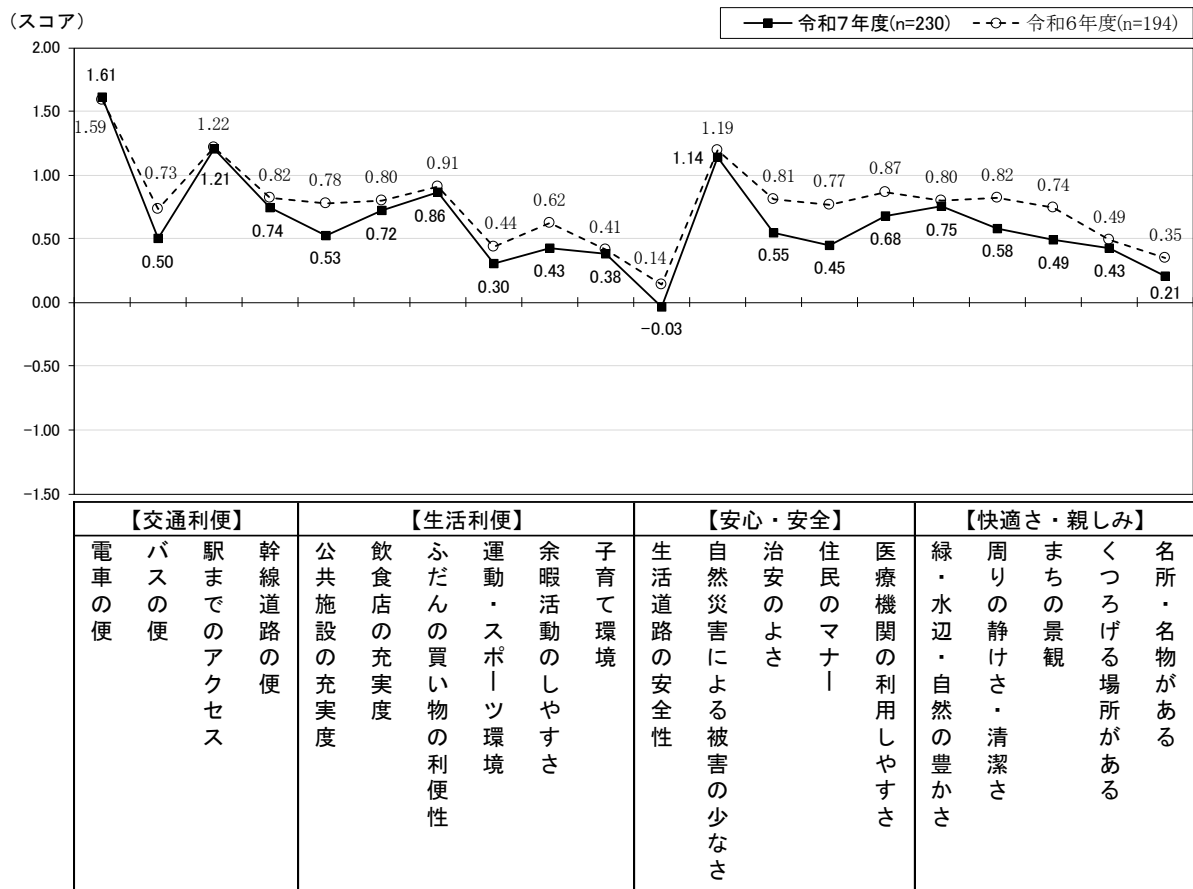


北 区

居住地域の今後の発展の方向性をみると、「治安のよさ」が 27.0%で最も高く、「医療機関の利用しやすさ」（22.3%）、「生活道路の安全性」（19.5%）が続いた。

令和 6 年度の調査結果と比較すると、「治安のよさ」は 11.0 ポイント、「住民のマナー」（12.1%）は 4.3 ポイント、「医療機関の利用しやすさ」は 4.2 ポイント、「ふだんの買い物の利便性」（12.5%）は 3.4 ポイント増加した。一方、「電車の便」（12.1%）は 5.2 ポイント、「公共施設の充実度」（11.7%）は 4.3 ポイント、「名所・名物がある」（5.9%）は 4.0 ポイント減少した。（図 2－9－8）

図 2－9－9 居住地域の満足度（大宮区）



令和7年度

満足(計) (%)	93.9	54.3	84.8	67.0	62.6	73.0	75.2	51.7	55.2	41.3	49.6	81.7	67.8	66.1	70.0	73.5	70.4	63.9	59.1	50.4
不満(計) (%)	4.8	22.6	13.9	21.3	23.9	23.0	24.3	26.5	25.2	14.3	46.5	7.8	27.8	29.1	25.2	20.4	27.4	27.8	29.1	31.7

令和6年度

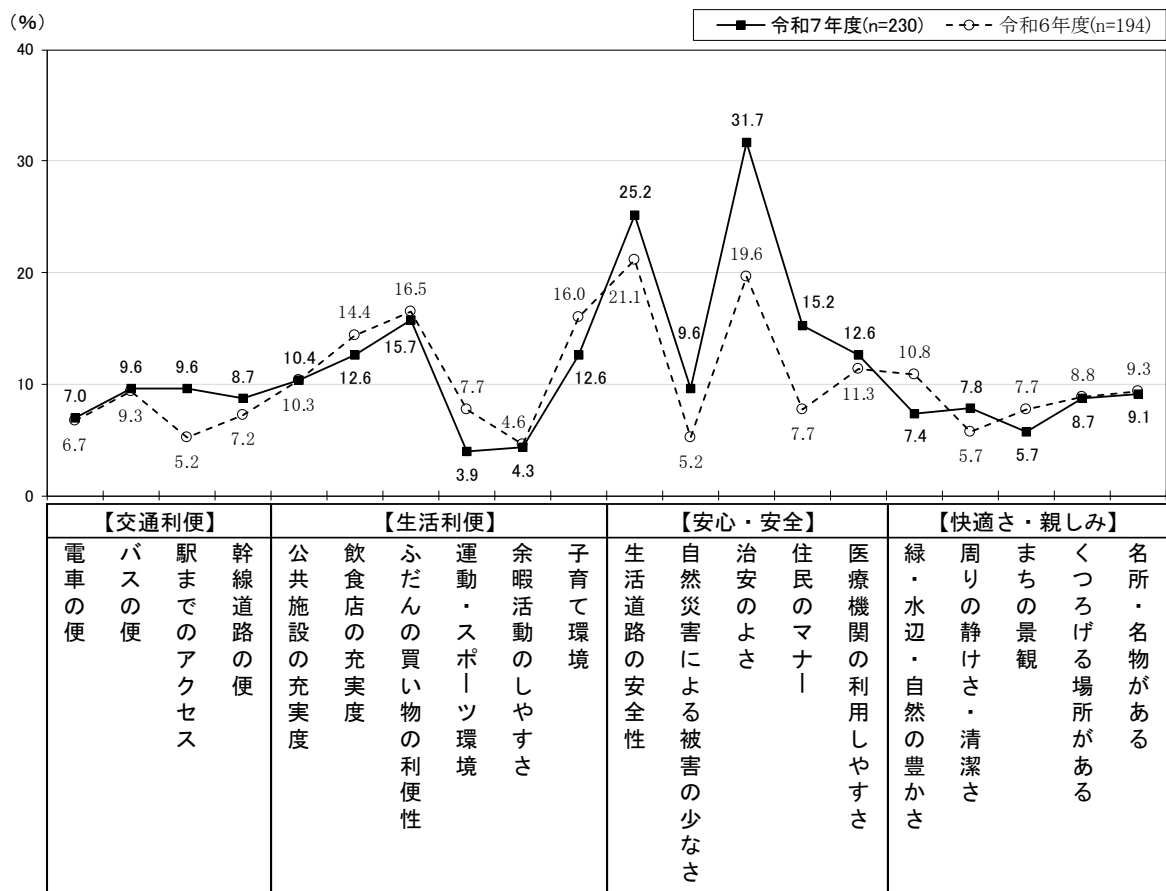
満足(計) (%)	91.8	59.8	83.0	69.1	69.1	73.2	77.8	55.2	61.9	42.3	53.6	80.4	74.2	74.2	77.3	72.7	76.3	76.3	62.4	57.2
不満(計) (%)	5.7	18.6	13.9	18.6	20.6	24.2	20.6	22.7	18.6	14.9	43.3	8.8	21.6	20.1	19.6	21.1	22.2	21.1	30.9	30.4

大宮区

居住地域の満足度をスコアでみると、「電車の便」が1.61で最も高く、「駅までのアクセス」(1.21)、「自然災害による被害の少なさ」(1.14)が続いた。「生活道路の安全性」(-0.03)はマイナスとなった。令和6年度の調査結果と比較すると、「住民のマナー」(0.45)は0.32ポイント減少した。

(図 2－9－9)

図 2－9－10 居住地域の今後の発展の方向性（大宮区）

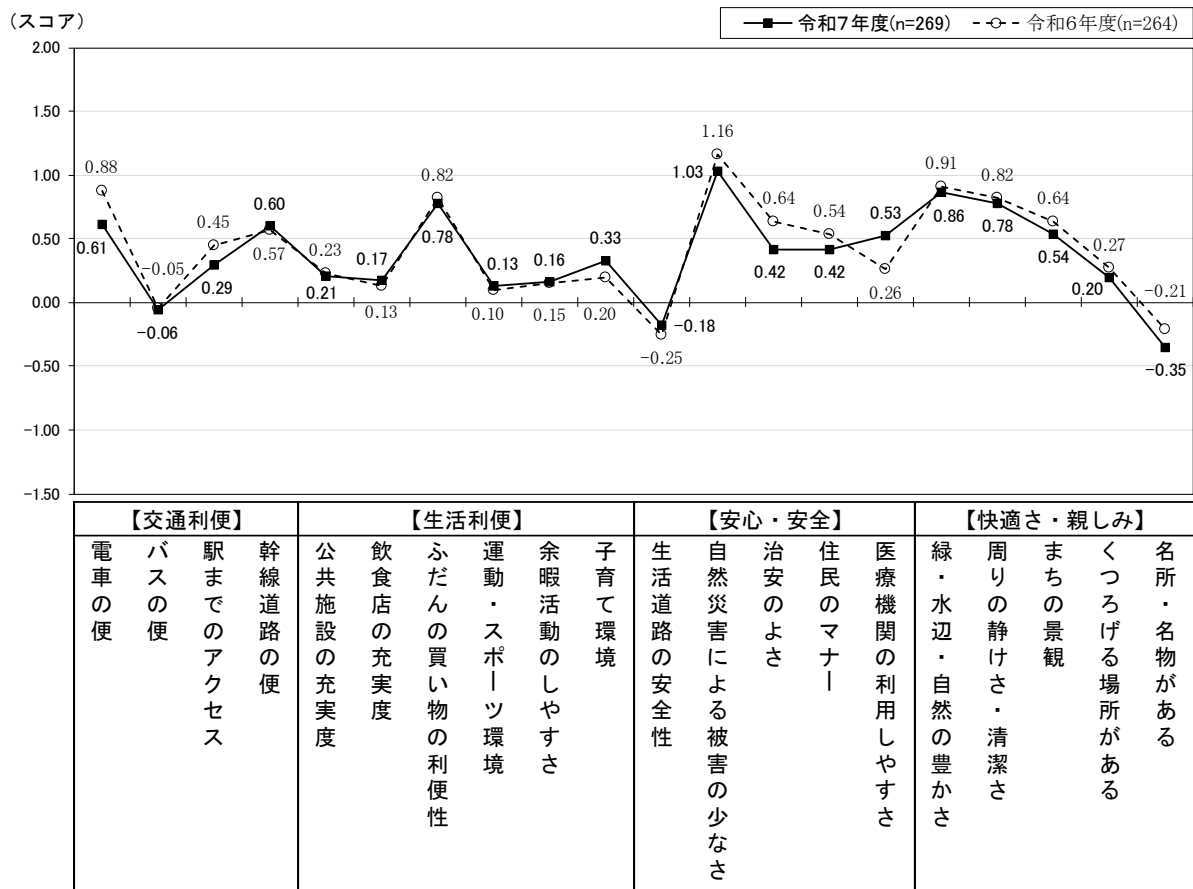


大宮区

居住地域の今後の発展の方向性をみると、「治安のよさ」が 31.7%で最も高く、「生活道路の安全性」(25.2%)、「ふだんの買い物の利便性」(15.7%)が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「治安のよさ」は 12.1 ポイント、「住民のマナー」(15.2%)は 7.5 ポイント、「駅までのアクセス」、「自然災害による被害の少なさ」(ともに 9.6%)はともに 4.4 ポイント、「生活道路の安全性」は 4.1 ポイント増加した。一方、「運動・スポーツ環境」(3.9%)は 3.8 ポイント、「子育て環境」(12.6%)は 3.4 ポイント、「緑・水辺・自然の豊かさ」(7.4%)は 3.4 ポイント減少した。(図 2－9－10)

図 2－9－11 居住地域の満足度（見沼区）



令和7年度

満足(計)(%)	65.8	40.1	56.1	63.2	51.7	53.9	75.5	38.3	39.8	41.6	40.9	78.8	63.6	63.2	66.9	78.1	77.7	65.8	49.1	23.0
不満(計)(%)	26.8	39.4	39.8	22.7	29.7	39.4	23.0	29.7	26.8	15.2	50.9	10.0	28.6	28.6	27.9	15.2	18.6	26.0	33.1	44.2

令和6年度

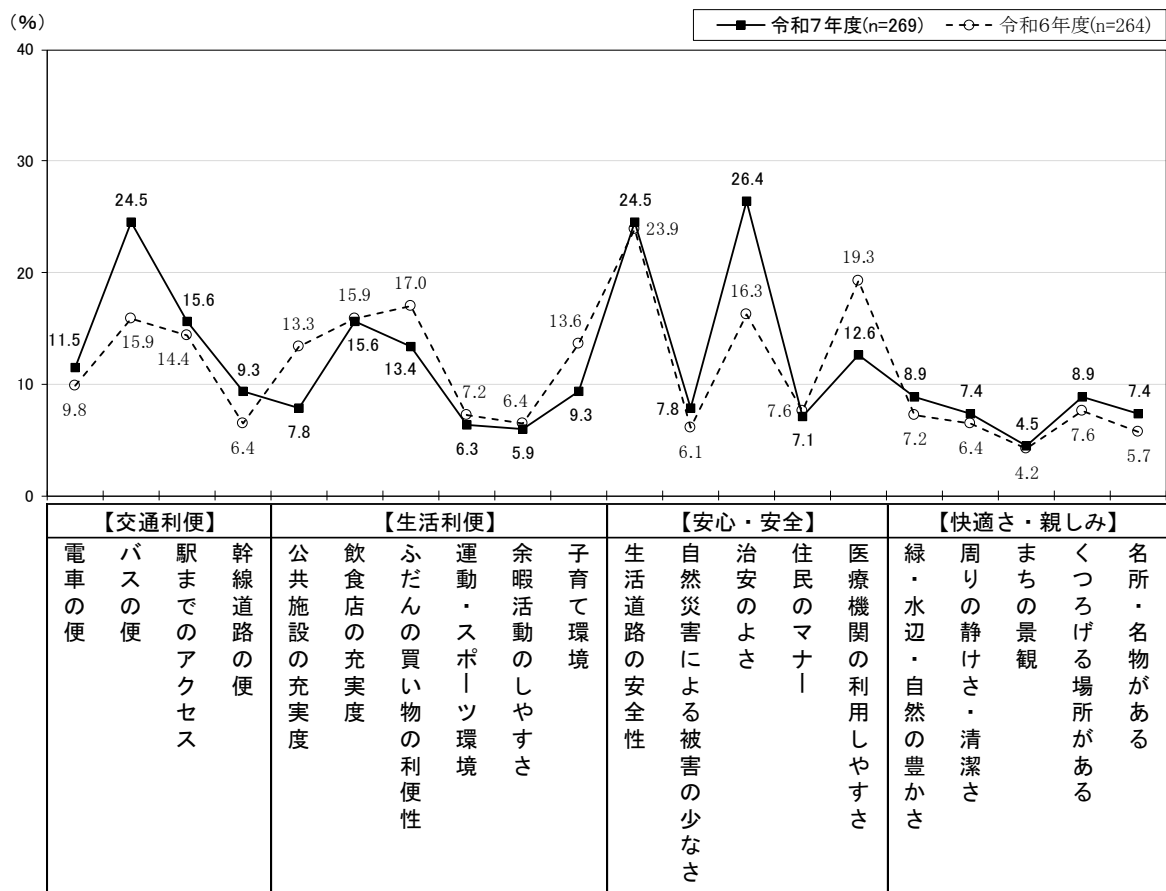
満足(計)(%)	75.0	37.9	63.3	62.5	50.0	53.4	76.1	40.2	43.2	34.8	39.4	79.9	70.1	65.5	54.2	78.8	76.9	68.6	48.5	26.9
不満(計)(%)	18.2	38.3	31.8	22.3	30.7	40.5	21.2	30.3	27.3	17.0	53.4	7.6	20.1	22.3	38.3	15.2	17.4	18.9	30.3	39.0

見沼区

居住地域の満足度をスコアでみると、「自然災害による被害の少なさ」が 1.03 で最も高く、「緑・水辺・自然の豊かさ」(0.86)、「ふだんの買い物の利便性」、「周りの静けさ・清潔さ」(ともに 0.78)が続いた。「名所・名物がある」(-0.35)、「生活道路の安全性」(-0.18)、「バスの便」(-0.06)はマイナスとなった。

令和6年度の調査結果と、おおむね同じであった。(図 2－9－11)

図 2－9－12 居住地域の今後の発展の方向性（見沼区）

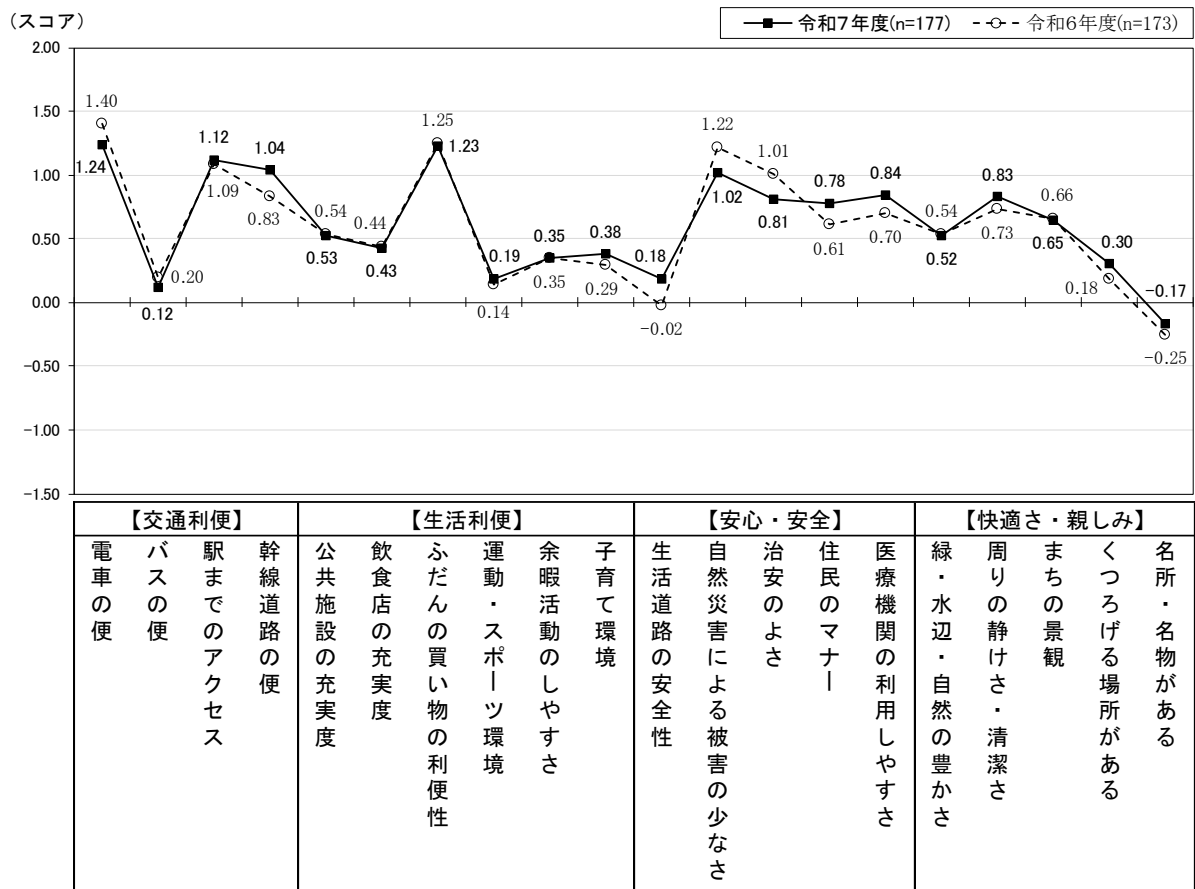


見沼区

居住地域の今後の発展の方向性をみると、「治安のよさ」が26.4%で最も高く、「バスの便」、「生活道路の安全性」（ともに24.5%）、「駅までのアクセス」、「飲食店の充実度」（ともに15.6%）が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「治安のよさ」は10.1ポイント、「バスの便」は8.6ポイント増加した。一方、「医療機関の利用しやすさ」（12.6%）は6.7ポイント、「公共施設の充実度」（7.8%）は5.5ポイント、「子育て環境」（9.3%）は4.3ポイント、「ふだんの買い物の利便性」（13.4%）は3.6ポイント減少した。（図2－9－12）

図 2－9－13 居住地域の満足度（中央区）



令和7年度

満足(計)(%)	86.4	36.7	82.5	78.5	62.1	62.1	86.4	44.6	52.5	43.5	52.5	79.7	76.8	76.8	77.4	67.2	78.5	72.3	54.8	35.6
不満(計)(%)	13.0	30.5	16.4	10.7	24.3	32.2	11.9	30.5	23.2	13.6	40.1	9.6	16.4	16.9	18.1	26.0	18.1	20.9	33.3	43.5

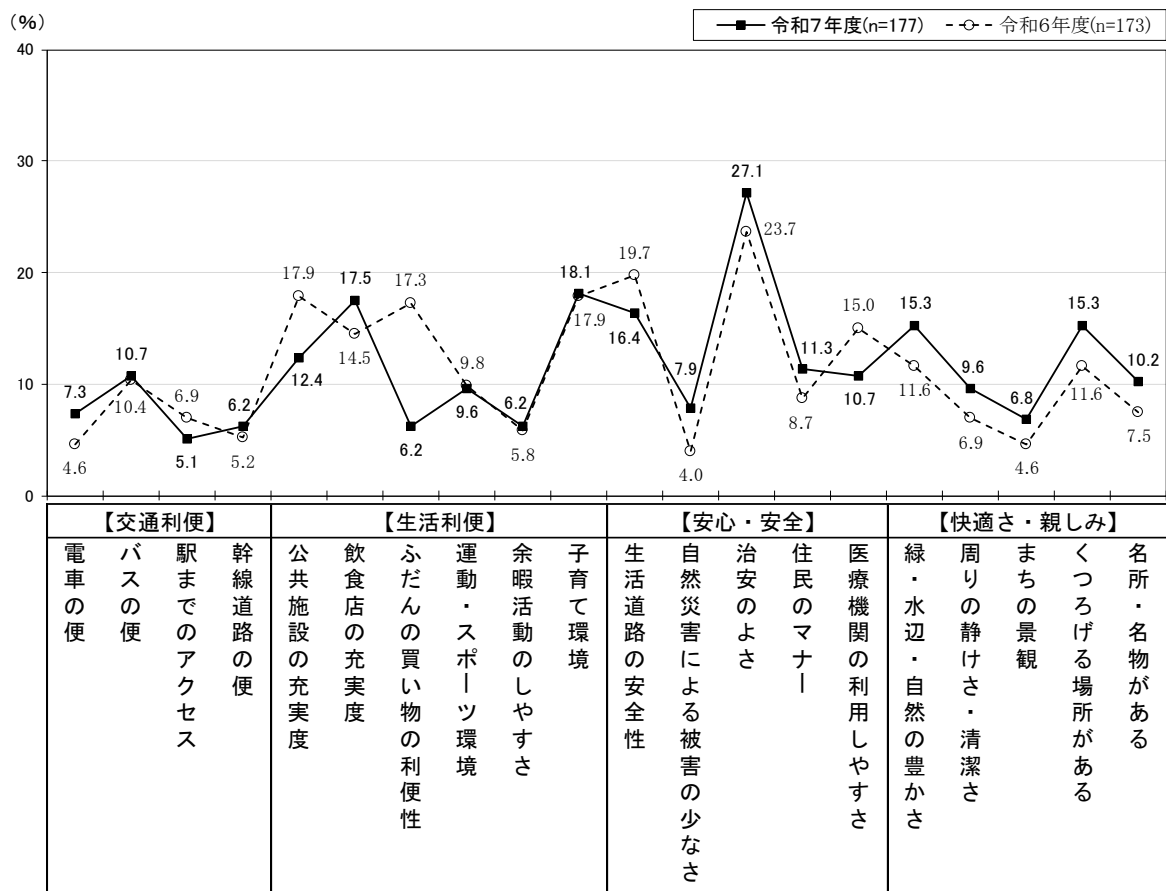
令和6年度

満足(計)(%)	87.3	39.3	80.3	65.9	59.5	58.4	86.7	39.9	49.1	40.5	46.8	82.1	82.7	71.1	72.3	64.7	73.4	70.5	48.6	32.9
不満(計)(%)	9.8	23.1	17.3	15.0	23.1	34.1	11.6	30.6	28.3	17.9	47.4	7.5	12.1	22.5	22.5	27.2	21.4	20.2	36.4	43.9

中央区

居住地域の満足度をスコアでみると、「電車の便」が 1.24 で最も高く、「ふだんの買い物の利便性」(1.23)、「駅までのアクセス」(1.12)が続いた。「名所・名物がある」(-0.17)はマイナスとなった。令和6年度の調査結果と、おおむね同じであった。(図 2－9－13)

図 2-9-14 居住地域の今後の発展の方向性（中央区）

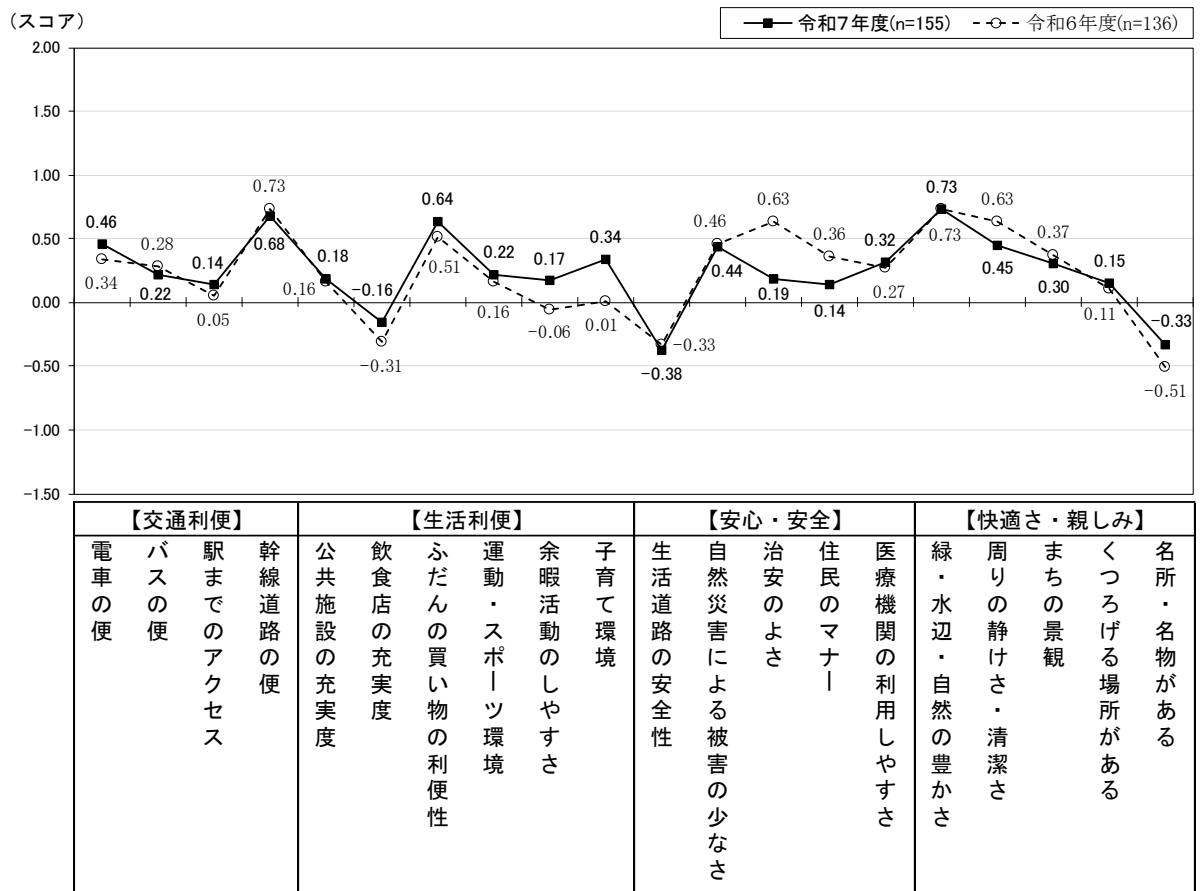


中央区

居住地域の今後の発展の方向性をみると、「治安のよさ」が27.1%で最も高く、「子育て環境」(18.1%)、「飲食店の充実度」(17.5%)が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「自然災害による被害の少なさ」(7.9%)は3.9ポイント、「緑・水辺・自然の豊かさ」、「くつろげる場所がある」(ともに15.3%)はともに3.7ポイント、「治安のよさ」は3.4ポイント、「飲食店の充実度」は3.0ポイント増加した。一方、「ふだんの買い物の利便性」(6.2%)は11.1ポイント、「公共施設の充実度」(12.4%)は5.5ポイント、「医療機関の利用しやすさ」(10.7%)は4.3ポイント、「生活道路の安全性」(16.4%)は3.3ポイント減少した。(図2-9-14)

図 2-9-15 居住地域の満足度（桜区）



令和7年度

満足(計)(%)	62.6	52.3	55.5	66.5	51.0	45.2	71.0	44.5	39.4	38.1	58.1	57.4	49.7	58.7	74.2	64.5	55.5	48.4	23.2
不満(計)(%)	32.3	37.4	41.9	19.4	37.4	47.1	29.0	23.2	23.9	9.7	56.1	25.2	35.5	36.1	18.7	29.0	28.4	34.2	43.2

令和6年度

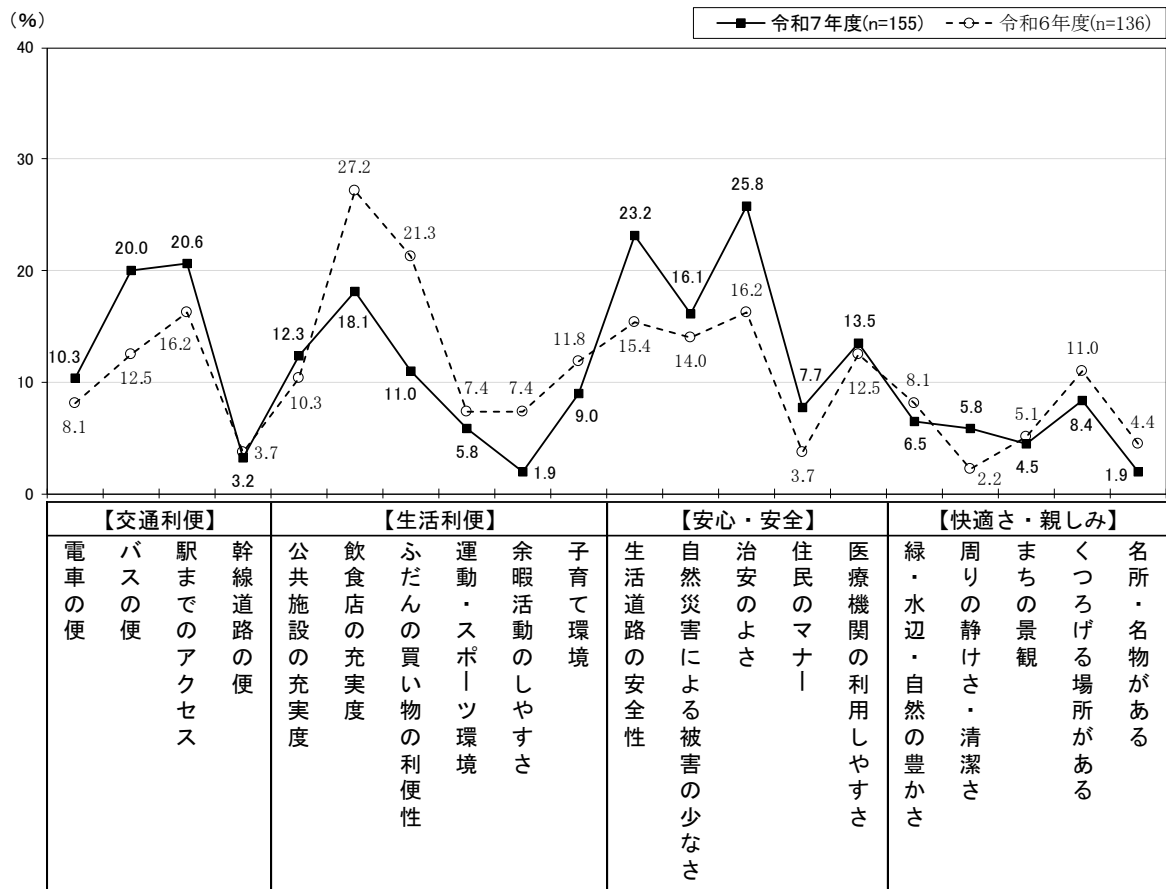
満足(計)(%)	58.1	52.9	48.5	66.2	47.1	36.8	66.9	40.4	29.4	25.7	37.5	58.8	68.4	56.6	72.1	69.9	56.6	44.9	18.4
不満(計)(%)	33.1	31.6	47.1	16.9	32.4	52.2	31.6	27.2	33.1	23.5	55.1	25.0	20.6	32.4	19.9	25.7	30.1	40.4	52.2

桜 区

居住地域の満足度をスコアでみると、「緑・水辺・自然の豊かさ」が 0.73 で最も高く、「幹線道路の便」(0.68)、「ふだんの買い物の利便性」(0.64)が続いた。「生活道路の安全性」(-0.38)、「名所・名物がある」(-0.33)、「飲食店の充実度」(-0.16)はマイナスとなった。

令和6年度の調査結果と比較すると、「子育て環境」(0.34)は3.3ポイント増加した。一方、「治安のよさ」(0.19)は0.44ポイント減少した。(図2-9-15)

図 2－9－16 居住地域の今後の発展の方向性（桜区）

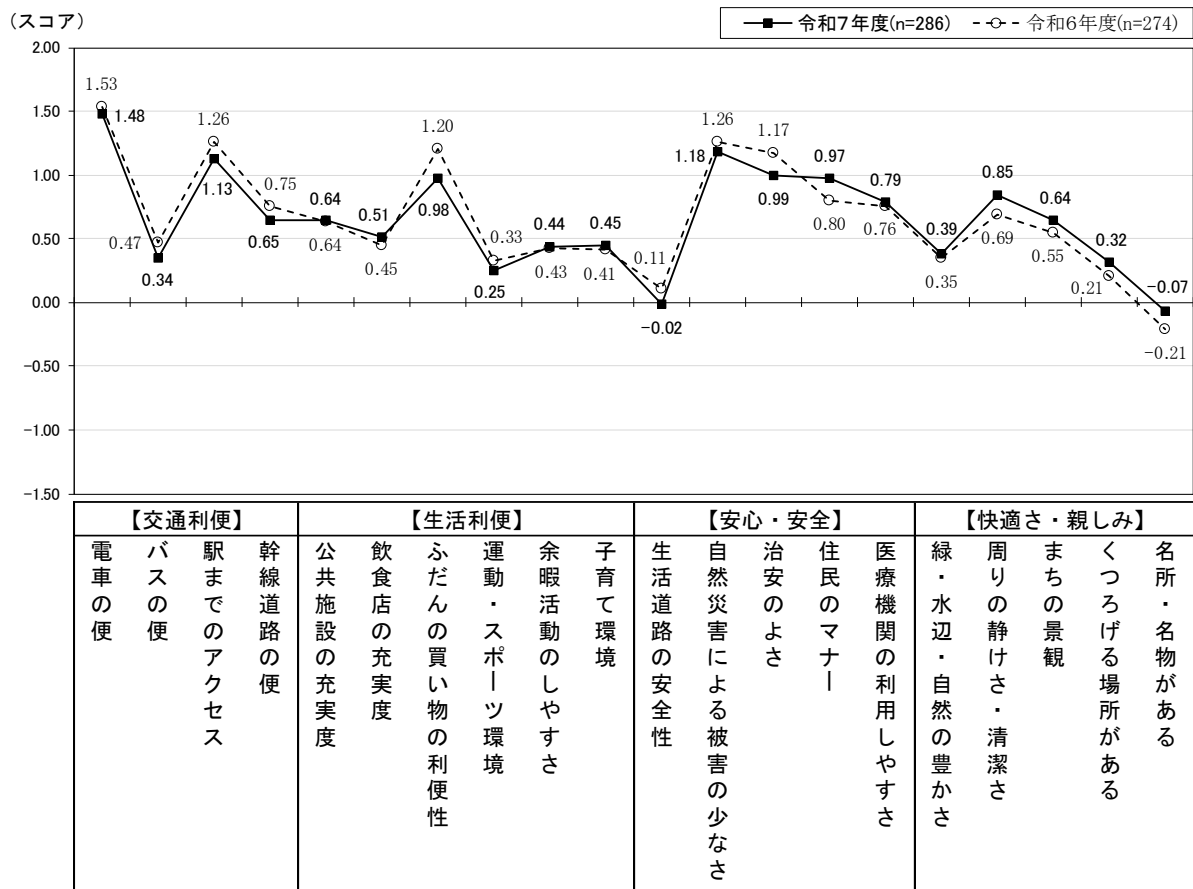


桜 区

居住地域の今後の発展の方向性をみると、「治安のよさ」が 25.8%で最も高く、「生活道路の安全性」(23.2%)、「駅までのアクセス」(20.6%)が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「治安のよさ」は9.6ポイント、「生活道路の安全性」は7.8ポイント、「バスの便」(20.0%)は7.5ポイント、「駅までのアクセス」は4.4ポイント、「住民のマナー」(7.7%)は4.0ポイント、「周りの静けさ・清潔さ」(5.8%)は3.6ポイント増加した。一方、「ふだんの買い物の利便性」(11.0%)は10.3ポイント、「飲食店の充実度」(18.1%)は9.1ポイント、「余暇活動のしやすさ」(1.9%)は5.5ポイント減少した。(図2－9－16)

図 2－9－17 居住地域の満足度（浦和区）



令和7年度

満足(計) (%)	92.0	43.7	81.8	61.2	62.9	64.0	79.0	44.1	51.7	46.2	45.1	80.8	78.7	79.4	73.1	58.7	76.6	69.2	53.5	36.0
不満(計) (%)	4.2	24.5	15.7	19.6	19.9	30.8	19.6	26.9	21.7	13.6	45.8	6.6	13.6	12.6	20.6	30.4	18.5	23.1	32.5	39.2

令和6年度

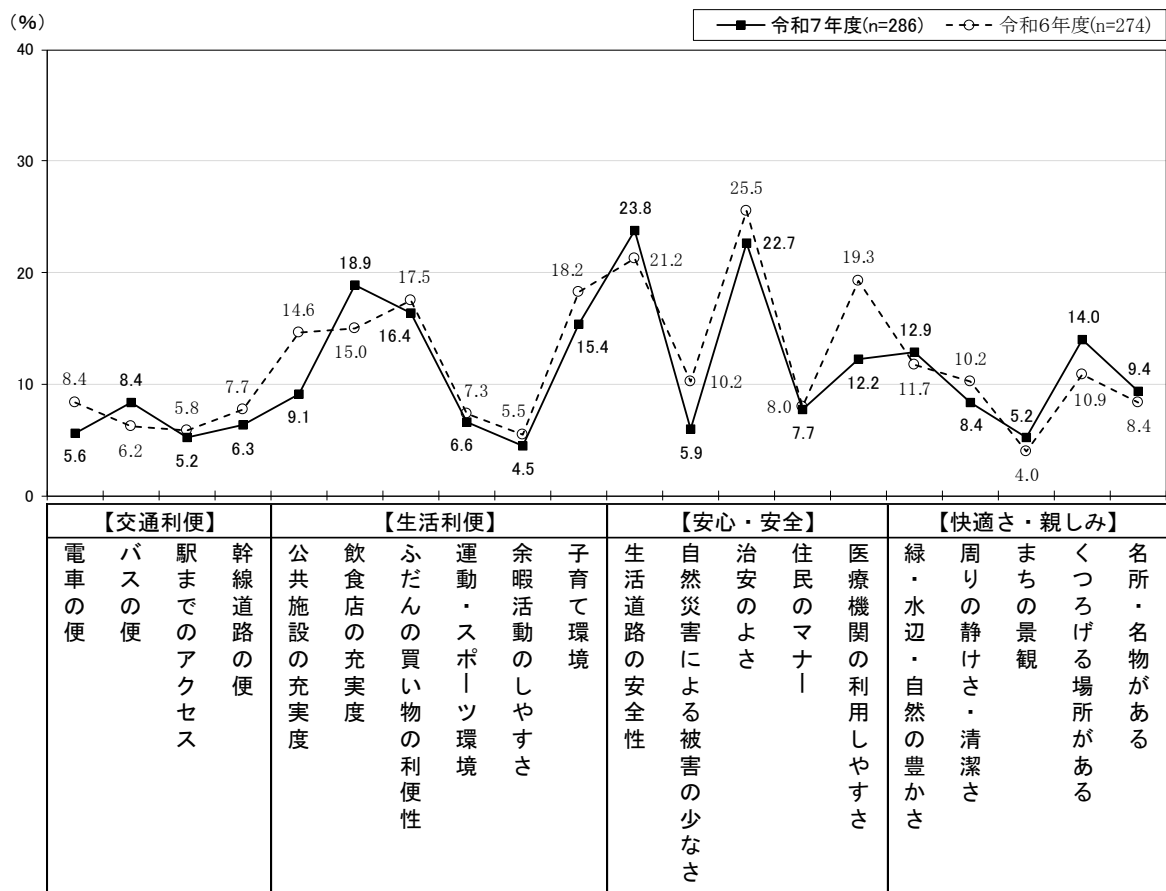
満足(計) (%)	91.6	47.8	84.7	64.6	64.6	62.4	86.9	50.0	51.8	43.1	52.2	83.6	87.2	75.5	73.7	60.6	75.2	69.7	51.5	33.6
不満(計) (%)	6.2	17.5	12.0	12.8	19.0	31.0	11.3	24.8	20.8	15.3	43.4	6.2	8.8	19.0	23.0	31.4	22.3	26.3	34.7	43.8

浦和区

居住地域の満足度をスコアでみると、「電車の便」が 1.48 で最も高く、「自然災害による被害の少なさ」(1.18)、「駅までのアクセス」(1.13)が続いた。「名所・名物がある」(-0.07)、「生活道路の安全性」(-0.02)はマイナスとなった。

令和6年度の調査結果と、おおむね同じであった。(図 2－9－17)

図 2－9－18 居住地域の今後の発展の方向性（浦和区）

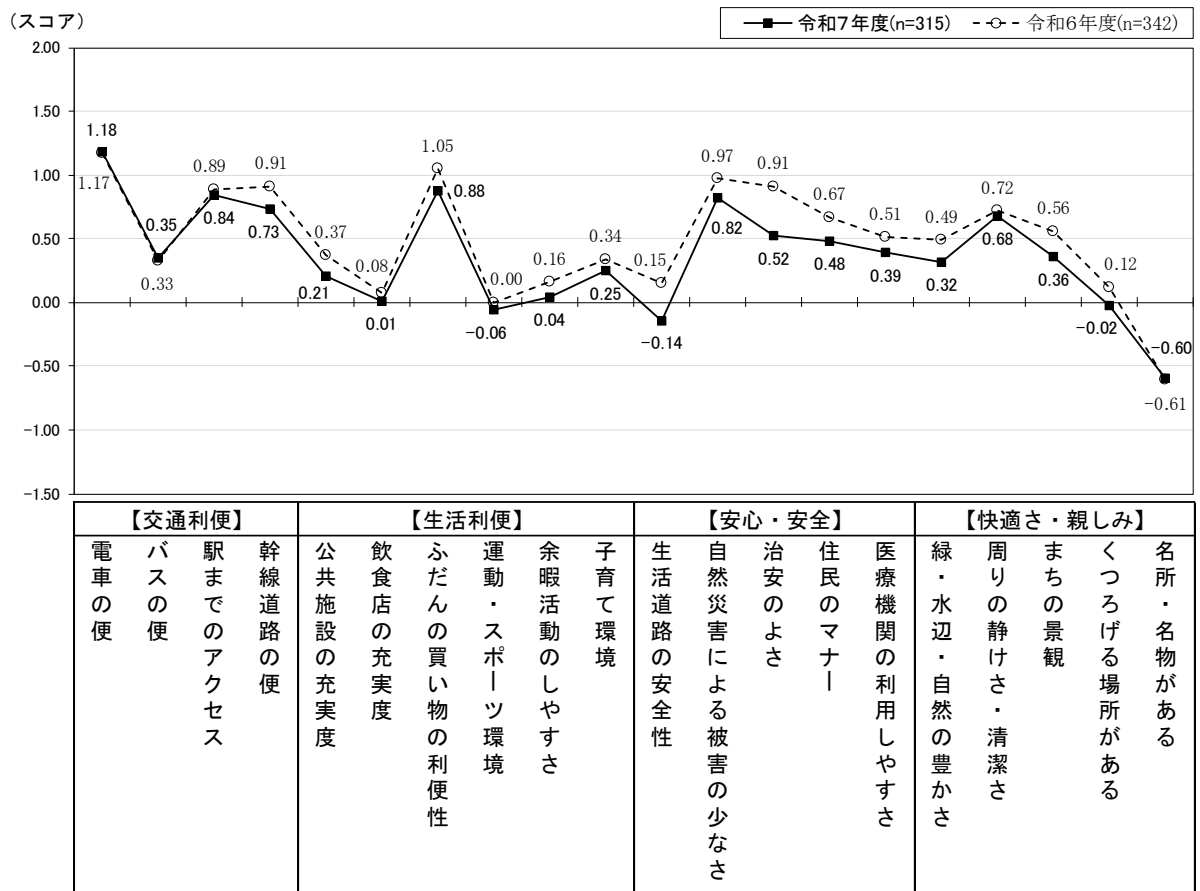


浦和区

居住地域の今後の発展の方向性をみると、「生活道路の安全性」が 23.8%で最も高く、「治安のよさ」(22.7%)、「飲食店の充実度」(18.9%)が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「飲食店の充実度」は 3.9 ポイント、「くつろげる場所がある」(14.0%) は 3.1 ポイント増加した。一方、「医療機関の利用しやすさ」(12.2%) は 7.1 ポイント、「公共施設の充実度」(9.1%) は 5.5 ポイント、「自然災害による被害の少なさ」(5.9%) は 4.3 ポイント減少した。(図 2－9－18)

図 2 - 9 - 19 居住地域の満足度（南区）



令和7年度

満足(計) (%)	84.1	49.8	74.6	66.0	53.3	47.3	80.6	34.0	38.4	39.4	43.8	71.7	67.6	66.3	61.3	60.0	74.9	62.2	43.2	18.1
不満(計) (%)	12.4	26.3	21.3	15.9	34.0	47.0	17.8	34.6	31.4	17.1	50.8	13.7	25.4	27.6	32.4	31.7	22.9	30.8	41.9	52.4

令和6年度

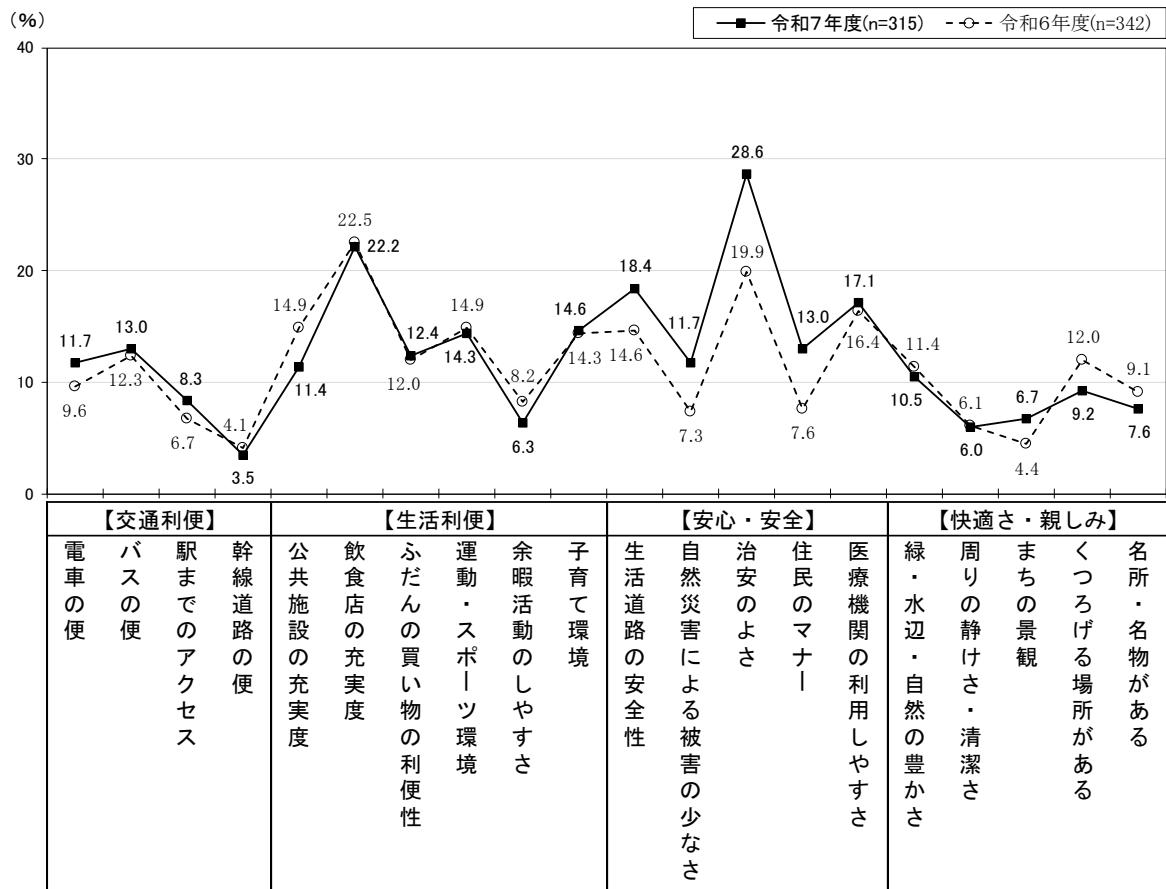
満足(計) (%)	82.2	49.1	74.6	73.7	55.8	52.0	81.9	38.6	44.4	40.6	53.2	76.9	79.8	74.3	65.5	65.2	74.9	69.0	49.7	16.7
不満(計) (%)	16.7	26.3	24.0	12.9	29.8	43.3	17.0	36.5	31.6	15.2	40.6	11.1	14.3	22.2	28.1	29.2	22.8	24.3	37.1	53.5

南 区

居住地域の満足度をスコアでみると、「電車の便」が 1.18 で最も高く、「ふだんの買い物の利便性」(0.88)、「駅までのアクセス」(0.84)が続いた。「名所・名物がある」(-0.60)、「生活道路の安全性」(-0.14)、「運動・スポーツ環境」(-0.06)、「くつろげる場所がある」(-0.02)はマイナスとなった。令和6年度の調査結果と比較すると、「治安のよさ」(0.52)は0.39ポイント減少した。

(図 2 - 9 - 19)

図 2－9－20 居住地域の今後の発展の方向性（南区）

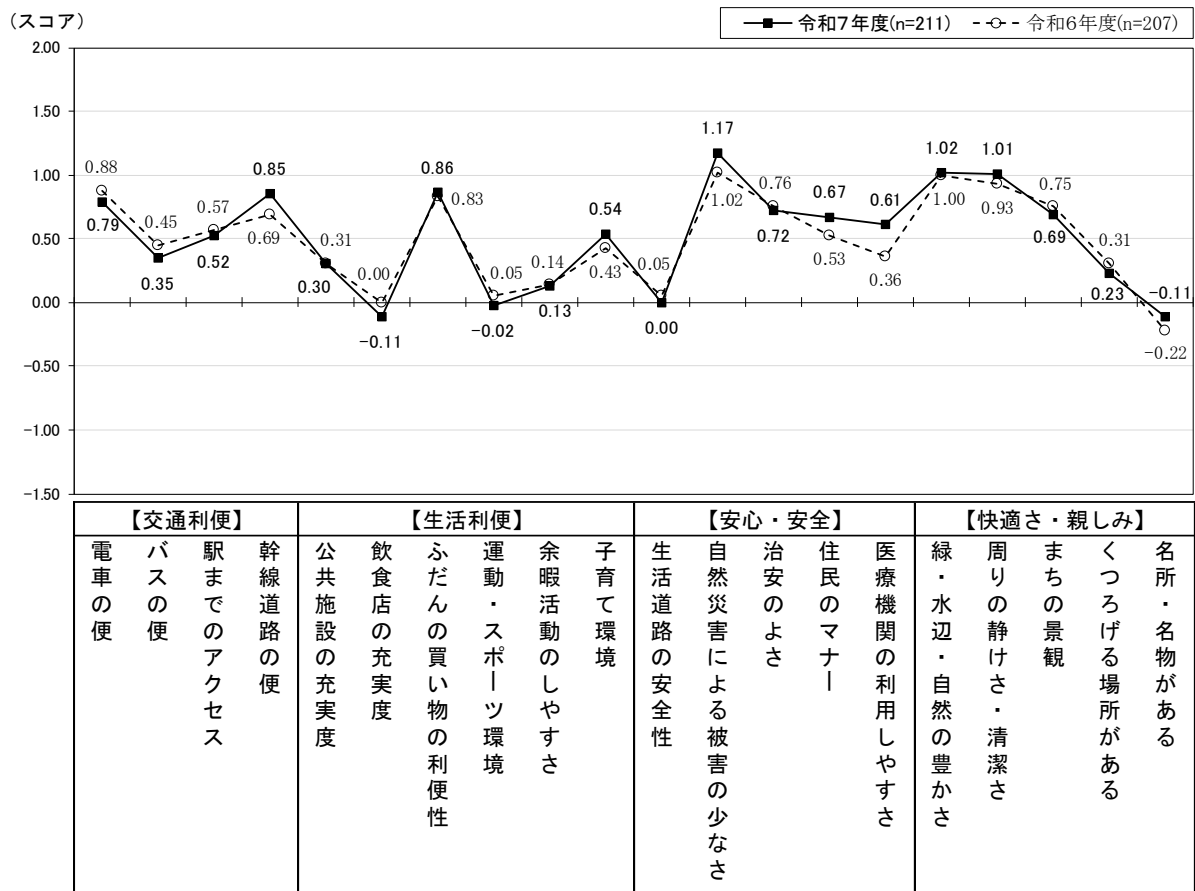


南 区

居住地域の今後の発展の方向性をみると、「治安のよさ」が 28.6%で最も高く、「飲食店の充実度」(22.2%)、「生活道路の安全性」(18.4%)が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「治安のよさ」は 8.7 ポイント、「住民のマナー」(13.0%) は 5.4 ポイント、「自然災害による被害の少なさ」(11.7%) は 4.4 ポイント、「生活道路の安全性」は 3.8 ポイント増加した。一方、「公共施設の充実度」(11.4%) は 3.5 ポイント減少した。(図 2－9－20)

図 2-9-21 居住地域の満足度（緑区）



令和7年度

満足(計)(%)	71.6	56.9	65.4	73.5	56.4	44.5	75.8	39.8	45.5	50.2	46.9	80.6	71.1	70.6	66.8	78.7	80.6	69.7	49.3	38.9
不満(計)(%)	22.7	35.1	31.8	17.5	32.7	50.7	21.8	37.0	31.3	10.9	46.0	6.6	19.9	21.3	27.5	14.7	16.6	21.3	36.0	41.2

令和6年度

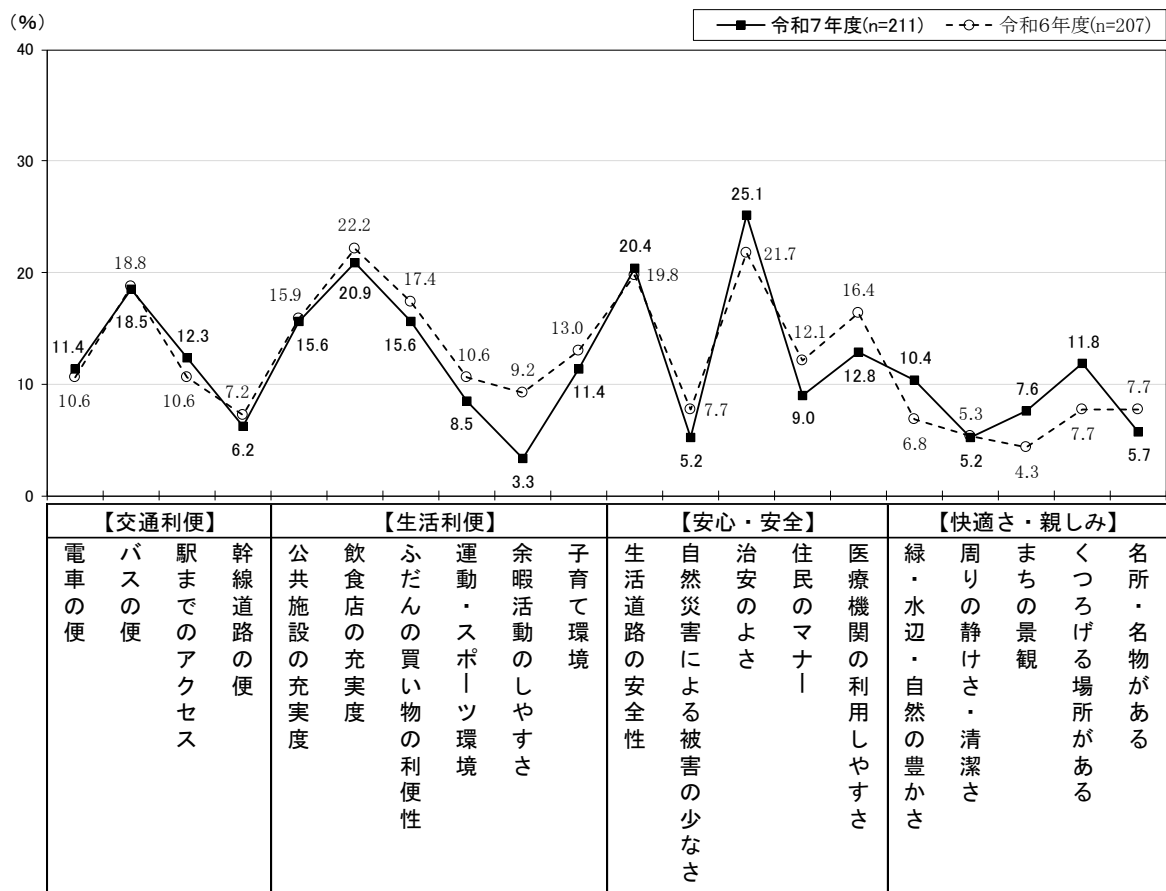
満足(計)(%)	73.9	57.0	67.6	62.3	58.5	48.3	74.4	38.2	43.5	45.9	49.8	77.3	73.4	67.1	62.3	78.7	78.3	72.5	53.6	31.9
不満(計)(%)	22.2	33.8	29.5	21.7	31.9	46.4	22.7	31.9	28.0	16.4	44.9	8.2	22.2	28.0	32.9	15.0	16.9	20.8	32.9	43.0

緑 区

居住地域の満足度をスコアでみると、「自然災害による被害の少なさ」が 1.17 で最も高く、「緑・水辺・自然の豊かさ」(1.02)、「周りの静けさ・清潔さ」(1.01)が続いた。「飲食店の充実度」、「名所・名物がある」(ともに-0.11)、「運動・スポーツ環境」(-0.02)はマイナスとなった。

令和6年度の調査結果と、おおむね同じであった。(図 2-9-21)

図 2－9－22 居住地域の今後の発展の方向性（緑区）



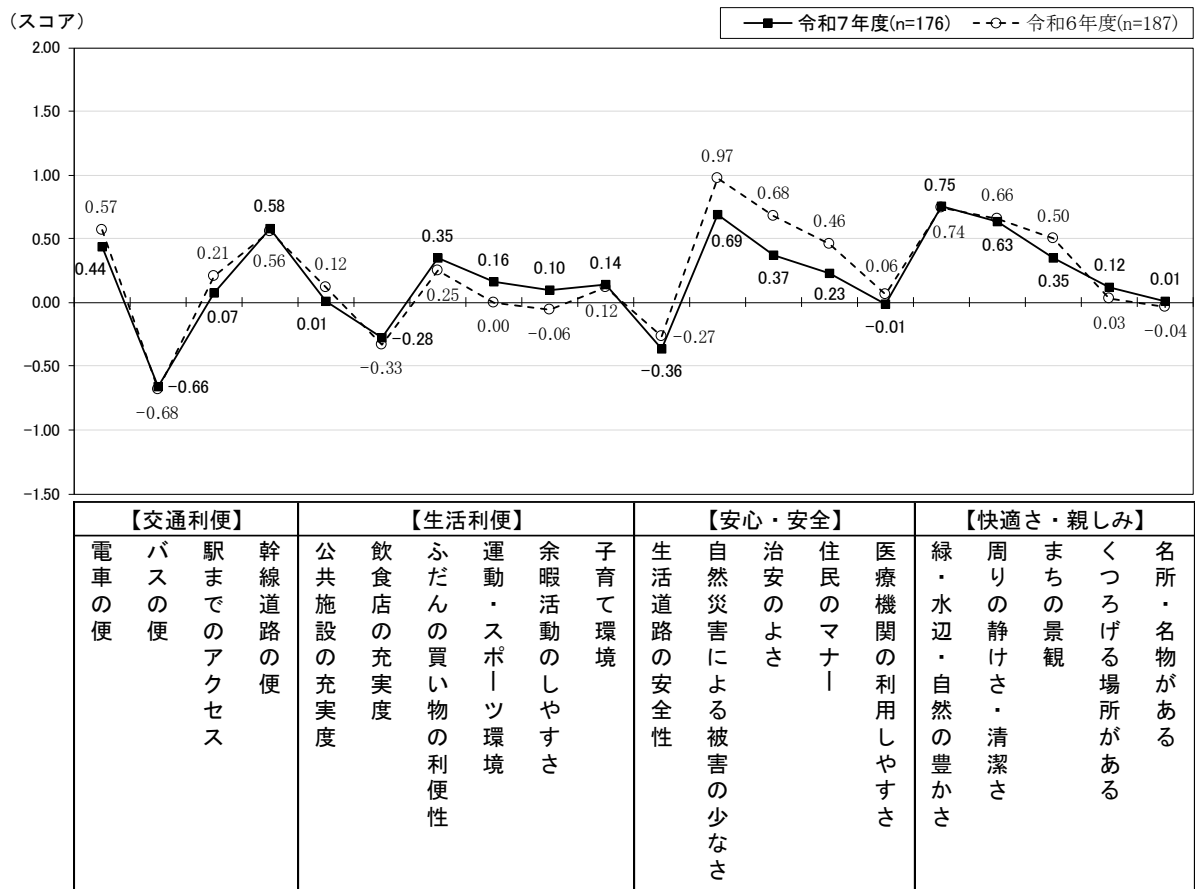
緑 区

居住地域の今後の発展の方向性をみると、「治安のよさ」が 25.1%で最も高く、「飲食店の充実度」(20.9%)、「生活道路の安全性」(20.4%)が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「くつろげる場所がある」(11.8%)は 4.1 ポイント、「緑・水辺・自然の豊かさ」(10.4%)は 3.6 ポイント、「治安のよさ」は 3.4 ポイント、「まちの景観」(7.6%)は 3.3 ポイント増加した。一方、「余暇活動のしやすさ」(3.3%)は 5.9 ポイント、「医療機関の利用しやすさ」(12.8%)は 3.6 ポイント、「住民のマナー」(9.0%)は 3.1 ポイント減少した。

(図 2－9－22)

図 2－9－23 居住地域の満足度（岩槻区）



令和7年度

満足(計)(%)	61.4	18.8	50.6	63.1	43.2	38.1	61.9	40.9	38.6	31.3	36.4	67.0	61.4	56.8	48.3	71.6	69.9	57.4	48.9	43.8
不満(計)(%)	29.5	53.4	44.9	21.0	38.1	53.4	35.2	25.6	29.0	19.9	58.0	17.0	30.1	33.5	46.0	18.8	23.9	30.7	36.9	38.1

令和6年度

満足(計)(%)	65.8	17.1	55.6	60.4	46.0	35.8	58.8	34.2	31.6	28.9	36.9	77.5	71.1	63.6	50.3	73.8	71.7	63.6	42.8	40.1
不満(計)(%)	27.3	57.8	39.6	20.9	33.7	53.5	38.0	32.1	32.6	17.6	54.0	10.7	18.7	24.6	42.8	19.3	20.9	25.7	39.0	37.4

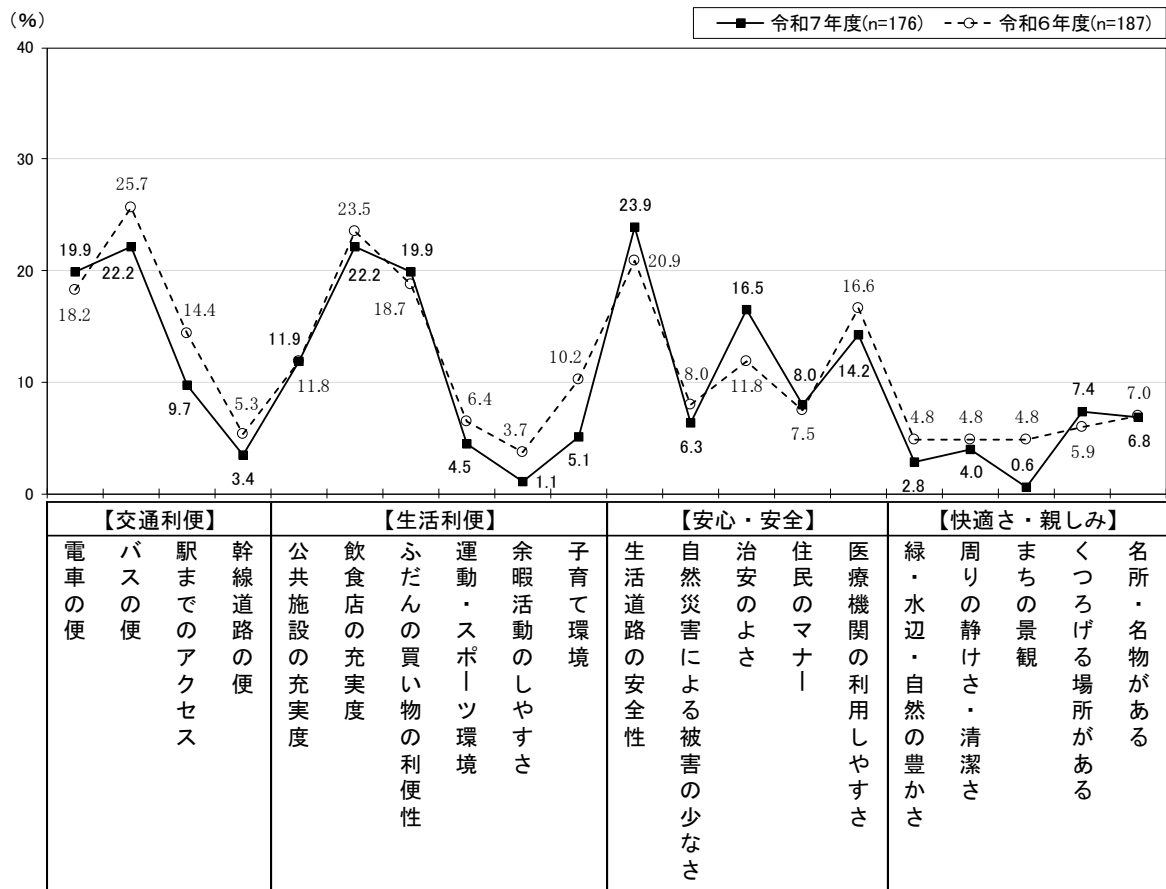
岩槻区

居住地域の満足度をスコアでみると、「緑・水辺・自然の豊かさ」が 0.75 で最も高く、「自然災害による被害の少なさ」(0.69)、「周りの静けさ・清潔さ」(0.63)が続いた。「バスの便」(-0.66)、「生活道路の安全性」(-0.36)、「飲食店の充実度」(-0.28)、「医療機関の利用しやすさ」(-0.01)はマイナスとなった。

令和6年度の調査結果と比較すると、「治安のよさ」(0.37)は0.31ポイント減少した。

(図 2－9－23)

図 2－9－24 居住地域の今後の発展の方向性（岩槻区）



岩槻区

居住地域の今後の発展の方向性をみると、「生活道路の安全性」が 23.9%で最も高く、「バスの便」、「飲食店の充実度」（ともに 22.2%）、「ふだんの買い物の利便性」（19.9%）が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「治安のよさ」（16.5%）は4.7ポイント、「生活道路の安全性」は3.0ポイント増加した。一方、「子育て環境」（5.1%）は5.1ポイント、「駅までのアクセス」（9.7%）は4.7ポイント、「まちの景観」（0.6%）は4.2ポイント、「バスの便」は3.5ポイント減少した。

（図 2－9－24）

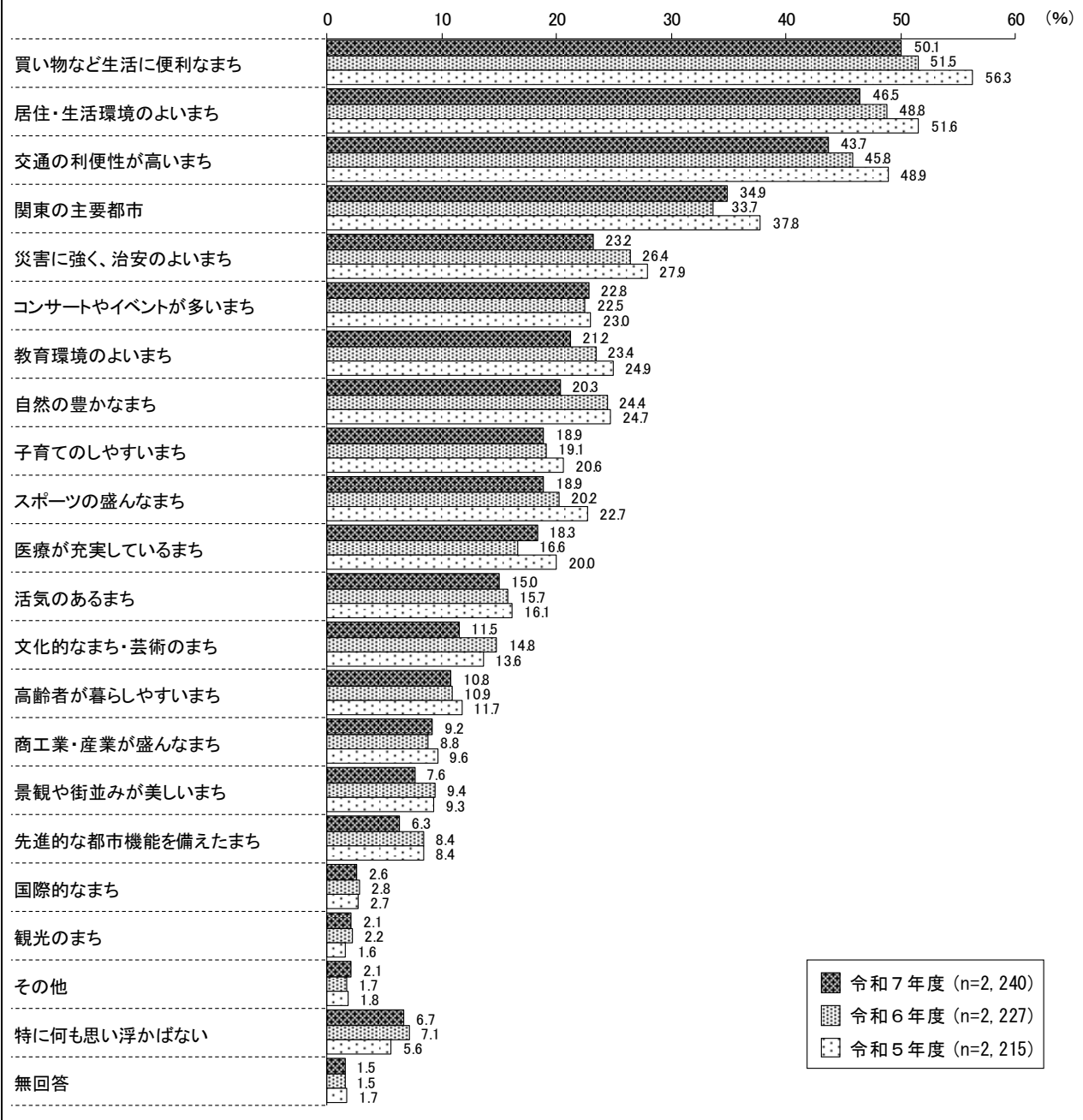
3. さいたま市のイメージ

(1) さいたま市のイメージ

問7 現在の「さいたま市」のイメージと今後の発展の方向について質問します。

(1) あなたは、「さいたま市」にどのようなイメージを持っていますか。(〇はいくつでも)

図3-1-1 さいたま市のイメージ



全体結果

「買い物など生活に便利なまち」が50.1%で最も高く、「居住・生活環境のよいまち」(46.5%)、「交通の利便性が高いまち」(43.7%)が続いた。

過去2年間の調査結果と比較すると、上位3項目は減少傾向となっており、令和6年度と比べ、「自然の豊かなまち」(20.3%)は4.1ポイント減少した。(図3-1-1)

表 3-1-1 さいたま市のイメージ性・年代別、居住区別ー（上位 10 項目）

											(%)
	n	買い物など生活に便利なまち	居住・生活環境のよいまち	交通の利便性が高いまち	関東の主要都市	災害に強く、治安のよいまち	コンサートやイベントが多いまち	教育環境のよいまち	自然の豊かなまち	子育てのしやすいまち	スポーツの盛んなまち
全 体	2,240	50.1	46.5	43.7	34.9	23.2	22.8	21.2	20.3	18.9	18.9
<性・年代別>											
男 性	944	47.9	45.0	42.3	39.5	24.3	20.4	20.7	20.4	20.0	22.0
18～29歳	86	43.0	48.8	32.6	32.6	15.1	20.9	19.8	9.3	17.4	19.8
30 代	124	43.5	40.3	38.7	33.1	18.5	18.5	12.1	14.5	25.8	15.3
40 代	160	48.1	41.3	40.0	39.4	18.8	31.3	25.0	16.9	26.9	28.8
50 代	205	55.6	52.2	49.8	46.8	24.4	30.2	26.8	22.0	24.9	28.3
60 代	172	47.7	42.4	41.3	41.3	27.3	16.3	20.3	25.6	14.0	20.3
70歳以上	197	44.7	44.2	43.7	37.6	33.5	6.1	16.8	25.9	12.2	16.8
女 性	1,232	52.2	48.1	45.2	32.0	22.6	24.8	21.8	20.5	18.3	16.7
18～29歳	131	51.1	48.9	44.3	25.2	14.5	26.0	13.0	16.0	14.5	13.7
30 代	165	54.5	39.4	37.6	26.7	16.4	26.7	22.4	14.5	21.2	15.8
40 代	230	57.4	50.9	47.8	27.8	15.2	29.6	24.8	16.5	21.3	20.0
50 代	254	50.0	51.6	42.1	29.1	26.0	24.0	29.9	20.5	21.3	16.5
60 代	211	50.2	49.3	47.4	42.2	25.1	27.0	19.0	22.7	17.5	17.1
70歳以上	238	49.6	45.8	49.6	37.4	33.2	17.6	17.6	29.0	13.4	16.0
<居住区別>											
西 区	145	44.1	36.6	42.1	35.9	17.9	22.1	9.7	22.8	11.0	16.6
北 区	256	55.1	45.7	52.3	41.8	23.0	21.9	14.1	15.6	18.4	15.2
大 宮 区	230	61.7	44.3	63.5	36.1	20.4	34.3	12.6	16.5	13.0	10.9
見 沼 区	269	50.9	46.5	42.4	40.1	27.9	23.8	8.9	33.8	16.7	14.9
中 央 区	177	54.8	53.7	49.2	35.0	18.1	36.2	19.8	13.0	18.1	18.1
桜 区	155	43.9	46.5	31.0	29.7	18.1	22.6	19.4	18.1	15.5	20.6
浦 和 区	286	57.0	55.6	46.5	35.0	34.3	21.3	43.7	11.2	24.8	27.6
南 区	315	46.3	47.6	44.1	31.1	18.7	18.1	29.8	12.1	20.3	19.0
緑 区	211	42.2	47.9	32.2	30.3	24.6	14.7	28.4	33.6	28.4	27.5
岩 槻 区	176	39.2	33.5	23.9	31.8	19.3	16.5	13.1	31.3	17.0	18.2

属 性 別

性・年代別でみると、「関東の主要都市」、「スポーツの盛んなまち」は、男性が女性より 5 ポイント以上高かった。一方、「コンサートやイベントが多いまち」、「買い物など生活に便利なまち」は、女性が男性より 4 ポイント以上高かった。「買い物など生活に便利なまち」は、男性 50 代（55.6%）、女性 60 代以下で 5 割台であった。

居住区別でみると、「居住・生活環境のよいまち」は浦和区（55.6%）、中央区（53.7%）で 5 割台であった。また、「買い物など生活に便利なまち」、「交通の利便性が高いまち」は大宮区、「教育環境のよいまち」は浦和区（43.7%）で特に高く、区による差が大きかった。（表 3-1-1）

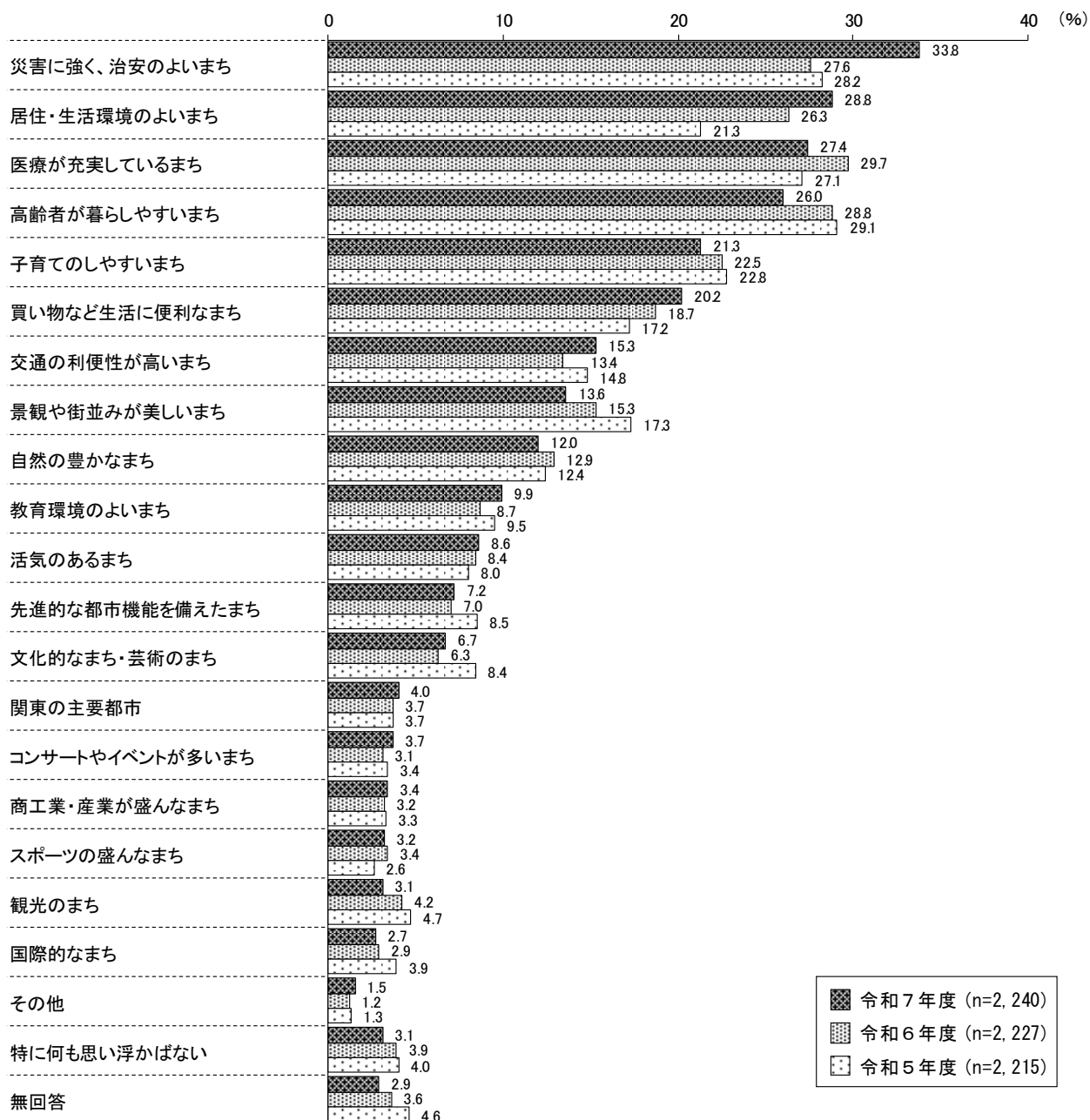
(2) さいたま市の発展の方向性

問7 現在の「さいたま市」のイメージと今後の発展の方向について質問します。

(2) あなたは、「さいたま市」が、今後どのような方向へ発展してほしいと思いますか。

(○は3つまで)

図3-2-1 さいたま市の発展の方向性



全体結果

「災害に強く、治安のよいまち」が33.8%で最も高く、「居住・生活環境のよいまち」(28.8%)、「医療が充実しているまち」(27.4%)が続いた。

過去2年間の調査結果と比較すると、「居住・生活環境のよいまち」、「買い物など生活に便利なまち」は増加傾向にあり、一方、「高齢者が暮らしやすいまち」、「景観や街並みが美しいまち」は減少傾向にある。また、令和6年度と比べ、「災害に強く、治安のよいまち」は6.2ポイント増加した。

(図3-2-1)

表3-2-1 さいたま市の発展の方向性－性・年代別、居住区別－（上位10項目）

		(%)									
	n	災害に強く、治安のよいまち	居住・生活環境のよいまち	医療が充実しているまち	高齢者が暮らしやすいまち	子育てのしやすいまち	買い物など生活に便利なまち	交通の利便性が高いまち	景観や街並みが美しいまち	自然の豊かなまち	教育環境のよいまち
全 体	2,240	33.8	28.8	27.4	26.0	21.3	20.2	15.3	13.6	12.0	9.9
<性・年代別>											
男 性	944	34.2	32.1	24.0	22.7	21.6	19.4	15.6	14.3	12.8	9.6
18～29歳	86	26.7	22.1	14.0	2.3	29.1	19.8	18.6	16.3	17.4	12.8
30 代	124	32.3	37.1	21.0	3.2	47.6	25.8	12.9	10.5	12.1	20.2
40 代	160	35.0	36.9	20.0	10.0	35.6	21.9	13.8	11.9	13.8	13.8
50 代	205	34.6	32.2	24.4	25.9	14.6	17.1	16.6	17.1	10.2	5.4
60 代	172	39.5	28.5	27.3	39.0	11.6	16.9	16.3	17.4	14.0	6.4
70歳以上	197	33.0	32.5	30.5	36.5	6.6	17.8	15.7	12.2	12.2	5.6
女 性	1,232	33.6	26.8	30.1	28.8	21.3	20.9	15.3	13.4	11.4	10.2
18～29歳	131	28.2	27.5	16.8	5.3	31.3	29.8	18.3	15.3	12.2	14.5
30 代	165	30.3	29.7	21.8	5.5	50.3	24.2	13.9	12.7	12.7	18.2
40 代	230	40.0	27.0	33.5	22.6	27.0	15.2	14.3	12.6	14.8	15.2
50 代	254	42.5	27.2	35.8	33.1	8.3	18.9	17.7	14.2	8.7	3.9
60 代	211	30.3	29.9	31.3	38.9	15.2	23.7	14.7	18.5	7.1	7.1
70歳以上	238	26.1	21.0	32.8	50.0	9.7	18.9	13.9	8.4	13.4	7.1
<居住区別>											
西 区	145	32.4	28.3	22.8	24.8	22.8	26.9	20.0	9.7	9.0	8.3
北 区	256	32.8	31.6	32.4	26.6	26.6	17.6	12.9	13.7	9.4	9.8
大 宮 区	230	34.8	28.3	23.5	27.0	23.5	18.3	11.3	14.8	13.5	10.9
見 沼 区	269	34.6	32.0	27.9	30.1	21.2	19.0	23.4	11.9	10.4	8.2
中 央 区	177	34.5	32.2	23.2	27.1	23.2	17.5	11.3	13.0	22.0	14.1
桜 区	155	41.3	23.9	23.9	29.7	16.1	17.4	18.7	13.5	9.0	5.8
浦 和 区	286	27.3	27.3	24.5	23.4	24.1	22.0	8.4	18.2	15.7	10.5
南 区	315	41.3	30.2	33.3	23.8	21.9	19.7	13.3	14.0	10.2	12.4
緑 区	211	31.3	32.2	28.0	20.9	20.9	21.3	15.2	15.2	11.8	10.9
岩 槻 区	176	28.4	19.3	29.0	29.5	9.1	25.0	24.4	9.1	8.0	6.3

属 性 別

性・年代別でみると、「居住・生活環境のよいまち」は、男性（32.1%）が女性（26.8%）より5.3ポイント高かった。一方、「医療が充実しているまち」、「高齢者が暮らしやすいまち」は、女性が男性よりも6.1ポイント高かった。また、「子育てのしやすいまち」は男女とも30代が最も高く、女性30代（50.3%）で5割であった。

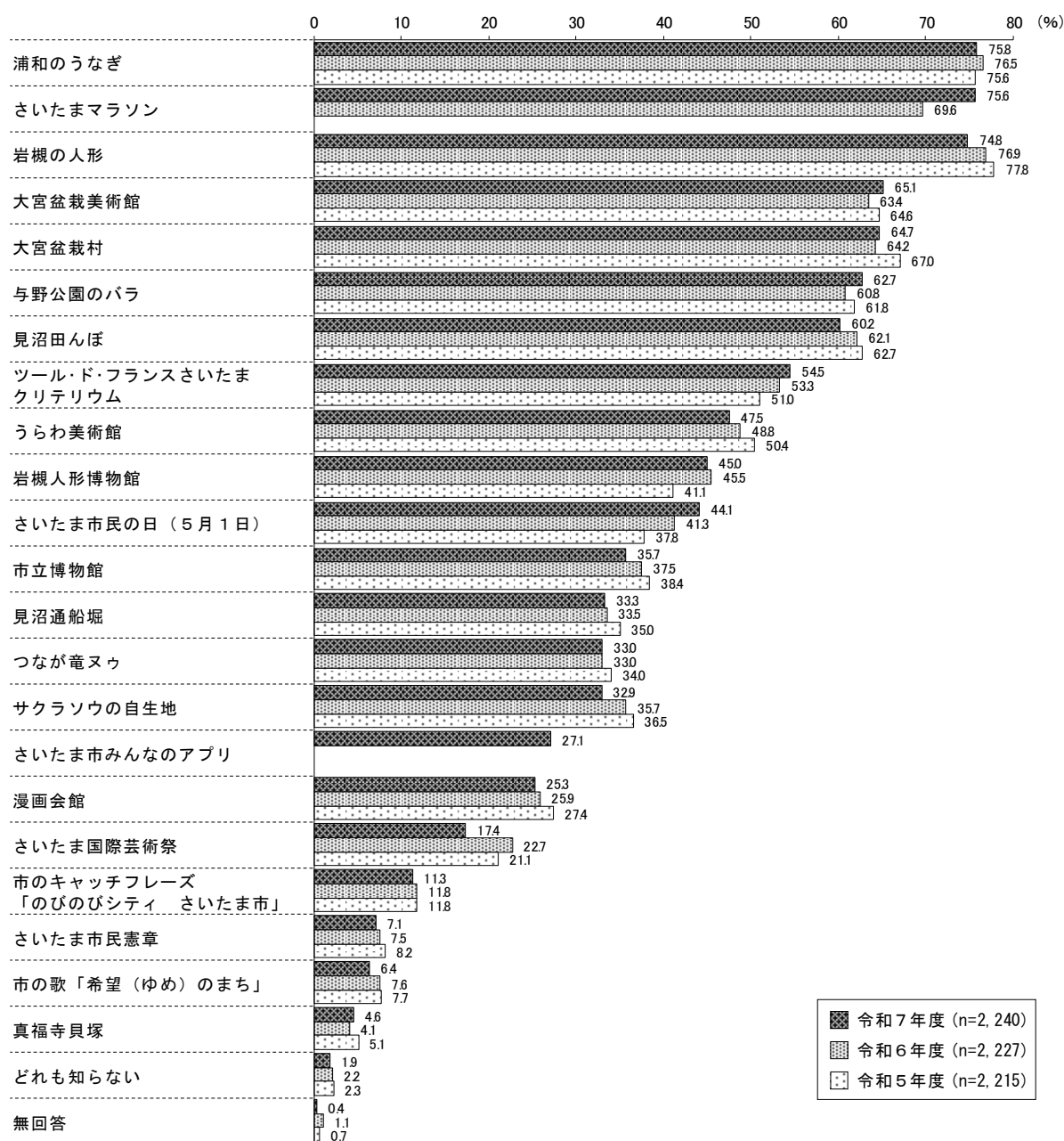
居住区別でみると、「災害に強く、治安のよいまち」は桜区、南区（ともに41.3%）で4割を超えた。

（表3-2-1）

(3) さいたま市について知っているもの

問8 さいたま市の施設、名所、文化財、伝統産業、イベントなどについて、あなたが知っているものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

図3-3-1 さいたま市について知っているもの



(注記1)「さいたま市みんなのアプリ」は、令和7年度調査から選択肢に加えた。

(注記2)「さいたまマラソン」は、令和6年度調査から選択肢に加えた。

全体結果

「浦和のうなぎ」が75.8%で最も高く、「さいたまマラソン」(75.6%)、「岩槻の人形」(74.8%)が続いた。

過去2年間の調査結果と比較すると、「ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」(54.5%)、「さいたま市民の日(5月1日)」(44.1%)は増加傾向にある。また、令和6年度と比べ、「さいたまマラソン」は6ポイント増加した。一方、「さいたま国際芸術祭」(17.4%)は5.3ポイント減少した。

(図3-3-1)

表 3-3-1 さいたま市について知っているもの一性・年代別、居住区別ー（上位 10 項目）

											(%)
	n	浦和のうなぎ	さいたまマラソン	岩槻の人形	大宮盆栽美術館	大宮盆栽村	与野公園のバラ	見沼田んぼ	さいたま・ド・テリウムス	うらわ美術館	岩槻人形博物館
全 体	2,240	75.8	75.6	74.8	65.1	64.7	62.7	60.2	54.5	47.5	45.0
<性・年代別>											
男 性	944	73.4	72.7	71.4	62.0	64.0	58.2	60.1	55.5	36.9	43.3
18～29歳	86	48.8	59.3	52.3	51.2	31.4	31.4	30.2	25.6	34.9	29.1
30 代	124	56.5	68.5	55.6	56.5	48.4	40.3	40.3	39.5	26.6	42.7
40 代	160	71.3	79.4	61.3	60.6	53.1	49.4	58.1	56.9	34.4	35.6
50 代	205	79.0	77.1	74.6	58.0	65.4	62.4	65.9	65.9	44.4	42.4
60 代	172	83.7	73.8	83.1	68.6	79.7	71.5	72.7	69.8	40.7	48.3
70歳以上	197	81.7	70.1	84.3	69.5	81.7	72.1	70.1	54.3	35.0	52.8
女 性	1,232	78.1	78.1	78.1	67.5	65.3	65.9	60.3	53.5	55.4	46.3
18～29歳	131	51.1	64.1	48.9	51.1	35.9	34.4	33.6	30.5	44.3	29.8
30 代	165	68.5	73.3	62.4	59.4	34.5	48.5	41.2	30.3	41.8	39.4
40 代	230	82.2	84.3	77.4	73.0	60.9	67.0	62.6	64.3	67.0	49.6
50 代	254	87.0	82.7	87.4	68.9	79.5	72.4	67.7	64.6	64.2	46.9
60 代	211	84.8	79.6	86.7	70.6	76.8	73.0	67.3	64.0	52.1	53.1
70歳以上	238	79.8	76.9	88.2	72.7	81.5	81.1	71.8	50.8	52.9	51.3
<居住区別>											
西 区	145	60.7	71.7	75.2	61.4	70.3	64.8	44.1	49.7	30.3	35.9
北 区	256	66.0	66.4	73.0	80.1	81.3	59.0	55.9	49.2	34.8	43.0
大 宮 区	230	70.0	79.1	70.9	77.8	77.0	75.7	61.3	67.4	33.9	43.9
見 沼 区	269	64.3	67.3	82.9	77.3	74.7	49.8	72.9	53.2	34.6	60.6
中 央 区	177	80.8	87.6	69.5	68.4	64.4	96.6	55.9	66.1	52.0	37.9
桜 区	155	83.2	78.1	65.8	50.3	51.6	87.1	47.1	54.8	53.5	23.9
浦 和 区	286	92.0	82.9	74.5	63.3	60.1	71.3	64.7	62.6	79.4	38.1
南 区	315	87.3	70.8	67.6	49.5	48.6	52.1	56.2	46.7	55.6	33.7
緑 区	211	85.3	89.6	76.3	61.1	53.1	48.3	76.8	51.7	58.8	45.0
岩 槻 区	176	59.7	67.6	95.5	56.8	67.0	35.8	55.7	43.2	29.0	90.9

属 性 別

性・年代別でみると、「うらわ美術館」は女性（55.4%）が男性（36.9%）より 18.5 ポイント高かった。また、多くの項目で、30 代以下と 40 代以上の差が大きかった。

居住区別でみると、「浦和のうなぎ」は浦和区（92.0%）、「岩槻の人形」、「岩槻人形博物館」は岩槻区（95.5%、90.9%）、「与野公園のバラ」は中央区（96.6%）など、施設、名所等の所在地及びその周辺で高かった。（表 3-3-1）

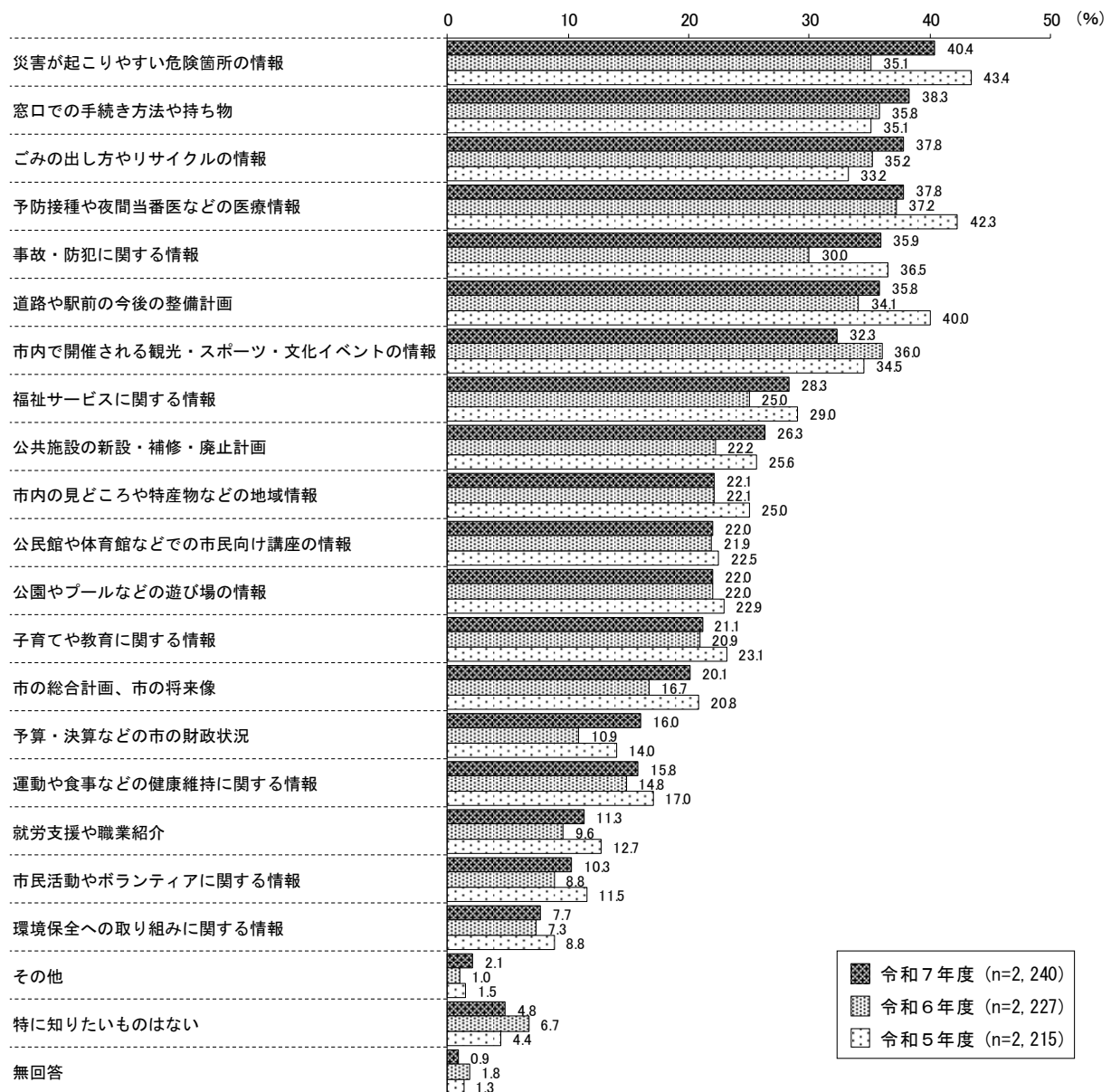
4. 市政との関わり

(1) 市が発信する情報で特に知りたいもの

問9 さいたま市役所からの情報で、あなたが特に知りたいのはどのような情報ですか。

(〇はいくつでも)

図4-1-1 市が発信する情報で特に知りたいもの



全体結果

「災害が起こりやすい危険箇所の情報」が 40.4%で最も高く、「窓口での手続き方法や持ち物」(38.3%)、「ごみの出し方やリサイクルの情報」(37.8%)が続いた。

過去2年間の調査結果と比較すると、令和6年度と比べ、「事故・防犯に関する情報」(35.9%)は5.9ポイント、「災害が起こりやすい危険箇所の情報」は5.3ポイント、「予算・決算などの市の財政状況」(16.0%)は5.1ポイント、「公共施設の新設・補修・廃止計画」(26.3%)は4.1ポイント、「市の総合計画、市の将来像」(20.1%)は3.4ポイント増加した。一方、「市内で開催される観光・スポーツ・文化イベントの情報」(32.3%)は3.7ポイント減少した。(図4-1-1)

表 4－1－1 市が発信する情報で特に知りたいもの－性・年代別、居住区別－（上位 10 項目）

(%)

	n	災害が 起こり やすい 危険箇 所の 情報	窓口で の手続 き方法 や持ち 物	ごみの 出し方 やリサ イクル の情 報	予防接 種や夜 間当番 医など の医療 情報	事故・ 防犯に 関する 情報	道路や 駅前 の今後 の整備 計画	市内で 開催さ れる観 光・ス ポーツ ・文化 イベン トの情 報	福祉サ ービス に関す る情報	公共施 設の新 設・補 修・廃 止計画	市内の 見どころ や特産 物など の地域 情報
全 体	2,240	40.4	38.3	37.8	37.8	35.9	35.8	32.3	28.3	26.3	22.1
<性・年代別>											
男 性	944	38.1	35.8	34.5	35.0	33.9	40.0	32.1	23.2	27.4	22.8
18～29歳	86	27.9	32.6	24.4	23.3	26.7	32.6	16.3	7.0	20.9	8.1
30 代	124	29.0	33.1	33.1	29.8	28.2	43.5	35.5	11.3	29.8	21.8
40 代	160	41.3	43.8	34.4	31.3	39.4	40.0	38.1	12.5	36.3	23.1
50 代	205	40.5	43.4	37.6	34.1	41.0	44.4	37.6	24.9	26.8	26.3
60 代	172	37.2	32.6	36.6	39.0	27.9	39.0	30.2	32.6	23.3	22.1
70歳以上	197	44.2	27.4	35.0	43.7	34.0	37.6	27.9	36.5	25.9	26.4
女 性	1,232	42.1	40.5	40.1	40.4	37.4	32.7	33.3	32.2	25.5	21.9
18～29歳	131	33.6	48.1	35.1	32.8	34.4	26.7	26.7	16.0	24.4	14.5
30 代	165	38.8	43.6	41.8	43.6	35.8	36.4	35.2	17.6	30.9	15.8
40 代	230	39.6	40.9	44.8	43.5	39.1	31.7	36.5	26.5	23.9	20.0
50 代	254	46.5	41.3	42.5	39.8	40.2	35.4	34.6	37.0	24.4	22.8
60 代	211	45.0	33.6	41.2	40.3	40.3	30.8	31.8	38.9	27.0	25.1
70歳以上	238	44.1	38.7	34.0	40.3	32.8	33.2	32.8	46.2	23.5	28.2
<居住区別>											
西 区	145	38.6	32.4	34.5	35.9	30.3	40.7	24.1	26.9	26.2	23.4
北 区	256	42.2	37.1	39.8	41.8	39.1	36.3	30.1	34.0	24.6	22.7
大 宮 区	230	38.7	40.0	35.7	38.3	35.2	36.5	34.8	27.8	23.9	21.3
見 沼 区	269	42.8	39.4	37.5	42.0	39.8	41.6	34.2	30.1	25.3	26.0
中 央 区	177	35.6	42.4	40.1	38.4	33.9	30.5	29.9	22.6	31.6	22.0
桜 区	155	40.6	34.8	34.8	31.6	34.8	34.2	31.0	25.8	23.9	17.4
浦 和 区	286	37.4	38.8	37.1	37.4	36.4	36.0	35.0	27.6	28.0	17.5
南 区	315	43.2	41.9	41.3	41.6	34.0	34.9	32.4	27.9	27.6	23.5
緑 区	211	44.5	38.4	39.8	37.4	36.5	36.5	36.0	29.9	30.8	20.9
岩 槻 区	176	37.5	34.1	33.5	27.3	36.4	29.0	31.8	25.6	21.0	25.6

属 性 別

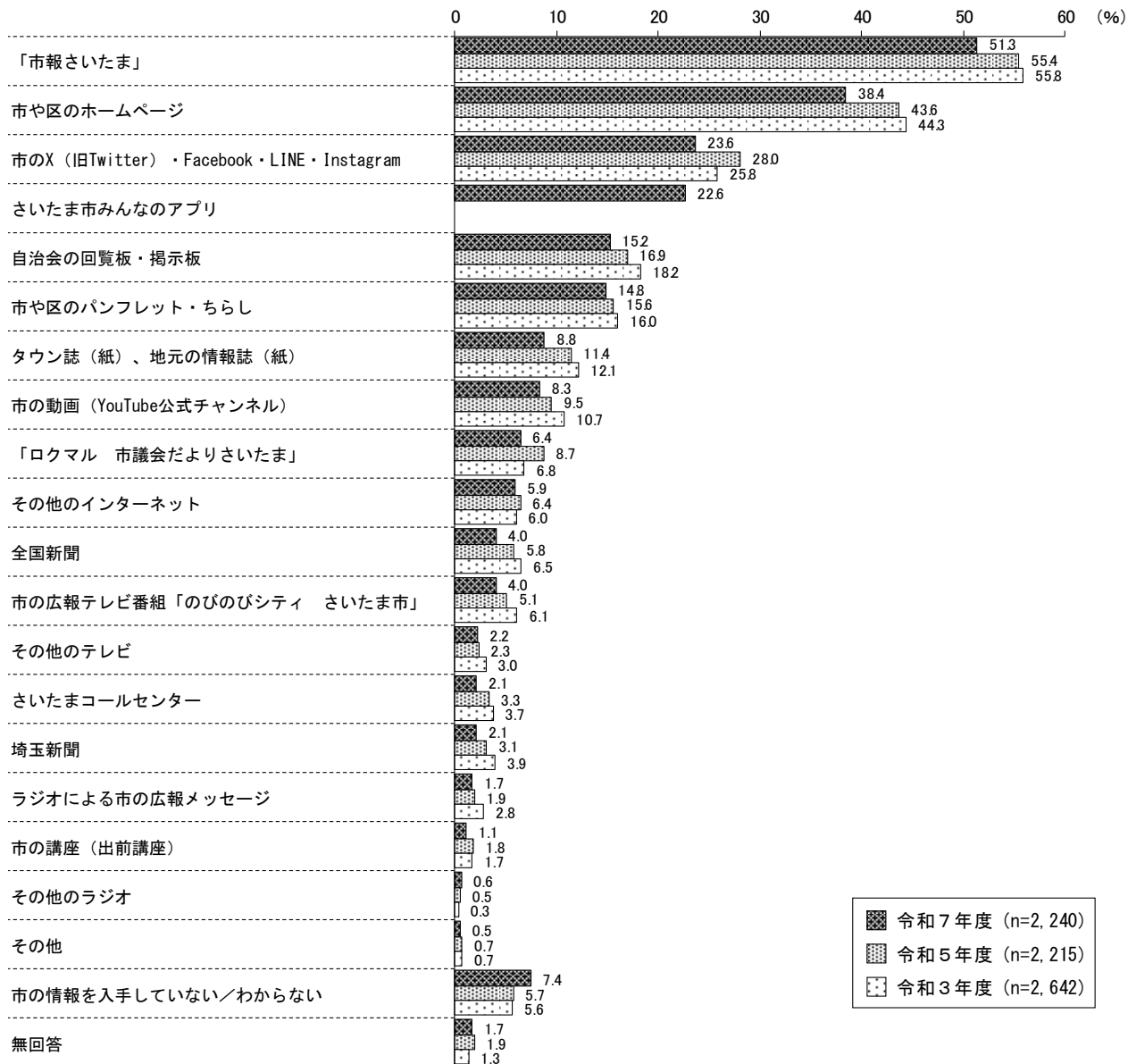
性・年代別でみると、「道路や駅前の今後の整備計画」は、男性（40.0%）が女性（32.7%）より 7.3 ポイント高かった。一方、「福祉サービスに関する情報」、「ごみの出し方やリサイクルの情報」、「予防接種や夜間当番医などの医療情報」は、女性が男性より 5 ポイント以上高かった。「福祉サービスに関する情報」は、男女とも年代が上がるにつれ高くなった。

居住区別でみると、「予防接種や夜間当番医などの医療情報」は、見沼区（42.0%）、北区（41.8%）、南区（41.6%）で 4 割であった。（表 4－1－1）

(2) 市が発信する情報の入手方法として充実すべき媒体

問10 あなたは、さいたま市役所が発信する情報を入手するにあたり、今後、どのような媒体が充実するとよいと思いますか。以下の中から、あてはまるものを3つまで選んでください。(〇は3つまで)

図4-2-1 市が発信する情報の入手方法として充実すべき媒体



(注記)「さいたま市みんなのアプリ」は、令和7年度調査から選択肢に加えた。

全体結果

「市報さいたま」が51.3%で最も高く、「市や区のホームページ」(38.4%)、「市のX (旧 Twitter)・Facebook・LINE・Instagram」(23.6%)が続いた。

過去2回の調査結果と比較すると、令和5年度と比べ、ほとんどの項目が減少しており、上位3項目は4.0ポイント以上減少した。一方、新規項目の「さいたま市みんなのアプリ」は、22.6%であった。

(図4-2-1)

表４－２－１ 市が発信する情報の入手方法として充実すべき媒体
－性・年代別、居住区別－（上位 10 項目）

											(%)
	n	「市報さいたま」	市や区のホームページ	市の X (旧 Twitter) ・ Instagram	さいたま市みんなのアプリ	自治会の回覧板・掲示板	市や区のパンフレット・ちらし	タウン誌（紙）、地元の情報誌（紙）	市の動画（YouTube 公式チャンネル）	「ロクマル 市議会だよりさいたま」	その他のインターネット
全 体	2,240	51.3	38.4	23.6	22.6	15.2	14.8	8.8	8.3	6.4	5.9
<性・年代別>											
男 性	944	45.9	39.1	23.7	24.3	12.6	14.4	8.6	11.9	5.4	7.9
18～29歳	86	11.6	32.6	41.9	18.6	3.5	14.0	2.3	14.0	2.3	10.5
30 代	124	33.1	28.2	41.9	36.3	4.8	16.1	3.2	16.9	2.4	7.3
40 代	160	36.9	39.4	32.5	36.3	10.0	12.5	6.3	12.5	3.8	11.9
50 代	205	46.8	46.8	23.4	27.8	12.7	13.2	7.8	13.7	6.8	7.3
60 代	172	58.1	45.9	16.3	18.0	11.0	12.2	14.5	9.9	7.0	5.2
70歳以上	197	64.5	34.5	4.1	11.2	24.9	18.3	12.2	7.1	7.1	7.1
女 性	1,232	55.4	38.3	23.6	21.5	17.7	15.4	9.2	6.0	7.1	4.2
18～29歳	131	19.1	39.7	48.9	25.2	6.1	16.0	1.5	9.2	2.3	7.6
30 代	165	37.0	37.6	42.4	29.7	13.3	8.5	4.2	9.1	2.4	5.5
40 代	230	53.0	46.5	32.6	30.9	13.0	8.7	6.1	4.3	6.1	4.3
50 代	254	65.0	46.1	22.0	19.7	11.0	12.6	11.8	3.9	8.7	4.3
60 代	211	61.6	37.4	7.1	18.5	24.2	19.9	15.2	6.2	7.6	4.7
70歳以上	238	74.8	22.7	3.8	9.2	33.2	25.6	11.3	5.0	12.2	0.8
<居住区別>											
西 区	145	49.0	31.7	20.7	18.6	20.7	14.5	9.0	6.2	7.6	6.9
北 区	256	55.1	37.9	23.0	21.1	12.9	18.0	10.5	10.9	7.4	6.6
大宮区	230	51.7	38.3	30.4	24.3	13.9	10.0	7.4	6.5	6.5	6.1
見沼区	269	51.3	39.8	25.3	24.2	13.8	11.2	10.8	9.7	7.1	5.6
中央区	177	53.7	40.1	27.7	20.3	14.7	16.9	10.2	11.3	8.5	7.9
桜 区	155	47.7	35.5	24.5	23.2	16.8	16.1	5.8	11.6	5.2	1.9
浦和区	286	54.2	43.7	25.2	28.3	14.7	14.0	5.6	5.9	4.2	4.2
南区	315	48.3	41.0	24.4	21.3	13.7	18.4	9.5	7.0	6.0	6.7
緑 区	211	47.4	41.7	20.4	25.1	14.2	13.7	5.7	6.6	4.7	5.2
岩槻区	176	52.8	28.4	11.4	17.0	21.6	15.3	14.2	10.2	8.0	8.0

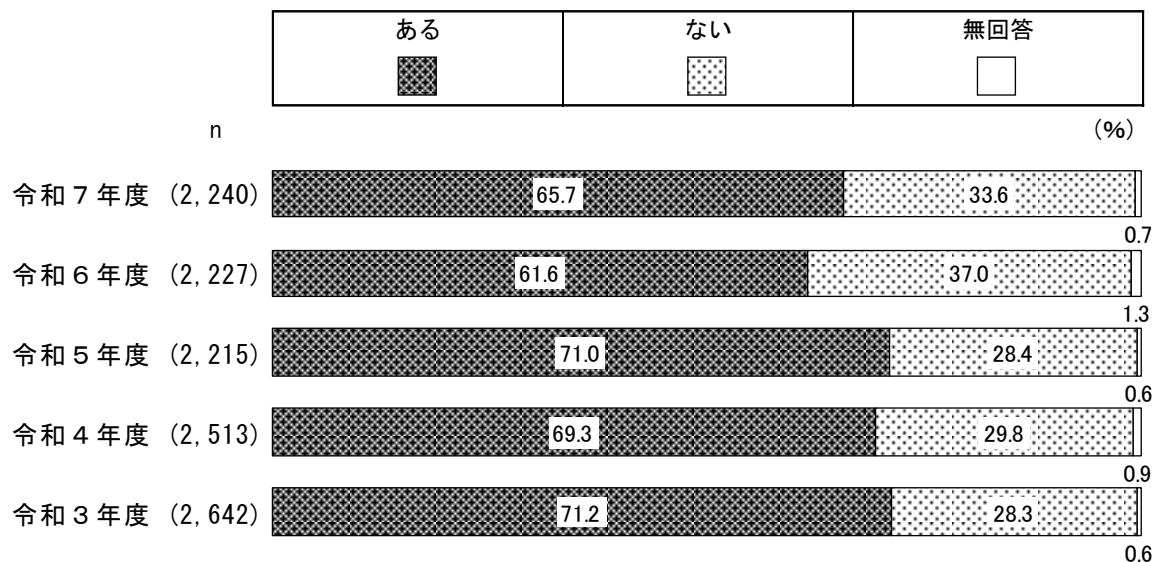
属 性 別

性・年代別でみると、「市の動画（YouTube 公式チャンネル）」は、男性（11.9%）が女性（6.0%）より 5.9 ポイント高かった。一方、「市報さいたま」、「自治会の回覧板・掲示板」は、女性が男性より 5.0 ポイント以上高かった。また、「さいたま市みんなのアプリ」は、男性 30～40 代（ともに 36.3%）、女性 40 代（30.9%）で 3 割台であった。（表 4－2－1）

(3) 市役所の利用実態

問11 あなたは、この1年以内で、市・区役所を利用したり、電話で問い合わせをしたりしたことがありますか。(○は1つ)

図4-3-1 市役所の利用実態



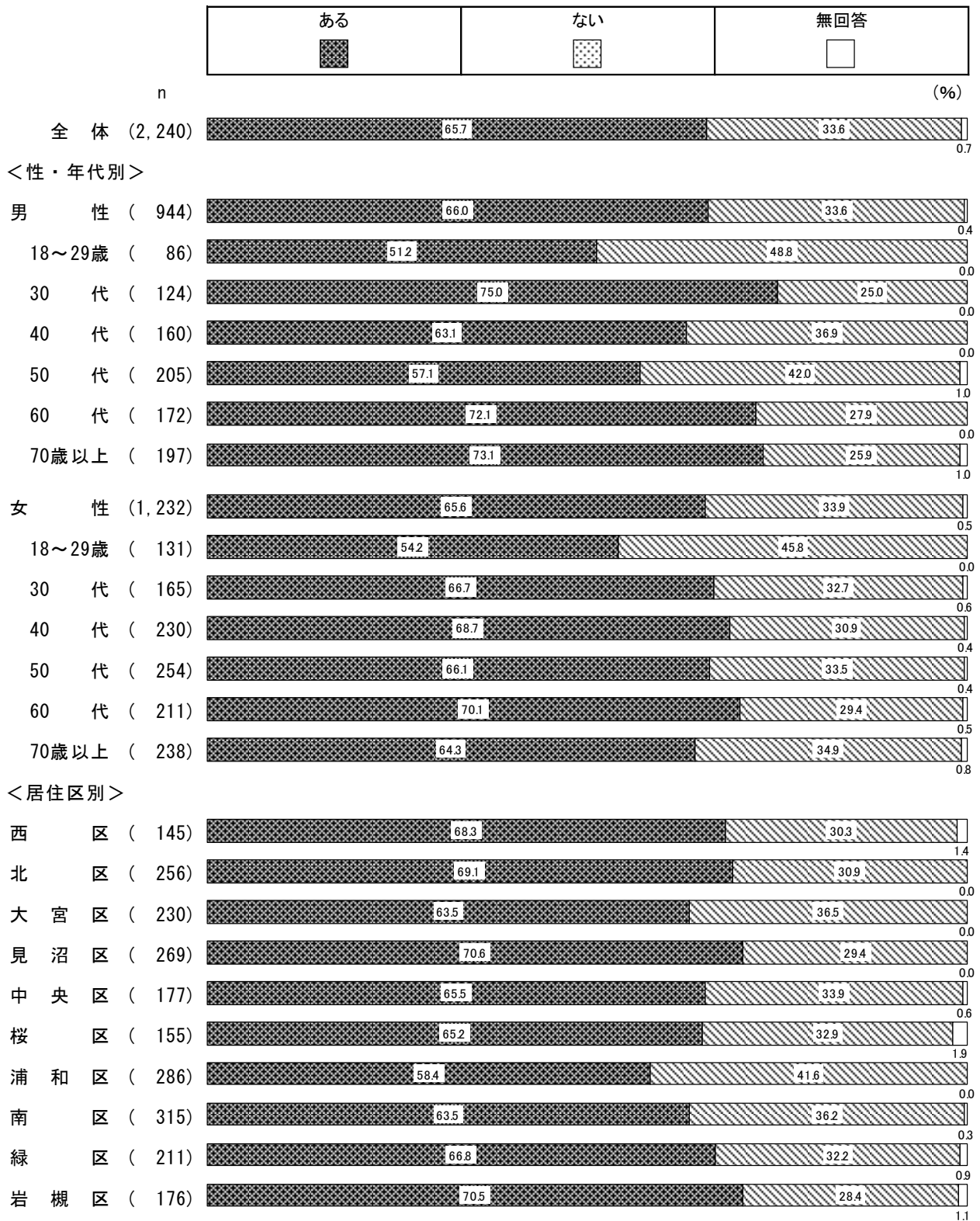
全体結果

1年以内に利用・問合せ経験が「ある」は65.7%であった。

過去4年間の調査結果と比較すると、令和6年度と比べ、「ある」は4.1ポイント増加した。

(図4-3-1)

図 4－3－2 市役所の利用実態－性・年代別、居住区別－



属 性 別

性・年代別でみると、「ある」は、すべての年代で5割を超え、男性30代と60代以上、女性60代で7割台であった。

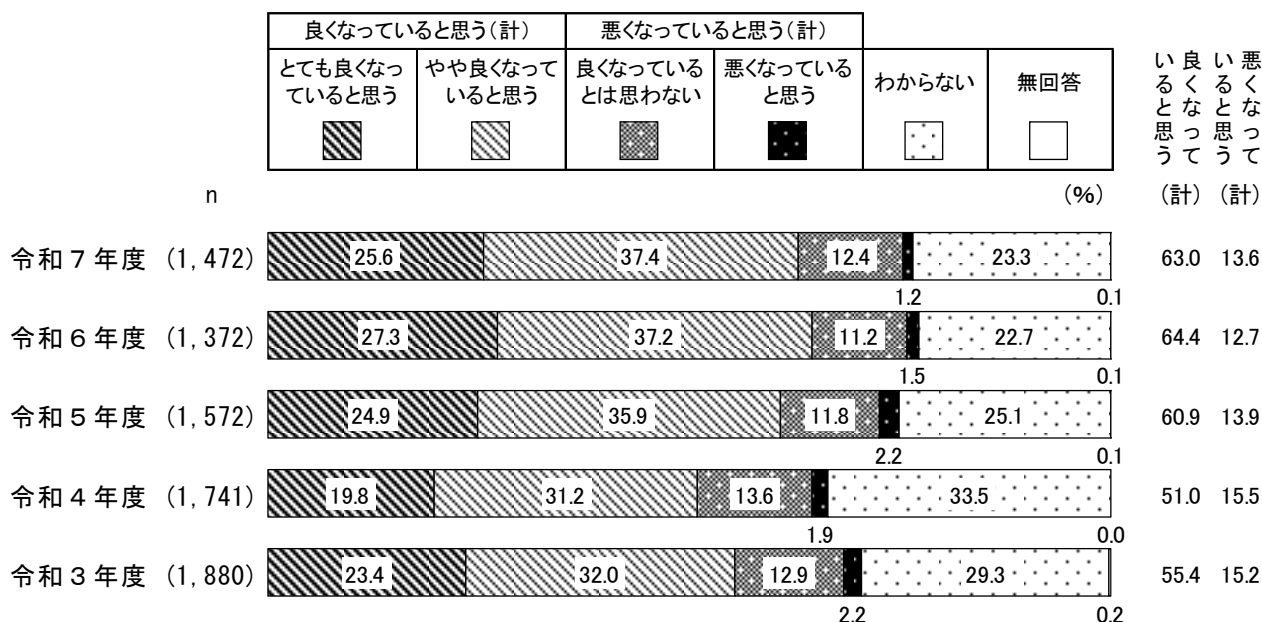
居住区別でみると、「ある」は、すべての区で5割を超え、見沼区(70.6%)、岩槻区(70.5%)は、ほぼ7割であった。(図4－3－2)

(4) 市職員のイメージ

(問11で「ある」と答えた方に)

問11-1 あなたは、最近の市職員のイメージをどう思いますか。(○は1つ)

図4-4-1 市職員のイメージ



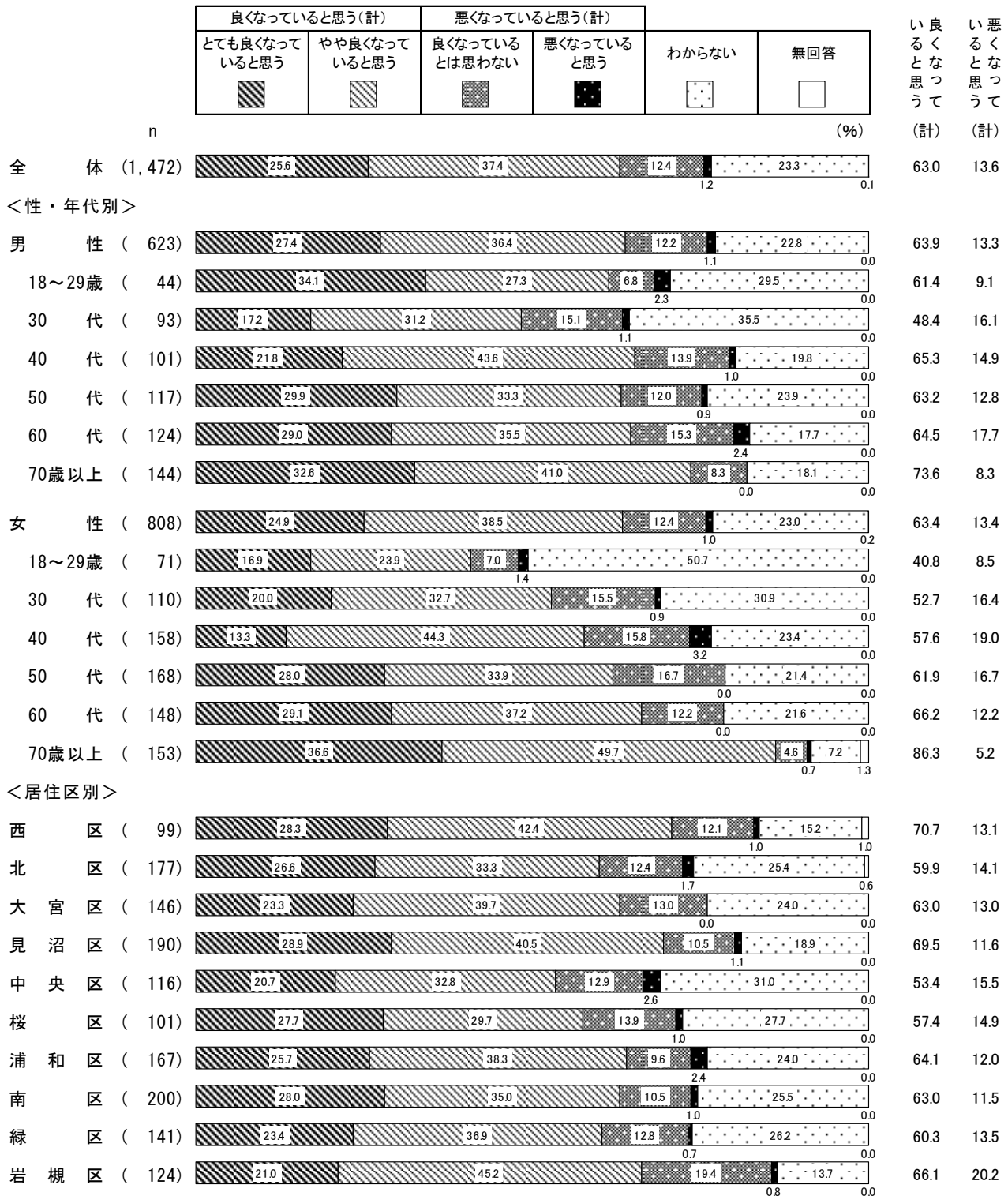
(注記) 令和4年度以前は、この1年以内に市役所を利用したことがある人を対象に再集計した結果を示している。

全体結果

「とても良くなっていると思う」(25.6%)と「やや良くなっていると思う」(37.4%)を合わせた『良くなっていると思う(計)』(63.0%)は、6割を超えた。一方、「良くなっているとは思わない」(12.4%)と「悪くなっていると思う」(1.2%)を合わせた『悪くなっていると思う(計)』(13.6%)は、1割を超えた。

過去4年間の調査結果と比較すると、『良くなっていると思う(計)』は、令和5年度以降6割台で推移している。(図4-4-1)

図 4-4-2 市職員のイメージ性・年代別、居住区別―



属 性 別

性・年代別でみると、『良くなっていると思う(計)』は、女性70歳以上が86.3%で最も高く、男性70歳以上(73.6%)も7割を超えた。一方、男性30代(48.4%)、女性18～29歳(40.8%)は4割台であった。

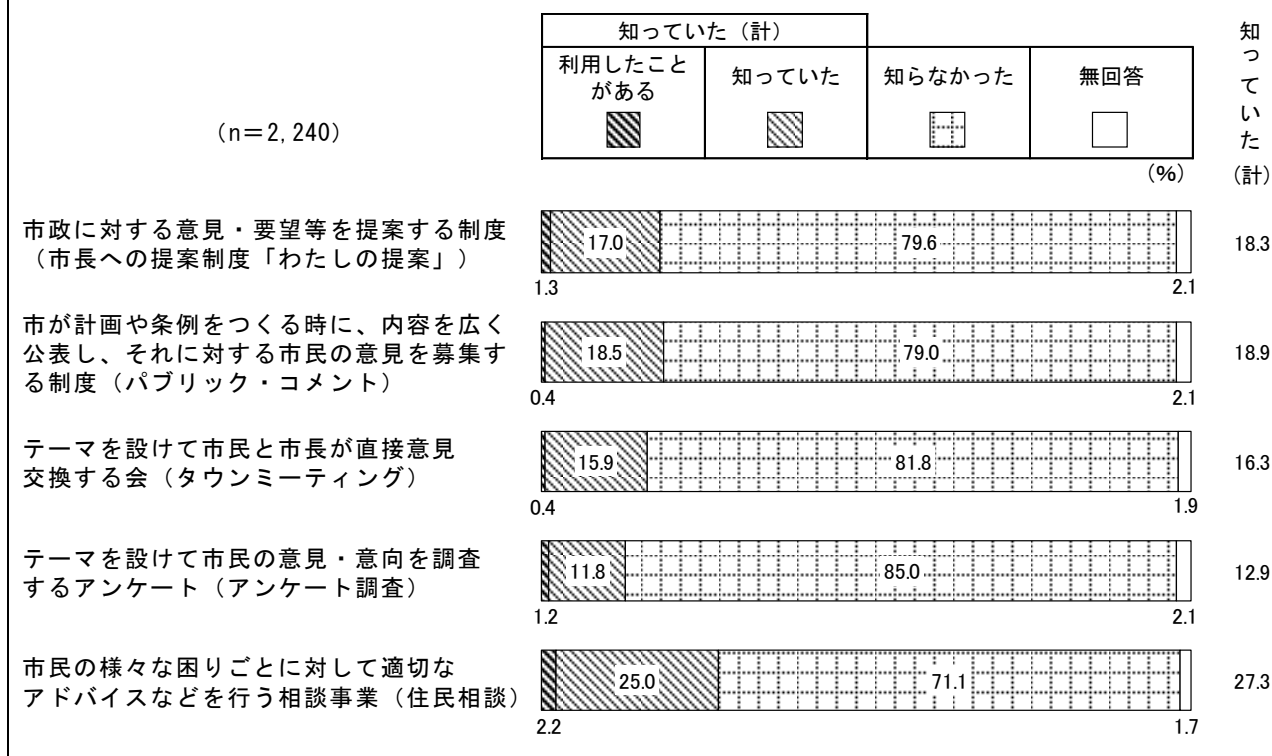
居住区別でみると、『良くなっていると思う(計)』は、すべての区で5割を超え、西区(70.7%)はほぼ7割であった。(図4-4-2)

(5) 市民の声を聴く事業の認知度

問12 さいたま市では、広く市民の声を聴く事業を行っています。

(1) 以下の1～5の事業について、どの程度知っていましたか。(○はそれぞれ1つずつ)

図4-5-1 市民の声を聴く事業の認知度



全体結果

「利用したことがある」と「知っていた」を合わせた『知っていた (計)』は、「住民相談」が 27.3%、「パブリック・コメント」が 18.9%、「わたしの提案」が 18.3%、「タウンミーティング」が 16.3%、「アンケート調査」が 12.9%であった。(図4-5-1)

表 4-5-1 市民の声を聴く事業の認知度－性・年代別、居住区別－（その１）

		わたしの提案					パブリック・コメント					タウンミーティング				
	n	利用 した こと が あ る	知 っ て い た	知 ら な か つ た	無 回 答	知 っ て い た （ 計 ）	利用 した こと が あ る	知 っ て い た	知 ら な か つ た	無 回 答	知 っ て い た （ 計 ）	利用 した こと が あ る	知 っ て い た	知 ら な か つ た	無 回 答	知 っ て い た （ 計 ）
全 体	2,240	1.3	17.0	79.6	2.1	18.3	0.4	18.5	79.0	2.1	18.9	0.4	15.9	81.8	1.9	16.3
<性・年代別>																
男 性	944	0.7	15.9	81.5	1.9	16.6	0.3	22.1	75.5	2.0	22.5	0.4	15.6	82.1	1.9	16.0
18～29歳	86	1.2	7.0	91.9	-	8.1	1.2	14.0	84.9	-	15.1	1.2	5.8	93.0	-	7.0
30 代	124	0.8	8.1	91.1	-	8.9	0.8	22.6	76.6	-	23.4	-	16.1	83.9	-	16.1
40 代	160	1.3	10.0	88.8	-	11.3	0.6	16.9	82.5	-	17.5	-	15.0	85.0	-	15.0
50 代	205	0.5	17.6	81.5	0.5	18.0	-	23.9	75.6	0.5	23.9	0.5	18.5	80.5	0.5	19.0
60 代	172	1.2	19.8	76.7	2.3	20.9	-	26.7	70.9	2.3	26.7	-	16.3	81.4	2.3	16.3
70歳以上	197	-	24.4	69.0	6.6	24.4	-	23.9	69.0	7.1	23.9	1.0	16.2	76.1	6.6	17.3
女 性	1,232	1.7	17.9	78.6	1.8	19.6	0.6	16.1	81.7	1.7	16.6	0.3	16.2	82.1	1.5	16.5
18～29歳	131	-	7.6	92.4	-	7.6	0.8	13.0	86.3	-	13.7	-	6.1	93.9	-	6.1
30 代	165	1.2	10.3	87.9	0.6	11.5	1.8	10.9	87.3	-	12.7	0.6	10.3	89.1	-	10.9
40 代	230	4.8	16.1	79.1	-	20.9	0.4	18.7	80.4	0.4	19.1	0.4	15.7	83.5	0.4	16.1
50 代	254	1.6	18.5	79.9	-	20.1	0.4	13.8	85.4	0.4	14.2	-	17.7	81.9	0.4	17.7
60 代	211	0.5	22.7	74.4	2.4	23.2	-	18.5	79.1	2.4	18.5	0.5	19.0	79.1	1.4	19.4
70歳以上	238	1.3	26.1	66.0	6.7	27.3	0.4	19.3	74.4	5.9	19.7	0.4	22.3	71.8	5.5	22.7
<居住区別>																
西 区	145	-	22.8	75.2	2.1	22.8	-	14.5	83.4	2.1	14.5	0.7	11.7	85.5	2.1	12.4
北 区	256	1.2	15.6	82.0	1.2	16.8	0.4	16.4	82.0	1.2	16.8	-	14.1	84.8	1.2	14.1
大 宮 区	230	0.4	16.5	82.6	0.4	17.0	-	20.0	79.6	0.4	20.0	-	18.3	81.3	0.4	18.3
見 沼 区	269	1.1	15.6	80.7	2.6	16.7	0.7	17.1	79.9	2.2	17.8	1.5	14.5	81.8	2.2	16.0
中 央 区	177	1.7	17.5	78.5	2.3	19.2	-	20.3	77.4	2.3	20.3	-	26.0	72.3	1.7	26.0
桜 区	155	2.6	13.5	81.9	1.9	16.1	0.6	12.3	85.2	1.9	12.9	-	11.0	87.1	1.9	11.0
浦 和 区	286	1.7	17.8	79.0	1.4	19.6	0.3	23.8	74.5	1.4	24.1	0.3	17.1	81.5	1.0	17.5
南 区	315	1.6	15.2	81.9	1.3	16.8	0.6	17.5	80.6	1.3	18.1	-	13.3	85.4	1.3	13.3
緑 区	211	0.9	18.5	77.7	2.8	19.4	0.5	20.9	75.8	2.8	21.3	0.9	13.7	82.5	2.8	14.7
岩 槻 区	176	1.7	18.8	76.1	3.4	20.5	1.1	19.3	75.6	4.0	20.5	-	19.9	77.3	2.8	19.9

属 性 別

「わたしの提案」について、性・年代別でみると、『知っていた（計）』は、女性 70 歳以上（27.3%）が最も高く、男性 60 代以上、女性 40 代以上で 2 割台であった。

「パブリック・コメント」について、性・年代別でみると、『知っていた（計）』は、男性（22.5%）が女性（16.6%）より 5.9 ポイント高く、男性 30 代と 50 代以上で 2 割台であった。

「タウンミーティング」について、性・年代別でみると、『知っていた（計）』は、女性 70 歳以上（22.7%）で 2 割を超えた。（表 4-5-1）

表 4－5－1 市民の声を聴く事業の認知度－性・年代別、居住区別－（その２）

		アンケート調査					住民相談				
	n	利用 した こと が あ る	知 っ て い た	知 ら な か っ た	無 回 答	知 っ て い た （ 計 ）	利用 した こと が あ る	知 っ て い た	知 ら な か っ た	無 回 答	知 っ て い た （ 計 ）
全 体	2,240	1.2	11.8	85.0	2.1	12.9	2.2	25.0	71.1	1.7	27.3
<性・年代別>											
男 性	944	1.3	12.6	84.3	1.8	13.9	1.2	19.6	77.5	1.7	20.8
18～29歳	86	3.5	10.5	86.0	-	14.0	1.2	9.3	89.5	-	10.5
30 代	124	2.4	13.7	83.9	-	16.1	-	12.1	87.9	-	12.1
40 代	160	-	7.5	92.5	-	7.5	1.9	13.8	84.4	-	15.6
50 代	205	1.0	12.7	85.9	0.5	13.7	0.5	18.0	81.0	0.5	18.5
60 代	172	1.2	15.7	80.8	2.3	16.9	1.7	27.9	68.6	1.7	29.7
70歳以上	197	1.0	14.2	78.7	6.1	15.2	1.5	27.9	64.5	6.1	29.4
女 性	1,232	1.1	11.2	85.9	1.8	12.3	3.2	29.3	66.4	1.1	32.5
18～29歳	131	-	12.2	87.8	-	12.2	-	14.5	85.5	-	14.5
30 代	165	3.6	5.5	90.9	-	9.1	1.8	12.1	86.1	-	13.9
40 代	230	1.7	10.4	87.8	-	12.2	3.0	19.1	77.8	-	22.2
50 代	254	0.4	9.4	89.8	0.4	9.8	3.9	29.5	66.5	-	33.5
60 代	211	1.4	10.0	85.8	2.8	11.4	5.2	40.8	52.6	1.4	46.0
70歳以上	238	-	18.5	75.2	6.3	18.5	3.4	49.2	42.9	4.6	52.5
<居住区別>											
西 区	145	1.4	11.0	85.5	2.1	12.4	2.1	31.0	64.8	2.1	33.1
北 区	256	1.2	11.3	86.7	0.8	12.5	1.6	24.6	73.8	-	26.2
大 宮 区	230	0.9	12.6	85.7	0.9	13.5	1.7	24.3	73.5	0.4	26.1
見 沼 区	269	1.9	10.4	85.1	2.6	12.3	3.3	23.8	71.4	1.5	27.1
中 央 区	177	0.6	15.3	81.9	2.3	15.8	3.4	22.6	72.3	1.7	26.0
桜 区	155	-	11.0	87.7	1.3	11.0	2.6	27.7	67.7	1.9	30.3
浦 和 区	286	1.0	10.5	87.4	1.0	11.5	1.4	24.1	73.1	1.4	25.5
南 区	315	0.6	10.8	87.0	1.6	11.4	2.2	24.8	71.7	1.3	27.0
緑 区	211	2.4	11.8	82.9	2.8	14.2	2.4	23.7	71.6	2.4	26.1
岩 槻 区	176	1.7	15.3	79.5	3.4	17.0	2.3	27.3	68.2	2.3	29.5

属 性 別

「アンケート調査」について、性・年代別でみると、『知っていた（計）』は、女性 70 歳以上で 2 割近くであった。

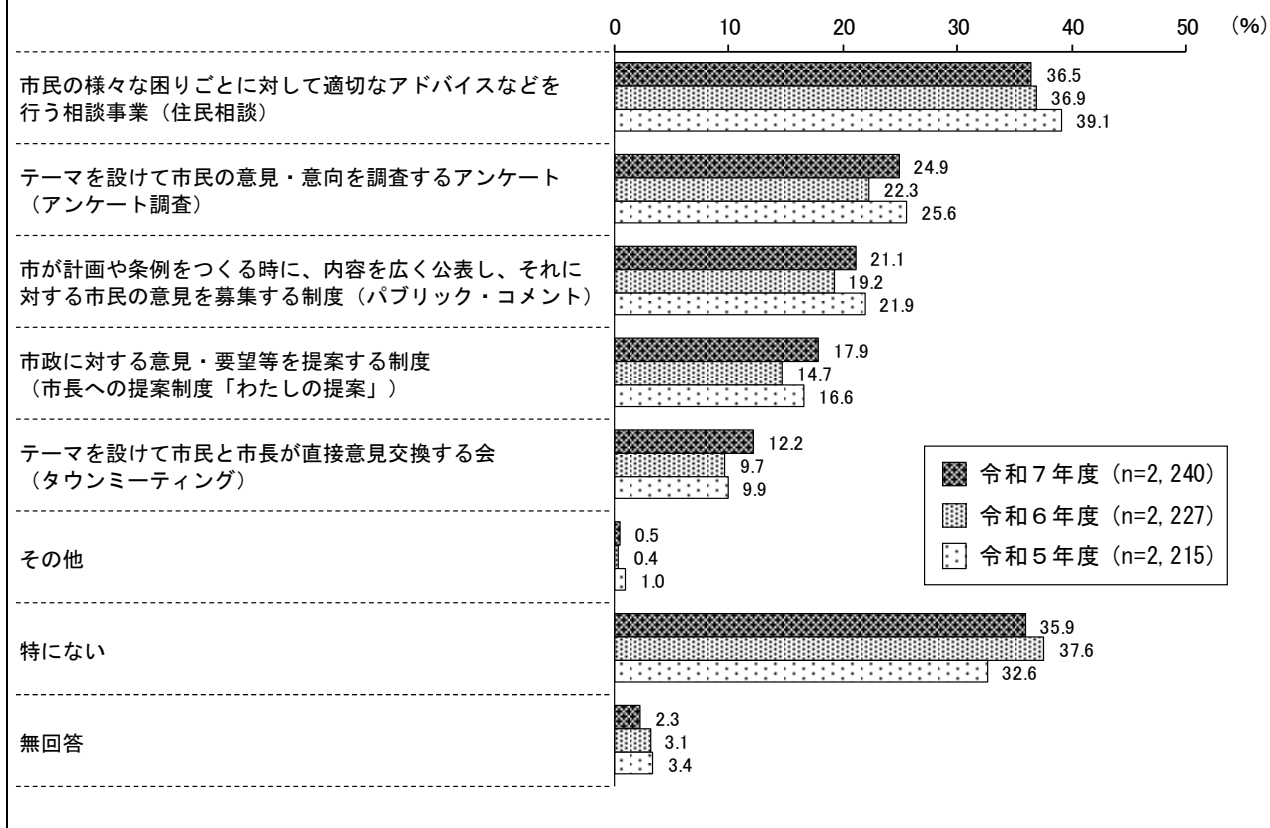
「住民相談」について、性・年代別でみると、『知っていた（計）』は、女性（32.5%）が男性（20.8%）より 11.7 ポイント高く、女性 70 歳以上（52.5%）で 5 割を超えた。（表 4－5－1）

(6) 今後利用してみたい事業

問12 さいたま市では、広く市民の声を聴く事業を行っています。

(2) 前問と同じ1～5の項目で、あなたが今後利用してみたい、あるいは、機会があれば協力してみたい事業に○をつけてください。(○はいくつでも)

図4-6-1 今後利用してみたい事業



全体結果

「住民相談」が36.5%で最も高く、「アンケート調査」(24.9%)、「パブリック・コメント」(21.1%)が続いた。

過去2年間の調査結果と比較すると、令和6年度と比べ、「わたしの提案」(17.9%)は3.2ポイント増加し、「住民相談」以外の項目が増加した。(図4-6-1)

表 4－6－1 今後利用してみたい事業－性・年代別、居住区別－

(%)

	n	市民の様々な困りごとを行う相手として適切なアドバイザーなどを行う相談事業（住民相談）	テーマを設けて市民の意見・意向を調査するアンケート（アンケート調査）	市の計画や条例をつくる時に、市民の意見を募集する制度（パブリック・コメント）	市政に対する意見・要望等を提案する制度（市長への提案制度「わたしの提案」）	意見交換する会（タウンミーティング）	その他	特にない	無回答
全 体	2,240	36.5	24.9	21.1	17.9	12.2	0.5	35.9	2.3
＜性・年代別＞									
男 性	944	32.9	26.1	23.9	19.7	14.4	0.4	37.0	2.1
18～29歳	86	15.1	8.1	16.3	19.8	5.8	－	58.1	1.2
30 代	124	23.4	31.5	31.5	29.0	22.6	1.6	36.3	－
40 代	160	32.5	29.4	30.0	25.0	16.9	－	36.3	1.3
50 代	205	32.2	27.3	20.0	16.6	18.0	－	36.1	1.0
60 代	172	40.1	27.3	23.8	17.4	14.0	0.6	30.8	1.7
70歳以上	197	41.6	25.4	21.8	14.7	7.6	0.5	35.0	6.1
女 性	1,232	39.5	24.6	18.9	16.3	10.8	0.6	35.1	1.9
18～29歳	131	20.6	18.3	17.6	19.8	9.2	－	48.9	0.8
30 代	165	26.7	28.5	24.2	24.8	12.7	0.6	41.2	－
40 代	230	33.5	28.3	26.1	17.0	12.2	1.7	33.5	1.7
50 代	254	39.8	25.2	11.0	14.6	9.8	－	35.0	2.0
60 代	211	50.2	18.0	15.6	14.2	9.5	0.9	32.7	2.8
70歳以上	238	55.0	26.9	20.2	11.8	10.5	－	27.3	3.4
＜居住区別＞									
西 区	145	38.6	29.0	20.7	22.8	11.0	－	30.3	2.8
北 区	256	36.7	30.9	22.3	17.2	14.1	0.8	33.2	2.0
大 宮 区	230	36.5	26.5	23.5	17.4	16.1	1.7	34.3	0.9
見 沼 区	269	40.1	25.3	23.0	18.6	12.3	－	35.7	1.9
中 央 区	177	37.3	23.7	22.6	18.6	14.1	1.7	34.5	1.1
桜 区	155	32.9	23.9	17.4	12.3	11.6	－	40.0	2.6
浦 和 区	286	39.5	24.8	18.9	15.4	10.5	0.3	36.4	2.4
南 区	315	32.4	23.5	20.6	17.1	10.2	－	38.4	1.0
緑 区	211	35.1	22.3	20.9	20.4	13.7	－	35.5	3.8
岩 槻 区	176	35.2	20.5	19.3	19.9	9.7	0.6	40.9	4.0

属 性 別

性・年代別でみると、「住民相談」以外の項目は男性が女性より高く、「パブリック・コメント」は5.0ポイント高かった。一方、「住民相談」は、女性（39.5%）が男性（32.9%）より6.6ポイント高かった。また、「特にない」は女性30代以下が4割台であった。（表4－6－1）

5. 市政への満足度・重視度

(1) 図、表中の項目表示簡略化対照表

図、表中の項目表示簡略化対照表を示す。(表5-1-1)

表5-1-1 図、表中の項目表示簡略化対照表

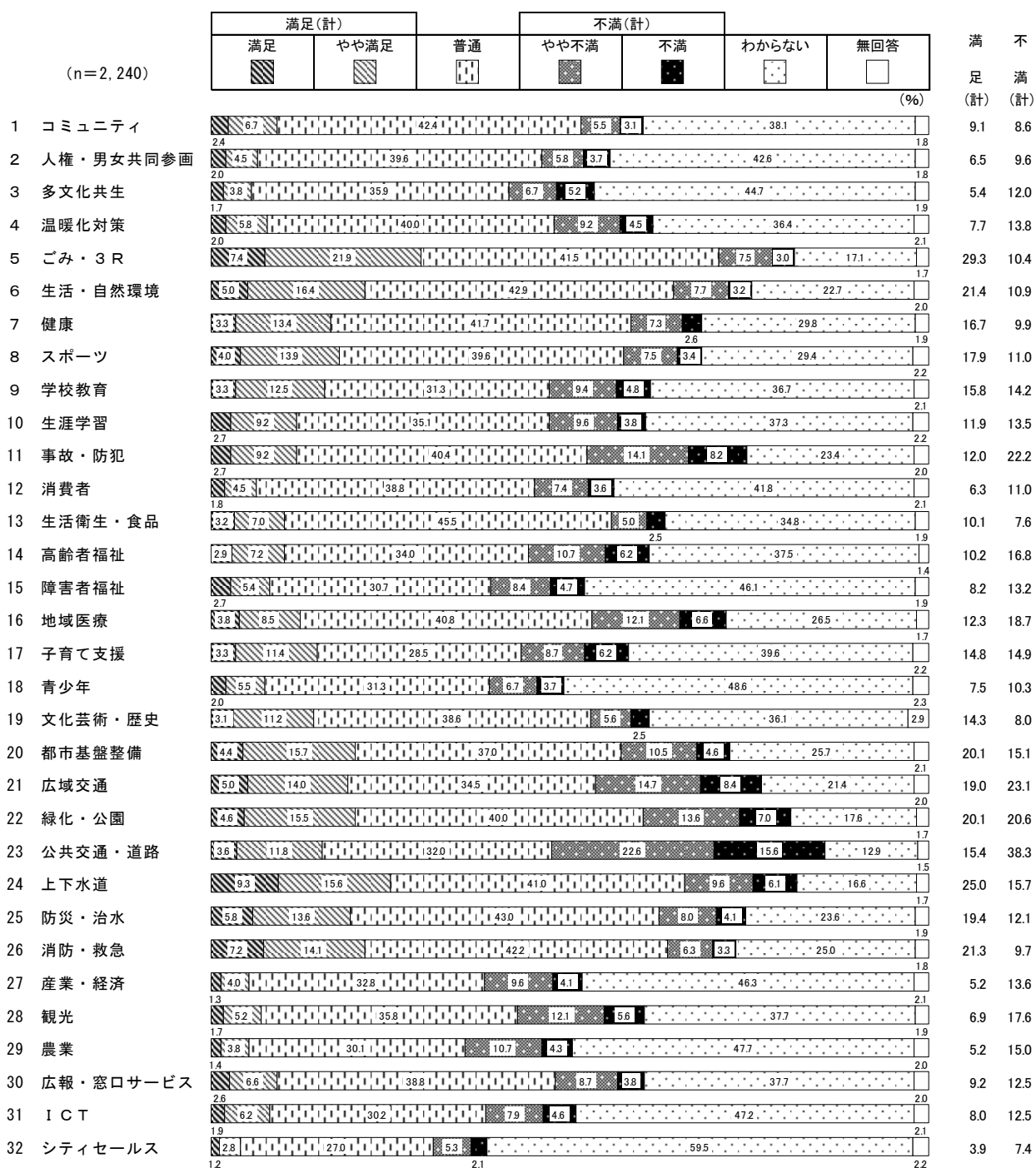
調査票内表示		報告書内表示
コミュニティ ・人権 ・多文化共生	1 地域住民等の交流や自主的活動の促進	コミュニティ
	2 人権尊重社会の実現／男女共同参画社会の実現	人権・男女共同参画
	3 国際交流・多文化共生社会の推進／恒久平和への貢献	多文化共生
環 境	4 地球温暖化対策の推進	温暖化対策
	5 ごみの適正な処理／3R（減量・再使用・再生）の推進	ごみ・3R
	6 良好な生活環境と自然環境の保全・創造	生活・自然環境
健康 ・スポーツ	7 スポーツなどを通じた健康づくりの推進	健康
	8 スポーツの振興／スポーツ環境の充実	スポーツ
教 育	9 魅力ある学校教育の推進	学校教育
	10 生涯学習の振興／学習環境の充実	生涯学習
生活安全	11 交通事故防止／防犯対策の推進	事故・防犯
	12 消費者トラブル防止	消費者
	13 生活衛生と食品の安全	生活衛生・食品
福祉・医療	14 高齢者福祉の充実	高齢者福祉
	15 障害者福祉の充実	障害者福祉
	16 地域医療体制・感染症対策の充実	地域医療
子ども ・子育て	17 子育て支援の充実	子育て支援
	18 青少年の健全育成	青少年
文 化	19 文化芸術の振興／歴史文化資源の保存・継承・活用	文化芸術・歴史
都市 インフラ	20 都心・副都心の都市基盤整備	都市基盤整備
	21 広域交通網の整備	広域交通
	22 緑化の推進・公園整備／良好な住環境の形成	緑化・公園
	23 身近な公共交通／生活道路・自転車利用環境の整備	公共交通・道路
	24 安全・安定的な水の供給／下水道の整備	上下水道
防災・消防	25 防災・治水対策	防災・治水
	26 消防・救急体制の強化	消防・救急
経済・産業	27 新たな産業の創出／地域経済支援／就労支援	産業・経済
	28 観光の振興	観光
	29 都市農業の振興	農業
質の高い 都市経営	30 広報・広聴機能の充実／効率的な窓口サービス	広報・窓口サービス
	31 ICTやデータを活用した行政サービス	ICT
	32 シティセールスの推進	シティセールス

(2) 施策や事業の満足度

問13 あなたは、以下の1～32の施策や事業について、どの程度満足していますか。

(○はそれぞれ1つつつ)

図5-2-1 施策や事業の満足度



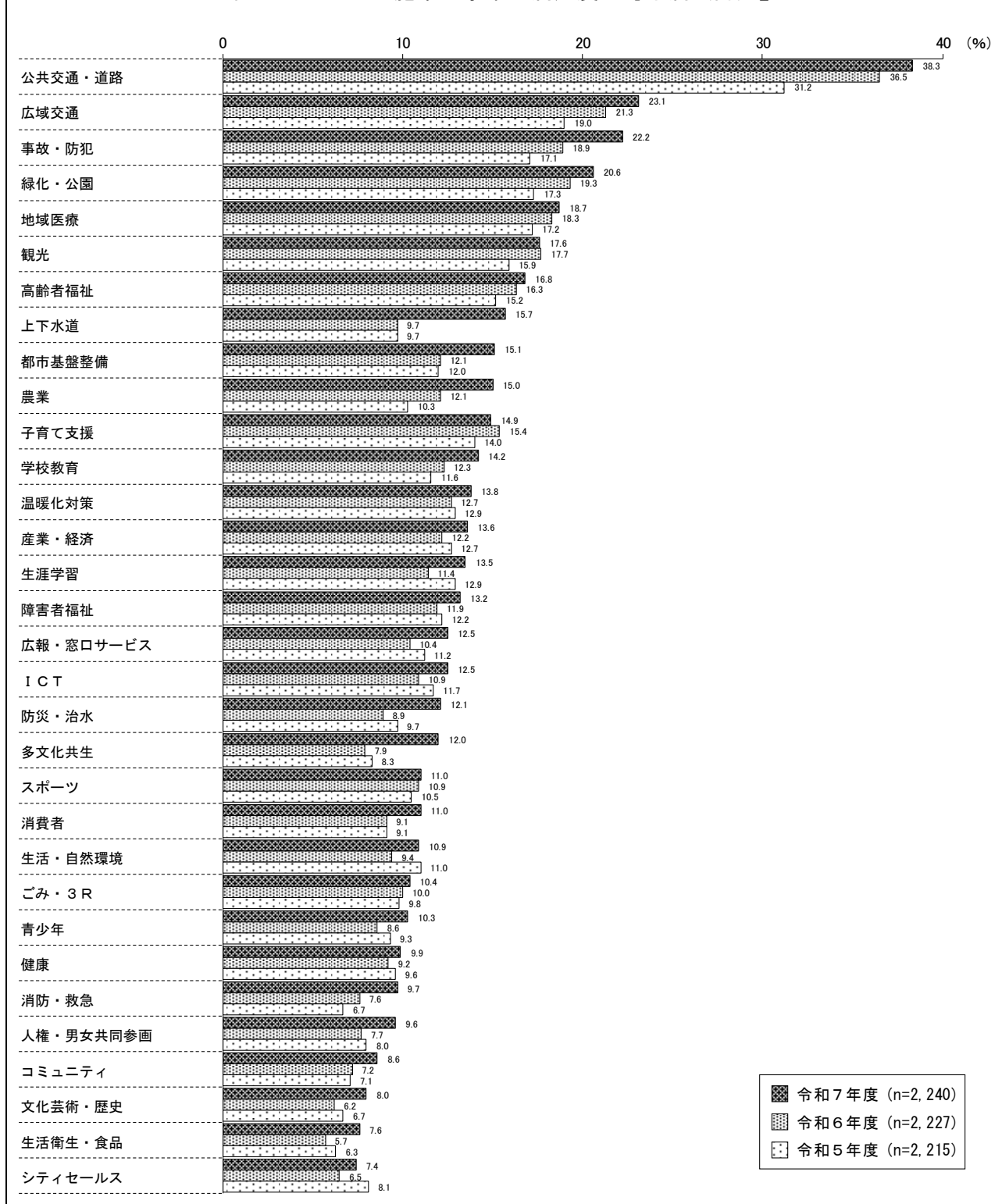
全体結果

「満足」と「やや満足」を合わせた『満足(計)』は、「ごみ・3R」が29.3%で最も高く、「上下水道」(25.0%)が続いた。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満(計)』は、「公共交通・道路」が38.3%で最も高く、「広域交通」(23.1%)、「事故・防犯」(22.2%)が続いた。

『満足(計)』が『不満(計)』を上回ったのは12項目で、『不満(計)』が『満足(計)』を上回ったのは20項目であった。(図5-2-1)

(3) 施策や事業の満足度の『不満（計）』

図5-3-1 施策や事業の満足度の『不満（計）』



全体結果

「公共交通・道路」が38.3%で最も高く、「広域交通」(23.1%)、「事故・防犯」(22.2%)が続いた。

過去2年間の調査結果と比較すると、令和6年度と比べ、「上下水道」(15.7%)は6.0ポイント、「多文化共生」(12.0%)は4.1ポイント、「事故・防犯」は3.3ポイント、「防災・治水」(12.1%)は3.2ポイント増加した。(図5-3-1)

表 5-3-1 施策や事業の満足度の『不満（計）』上位 6 項目－性・年代別－

男性（計） (n=944)	(%)	男性18～29歳 (n=86)	(%)	男性30代 (n=124)	(%)	男性40代 (n=160)	(%)
公共交通・道路	37.8	公共交通・道路	32.6	公共交通・道路	37.9	公共交通・道路	42.5
広域交通	27.4	事故・防犯	25.6	事故・防犯	37.1	広域交通	29.4
事故・防犯	26.0	広域交通	19.8	広域交通	31.5	子育て支援	28.1
観光	22.4	観光	18.6	子育て支援	25.8	事故・防犯	25.6
緑化・公園	20.4	農業	18.6	多文化共生	23.4	都市基盤整備	23.8
地域医療	19.4	多文化共生	15.1	観光	22.6	観光	23.8
		緑化・公園	15.1				

男性50代 (n=205)	(%)	男性60代 (n=172)	(%)	男性70歳以上 (n=197)	(%)
公共交通・道路	37.6	公共交通・道路	39.5	公共交通・道路	35.0
事故・防犯	24.9	広域交通	33.7	高齢者福祉	26.9
観光	23.9	高齢者福祉	30.2	広域交通	25.9
広域交通	22.9	事故・防犯	28.5	地域医療	22.3
地域医療	22.4	観光	27.9	緑化・公園	20.3
緑化・公園	20.0	地域医療	26.2	事故・防犯	18.3

女性（計） (n=1,232)	(%)	女性18～29歳 (n=131)	(%)	女性30代 (n=165)	(%)	女性40代 (n=230)	(%)
公共交通・道路	38.3	公共交通・道路	23.7	公共交通・道路	34.5	公共交通・道路	42.6
緑化・公園	20.4	事故・防犯	19.8	子育て支援	22.4	事故・防犯	26.1
広域交通	19.7	広域交通	14.5	事故・防犯	21.8	子育て支援	23.5
事故・防犯	19.2	I C T	13.7	緑化・公園	20.0	学校教育	22.6
地域医療	18.2	多文化共生	13.0	広域交通	18.8	緑化・公園	22.2
上下水道	16.0	温暖化対策	13.0	上下水道	18.2	広域交通	19.6

女性50代 (n=254)	(%)	女性60代 (n=211)	(%)	女性70歳以上 (n=238)	(%)
公共交通・道路	40.6	公共交通・道路	40.3	公共交通・道路	40.8
広域交通	20.9	地域医療	25.1	高齢者福祉	26.1
地域医療	18.9	高齢者福祉	24.2	緑化・公園	24.8
上下水道	17.7	緑化・公園	23.2	広域交通	23.5
緑化・公園	17.3	上下水道	20.9	地域医療	22.3
事故・防犯	16.9	温暖化対策	20.4	障害者福祉	18.9

（注記）男性 18～29 歳は、「多文化共生」と「緑化・公園」が同じ割合で 6 位であった。

属 性 別

性・年代別でみると、「公共交通・道路」は、男女ともすべての年代で 1 位であった。また、「広域交通」、「事故・防犯」、「緑化・公園」は幅広い年代で上位 6 項目に入った。一方、「子育て支援」は男女とも 30～40 代、「地域医療」は男女とも 50 代以上、「高齢者福祉」は男女とも 60 代以上など、特定の年代で上位 6 項目に入った。（表 5-3-1）

表５－３－２ 施策や事業の満足度の『不満（計）』上位６項目－居住区別－

西 区 (n=145)	(%)	北 区 (n=256)	(%)	大宮区 (n=230)	(%)	見沼区 (n=269)	(%)	中央区 (n=177)	(%)
公共交通・道路	42.1	公共交通・道路	34.8	公共交通・道路	36.1	公共交通・道路	40.1	公共交通・道路	37.9
広域交通	31.7	広域交通	24.6	事故・防犯	25.2	広域交通	25.7	緑化・公園	24.3
農業	22.1	地域医療	23.8	緑化・公園	20.4	事故・防犯	22.3	事故・防犯	21.5
観光	20.7	緑化・公園	21.9	高齢者福祉	19.6	地域医療	20.4	観光	20.3
緑化・公園	18.6	事故・防犯	21.5	広域交通	19.6	高齢者福祉	19.3	広域交通	19.2
事故・防犯	17.9	都市基盤整備	19.5	観光	19.1	緑化・公園	16.7	広報・窓口サービス	17.5

桜 区 (n=155)	(%)	浦和区 (n=286)	(%)	南 区 (n=315)	(%)	緑 区 (n=211)	(%)	岩槻区 (n=176)	(%)
公共交通・道路	41.3	公共交通・道路	37.8	公共交通・道路	38.7	公共交通・道路	38.9	公共交通・道路	37.5
広域交通	20.0	事故・防犯	21.3	事故・防犯	26.0	事故・防犯	22.7	広域交通	35.2
防災・治水	18.7	緑化・公園	21.0	地域医療	24.4	広域交通	22.3	事故・防犯	23.9
緑化・公園	18.1	広域交通	17.1	緑化・公園	23.5	緑化・公園	19.4	都市基盤整備	23.9
事故・防犯	16.8	観光	16.1	広域交通	21.6	農業	17.5	地域医療	22.7
観光	15.5	学校教育	14.7	上下水道	20.3	上下水道	15.6	観光	22.2

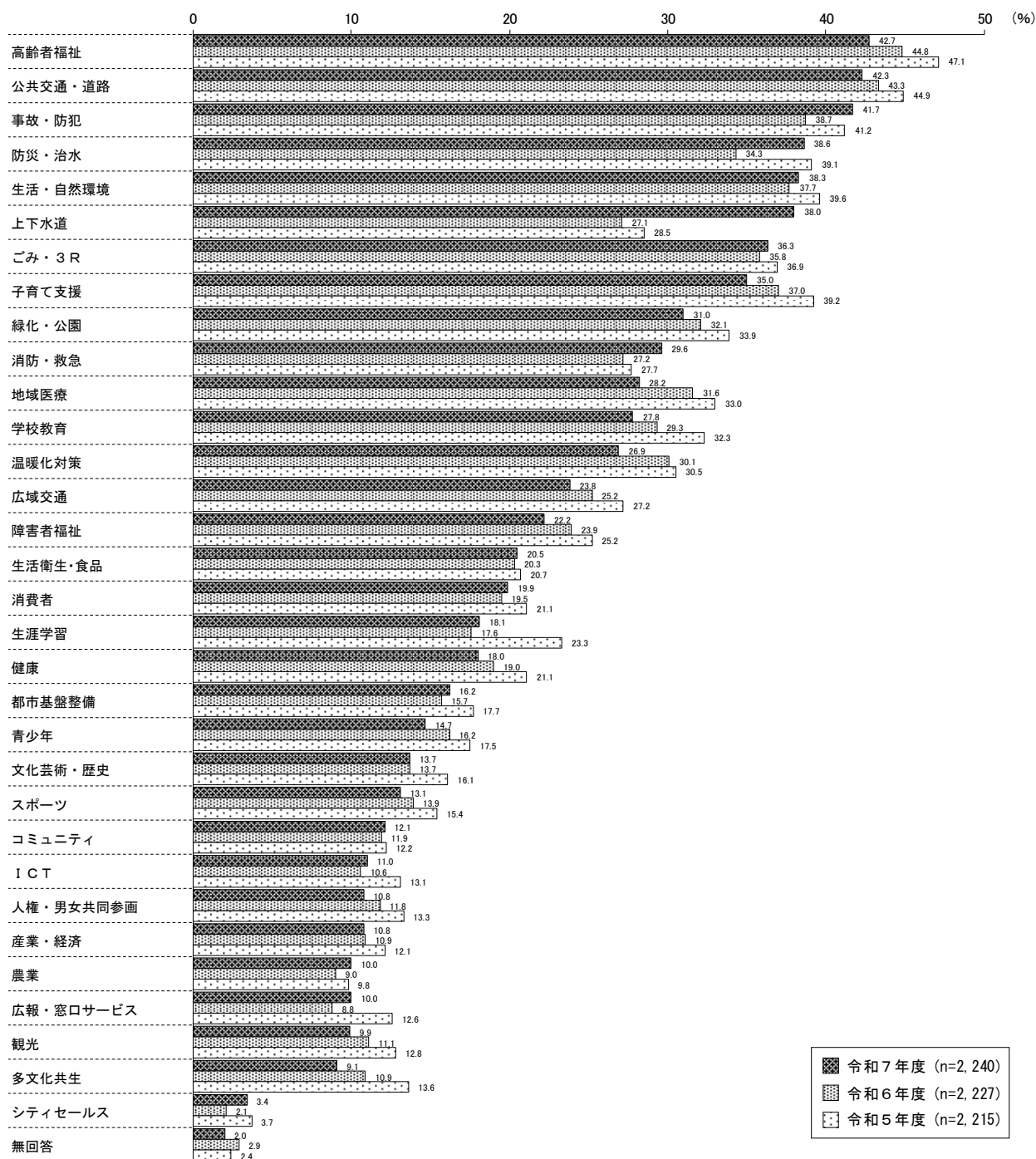
属 性 別

居住区別でみると、「公共交通・道路」は、すべての区で１位であった。「事故防犯」、「広域交通」は１０区すべて、「緑化・公園」は岩槻区以外の９区、「観光」は６区、「地域医療」は４区で６位以内となった。（表５－３－２）

(4) 今後力を入れてほしい施策

問14 前問と同じ1～32の項目の中で、あなたが、今後力を入れて取り組んでほしいと思うものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

図5-4-1 今後力を入れてほしい施策



全体結果

「高齢者福祉」が42.7%で最も高く、「公共交通・道路」(42.3%)、「事故・防犯」(41.7%)が続いた。

過去2年間の調査結果と比較すると、「上下水道」(38.0%)は10.9ポイント、「防災・治水」(38.6%)は4.3ポイント増加した。(図5-4-1)

表 5-4-1 今後力を入れてほしい施策（上位 6 項目）－性・年代別－

男性（計） （n=944）	（％）	男性18～29歳 （n=86）	（％）	男性30代 （n=124）	（％）	男性40代 （n=160）	（％）
事故・防犯	42.5	子育て支援	29.1	子育て支援	54.8	子育て支援	56.9
高齢者福祉	40.0	事故・防犯	23.3	学校教育	45.2	公共交通・道路	43.8
公共交通・道路	38.0	公共交通・道路	23.3	事故・防犯	37.9	事故・防犯	43.1
防災・治水	37.6	学校教育	20.9	公共交通・道路	36.3	学校教育	42.5
生活・自然環境	36.4	ごみ・3R	19.8	生活・自然環境	33.9	生活・自然環境	40.0
子育て支援	35.8	生活・自然環境	19.8	防災・治水	33.1	防災・治水	37.5
		スポーツ	19.8				

男性50代 （n=205）	（％）	男性60代 （n=172）	（％）	男性70歳以上 （n=197）	（％）
高齢者福祉	45.4	高齢者福祉	58.7	高齢者福祉	68.0
事故・防犯	42.9	事故・防犯	41.3	事故・防犯	53.8
防災・治水	40.5	防災・治水	41.3	ごみ・3R	50.3
公共交通・道路	36.6	生活・自然環境	40.1	上下水道	44.2
生活・自然環境	33.7	公共交通・道路	40.1	防災・治水	44.2
ごみ・3R	33.2	ごみ・3R	39.0	生活・自然環境	42.1
		上下水道	39.0		

女性（計） （n=1,232）	（％）	女性18～29歳 （n=131）	（％）	女性30代 （n=165）	（％）	女性40代 （n=230）	（％）
公共交通・道路	45.7	子育て支援	43.5	子育て支援	66.7	公共交通・道路	45.2
高齢者福祉	45.2	公共交通・道路	42.0	学校教育	44.8	子育て支援	44.8
上下水道	41.4	防災・治水	31.3	公共交通・道路	44.2	学校教育	42.6
事故・防犯	41.3	上下水道	29.8	事故・防犯	38.8	事故・防犯	40.9
生活・自然環境	40.5	生活・自然環境	27.5	防災・治水	36.4	生活・自然環境	39.6
防災・治水	39.3	事故・防犯	27.5	上下水道	35.8	防災・治水	37.0

女性50代 （n=254）	（％）	女性60代 （n=211）	（％）	女性70歳以上 （n=238）	（％）
高齢者福祉	50.8	高齢者福祉	61.6	高齢者福祉	73.1
公共交通・道路	46.9	生活・自然環境	51.2	ごみ・3R	55.9
上下水道	45.3	事故・防犯	49.8	温暖化対策	52.5
防災・治水	41.7	ごみ・3R	47.4	生活・自然環境	48.3
事故・防犯	40.9	公共交通・道路	47.4	上下水道	47.5
ごみ・3R	39.0	上下水道	47.4	公共交通・道路	46.6

（注記 1）男性 18～29 歳は、「ごみ・3R」と「生活・自然環境」と「スポーツ」が同じ割合で 5 位であった。

（注記 2）男性 60 代は、「ごみ・3R」と「上下水道」が同じ割合で 6 位であった。

属 性 別

性・年代別でみると、「事故・防犯」、「公共交通・道路」、「生活・自然環境」などは幅広い年代で上位 6 項目に入った。一方、「高齢者福祉」は男女とも 50 代以上、「子育て支援」は男女とも 40 代以下の、特定の年代で上位 6 項目に入った。（表 5-4-1）

表 5－4－2 今後力を入れてほしい施策（上位 6 項目）－居住区別－

西 区 (n=145)	(%)	北 区 (n=256)	(%)	大宮区 (n=230)	(%)	見沼区 (n=269)	(%)	中央区 (n=177)	(%)
公共交通・道路	42.1	高齢者福祉	45.7	公共交通・道路	42.2	公共交通・道路	49.1	事故・防犯	45.8
事故・防犯	41.4	公共交通・道路	43.8	高齢者福祉	40.9	事故・防犯	46.5	高齢者福祉	44.1
防災・治水	39.3	上下水道	43.8	事故・防犯	39.6	高齢者福祉	43.9	公共交通・道路	42.9
ごみ・3R	37.2	防災・治水	42.2	子育て支援	37.0	防災・治水	40.5	生活・自然環境	40.7
高齢者福祉	37.2	事故・防犯	40.2	生活・自然環境	36.5	生活・自然環境	40.1	子育て支援	39.0
上下水道	36.6	生活・自然環境	37.9	防災・治水	34.8	上下水道	39.8	上下水道	37.3

桜 区 (n=155)	(%)	浦和区 (n=286)	(%)	南 区 (n=315)	(%)	緑 区 (n=211)	(%)	岩槻区 (n=176)	(%)
防災・治水	45.8	高齢者福祉	43.4	事故・防犯	44.4	公共交通・道路	42.7	高齢者福祉	50.0
高齢者福祉	45.2	事故・防犯	42.0	防災・治水	43.2	子育て支援	41.2	公共交通・道路	39.8
事故・防犯	43.9	生活・自然環境	41.3	生活・自然環境	41.3	上下水道	41.2	ごみ・3R	36.4
公共交通・道路	41.9	公共交通・道路	40.2	高齢者福祉	39.4	ごみ・3R	40.3	事故・防犯	35.2
生活・自然環境	34.8	ごみ・3R	38.5	公共交通・道路	39.4	生活・自然環境	39.3	生活・自然環境	33.5
上下水道	34.8	上下水道	37.4	上下水道	39.0	高齢者福祉	39.3	上下水道	33.0
						防災・治水	39.3		

（注記）緑区は、「生活・自然環境」と「高齢者福祉」と「防災・治水」が同じ割合で 5 位であった。

属 性 別

居住区別でみると、「公共交通・道路」は西区など 4 区、「高齢者福祉」は北区、浦和区、岩槻区、「事故・防犯」は中央区、南区、「防災・治水」は桜区で 1 位であった。「高齢者福祉」、「公共交通・道路」は全 10 区、「生活・自然環境」は西区以外の 9 区、「事故・防犯」は緑区以外の 9 区、「上下水道」は大宮区以外の 9 区、「防災・治水」は 7 区で上位 6 項目に入った。（表 5－4－2）

表5-4-3 今後力を入れてほしい施策－性・年代別、居住区別－（その1）

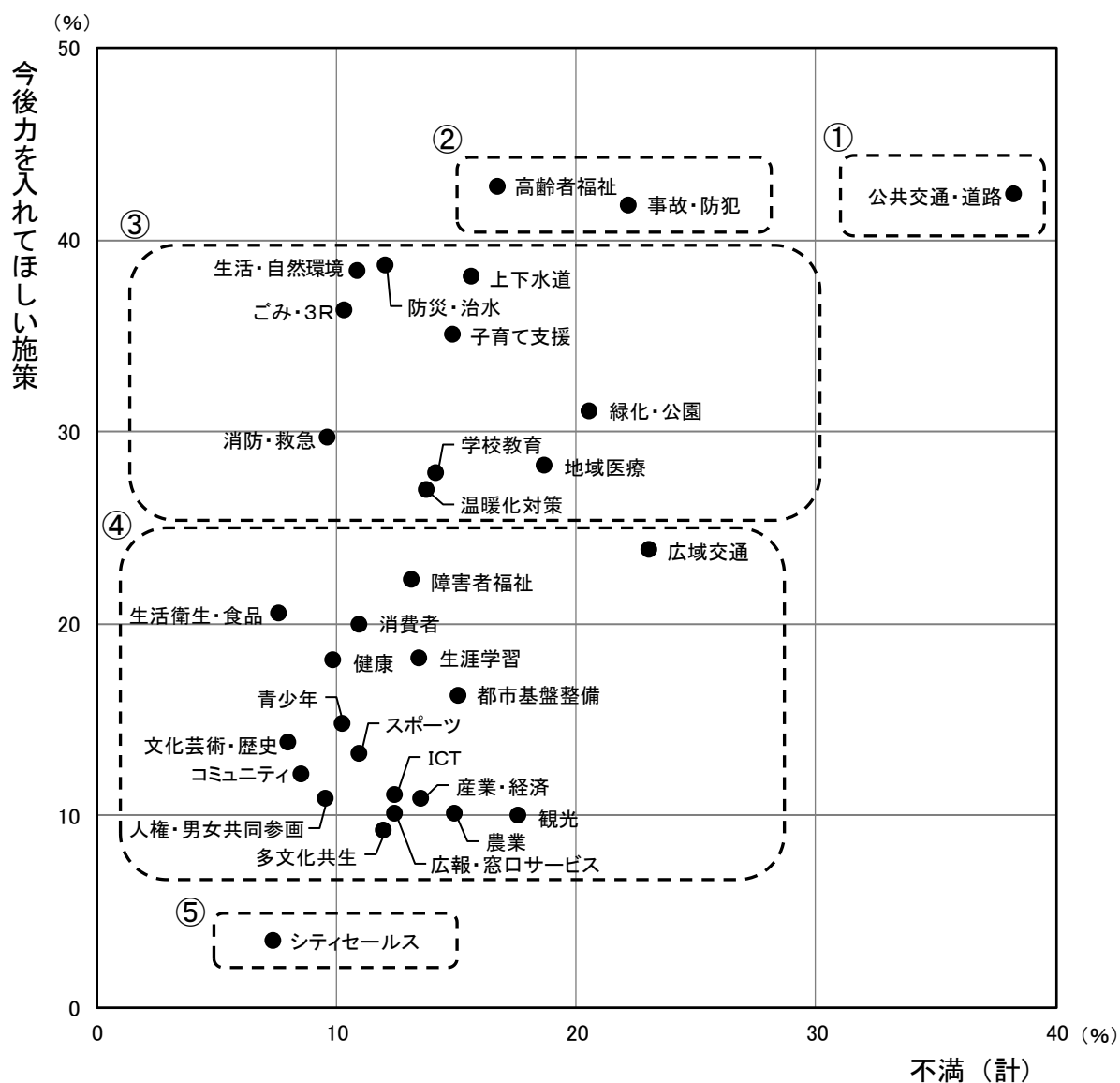
																	(%)
	n	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
		高齢者福祉	公共交通・道路	事故・防犯	防災・治水	生活・自然環境	上下水道	ごみ・3R	子育て支援	緑化・公園	消防・救急	地域医療	学校教育	温暖化対策	広域交通	障害者福祉	生活衛生・食品
全 体	2,240	42.7	42.3	41.7	38.6	38.3	38.0	36.3	35.0	31.0	29.6	28.2	27.8	26.9	23.8	22.2	20.5
<性・年代別>																	
男 性	944	40.0	38.0	42.5	37.6	36.4	33.9	34.4	35.8	28.3	27.1	26.0	27.3	22.7	26.5	19.9	17.5
18～29歳	86	7.0	23.3	23.3	15.1	19.8	18.6	19.8	29.1	14.0	5.8	9.3	20.9	18.6	18.6	5.8	8.1
30 代	124	7.3	36.3	37.9	33.1	33.9	25.8	21.0	54.8	28.2	23.4	19.4	45.2	12.1	32.3	7.3	10.5
40 代	160	21.9	43.8	43.1	37.5	40.0	34.4	30.0	56.9	29.4	28.1	18.1	42.5	16.9	31.3	15.6	16.9
50 代	205	45.4	36.6	42.9	40.5	33.7	30.7	33.2	28.3	28.3	25.4	27.3	24.9	19.5	25.4	18.0	16.6
60 代	172	58.7	40.1	41.3	41.3	40.1	39.0	39.0	24.4	26.2	31.4	32.0	11.0	25.0	26.2	26.2	18.0
70歳以上	197	68.0	40.6	53.8	44.2	42.1	44.2	50.3	27.4	35.5	36.0	37.1	23.4	37.1	23.9	34.0	26.9
女 性	1,232	45.2	45.7	41.3	39.3	40.5	41.4	38.1	35.1	33.7	31.6	30.1	28.9	30.7	22.2	24.3	22.6
18～29歳	131	15.3	42.0	27.5	31.3	27.5	29.8	19.8	43.5	22.9	17.6	19.8	23.7	21.4	22.9	13.0	23.7
30 代	165	17.0	44.2	38.8	36.4	30.3	35.8	22.4	66.7	30.9	31.5	21.8	44.8	13.9	24.2	13.3	18.2
40 代	230	32.2	45.2	40.9	37.0	39.6	35.7	31.7	44.8	34.3	26.1	27.4	42.6	21.7	18.3	23.9	17.4
50 代	254	50.8	46.9	40.9	41.7	38.6	45.3	39.0	20.1	29.1	35.0	31.1	19.3	27.6	20.1	24.8	20.5
60 代	211	61.6	47.4	49.8	46.4	51.2	47.4	47.4	28.9	37.4	38.4	32.7	24.6	38.9	27.0	27.5	24.6
70歳以上	238	73.1	46.6	44.1	39.1	48.3	47.5	55.9	21.4	42.4	34.5	40.8	21.8	52.5	22.3	34.9	30.7
<居住区別>																	
西 区	145	37.2	42.1	41.4	39.3	35.2	36.6	37.2	32.4	23.4	26.2	24.1	21.4	32.4	27.6	18.6	25.5
北 区	256	45.7	43.8	40.2	42.2	37.9	43.8	36.3	37.1	32.0	36.3	34.8	27.7	29.7	30.9	27.3	25.0
大宮区	230	40.9	42.2	39.6	34.8	36.5	34.3	31.3	37.0	31.7	25.7	30.0	30.4	26.1	20.4	22.2	16.5
見沼区	269	43.9	49.1	46.5	40.5	40.1	39.8	37.9	34.9	28.6	30.1	27.5	26.0	33.8	25.7	26.0	20.4
中央区	177	44.1	42.9	45.8	32.2	40.7	37.3	36.7	39.0	35.6	28.8	26.0	30.5	20.9	26.6	19.8	17.5
桜 区	155	45.2	41.9	43.9	45.8	34.8	34.8	29.0	25.2	32.9	30.3	24.5	20.6	25.2	21.9	20.0	23.2
浦和区	286	43.4	40.2	42.0	35.7	41.3	37.4	38.5	36.0	32.5	29.0	28.3	29.7	25.9	16.4	19.9	22.0
南区	315	39.4	39.4	44.4	43.2	41.3	39.0	37.8	36.8	29.8	31.4	27.9	27.9	23.5	18.4	19.4	19.7
緑 区	211	39.3	42.7	36.0	39.3	39.3	41.2	40.3	41.2	37.9	30.3	27.5	35.1	24.2	25.6	20.9	18.5
岩槻区	176	50.0	39.8	35.2	31.8	33.5	33.0	36.4	26.7	23.3	25.6	27.3	26.1	27.8	31.3	27.3	18.2

表5-4-3 今後力を入れてほしい施策－性・年代別、居住区別－（その2）

	n	(%)															
		17 消費者	18 生涯学習	19 健康	20 都市基盤整備	21 青少年	22 文化芸術・歴史	23 スポーツ	24 コミュニティ	25 ICT	26 人権・男女共同参画	27 産業・経済	28 農業	29 広報・窓口サービス	30 観光	31 多文化共生	32 シテイセールス
全 体	2,240	19.9	18.1	18.0	16.2	14.7	13.7	13.1	12.1	11.0	10.8	10.8	10.0	10.0	9.9	9.1	3.4
<性・年代別>																	
男 性	944	20.4	16.5	18.6	19.4	14.9	13.8	17.3	12.5	14.4	8.7	12.2	9.6	8.1	11.1	8.6	4.8
18～29歳	86	11.6	9.3	14.0	18.6	9.3	4.7	19.8	7.0	18.6	8.1	8.1	4.7	3.5	7.0	5.8	3.5
30 代	124	10.5	15.3	12.9	27.4	16.9	11.3	17.7	7.3	16.9	3.2	17.7	4.8	4.0	8.9	4.0	3.2
40 代	160	15.6	17.5	21.3	25.6	24.4	17.5	17.5	11.9	22.5	6.3	13.1	11.3	10.0	13.1	8.8	6.3
50 代	205	26.8	13.2	22.0	18.5	11.2	12.7	21.5	8.8	13.7	7.8	9.8	9.3	8.8	15.1	8.3	4.4
60 代	172	23.3	16.9	16.9	14.0	11.6	14.5	14.0	12.8	11.0	11.6	11.6	8.1	7.0	9.9	12.2	5.8
70歳以上	197	25.4	22.8	20.3	15.2	15.2	16.8	14.2	22.3	8.1	12.7	12.7	15.2	11.2	9.6	9.6	4.6
女 性	1,232	19.5	19.8	17.9	14.2	15.1	13.8	10.3	12.0	8.8	12.4	10.0	10.2	11.8	9.2	9.3	2.4
18～29歳	131	11.5	16.0	12.2	13.7	6.9	15.3	5.3	7.6	13.7	11.5	7.6	4.6	8.4	7.6	8.4	2.3
30 代	165	12.7	17.6	9.7	17.0	21.2	10.3	9.7	6.1	10.3	11.5	6.7	9.7	9.1	7.9	7.3	0.6
40 代	230	19.1	20.4	15.7	10.4	19.1	13.5	12.6	7.4	12.2	13.9	9.1	10.4	10.4	10.9	10.9	3.5
50 代	254	21.7	16.1	16.9	14.2	9.4	14.6	11.0	8.3	6.7	9.4	12.6	7.9	9.4	8.3	5.1	1.6
60 代	211	24.2	21.8	21.3	16.1	16.1	15.6	10.0	13.3	7.1	14.2	12.8	10.9	13.7	11.4	11.4	4.7
70歳以上	238	22.3	24.8	26.9	14.7	16.8	13.4	10.9	26.1	5.0	13.9	9.2	15.5	17.2	8.4	12.6	1.7
<居住区別>																	
西 区	145	22.8	18.6	16.6	16.6	14.5	10.3	13.1	15.9	9.0	9.0	8.3	12.4	9.7	11.7	6.2	5.5
北 区	256	21.9	17.6	17.2	19.5	16.8	14.1	11.3	10.2	10.9	10.9	14.5	9.4	10.5	11.3	8.6	3.5
大宮区	230	18.7	20.0	15.7	18.7	13.9	13.0	9.1	9.6	14.3	10.4	13.0	7.8	9.1	12.2	9.6	6.1
見沼区	269	20.1	17.5	20.4	16.0	15.2	12.3	16.0	14.9	11.5	11.2	8.2	10.8	10.8	10.4	8.2	2.6
中央区	177	17.5	16.4	20.9	21.5	14.1	19.8	13.0	12.4	14.7	10.2	14.7	8.5	11.9	9.6	7.9	2.3
桜 区	155	21.3	13.5	22.6	11.6	15.5	11.6	12.9	7.1	9.0	7.1	9.0	8.4	10.3	8.4	7.7	5.2
浦和区	286	19.6	20.6	17.8	15.4	13.6	14.3	12.2	12.6	9.8	11.9	9.4	9.1	9.4	9.8	9.1	4.2
南区	315	19.4	20.3	13.3	12.1	11.1	12.1	14.3	9.8	13.3	12.1	9.2	9.2	8.9	7.3	7.9	1.9
緑 区	211	17.5	19.9	20.9	15.6	18.5	15.6	17.1	16.6	10.0	10.4	11.4	13.3	10.9	6.2	14.2	1.9
岩槻区	176	22.2	13.6	18.8	17.0	16.5	14.2	11.9	13.6	6.3	11.4	11.4	12.5	10.2	14.2	10.8	2.3

(5) 今後力を入れてほしい施策と満足度の『不満（計）』比較

図5-5-1 今後力を入れてほしい施策と満足度の『不満（計）』比較



全体結果

施策や事業の満足度の『不満（計）』（現状の満足度）と、今後力を入れてほしい施策（今後の重視度）の関係をみると、以下の5つのグループに分かれた。

- ①『不満（計）』が高く、今後の重視度が高い「公共交通・道路」
- ②『不満（計）』が中位で、今後の重視度が高い「事故・防犯」、「高齢者福祉」
- ③『不満（計）』と、今後の重視度がともに中位の「上下水道」、「子育て支援」など
- ④『不満（計）』が中位で、今後の重視度が低い「障害者福祉」、「生涯学習」など
- ⑤『不満（計）』と、今後の重視度がともに低い「シティセールス」

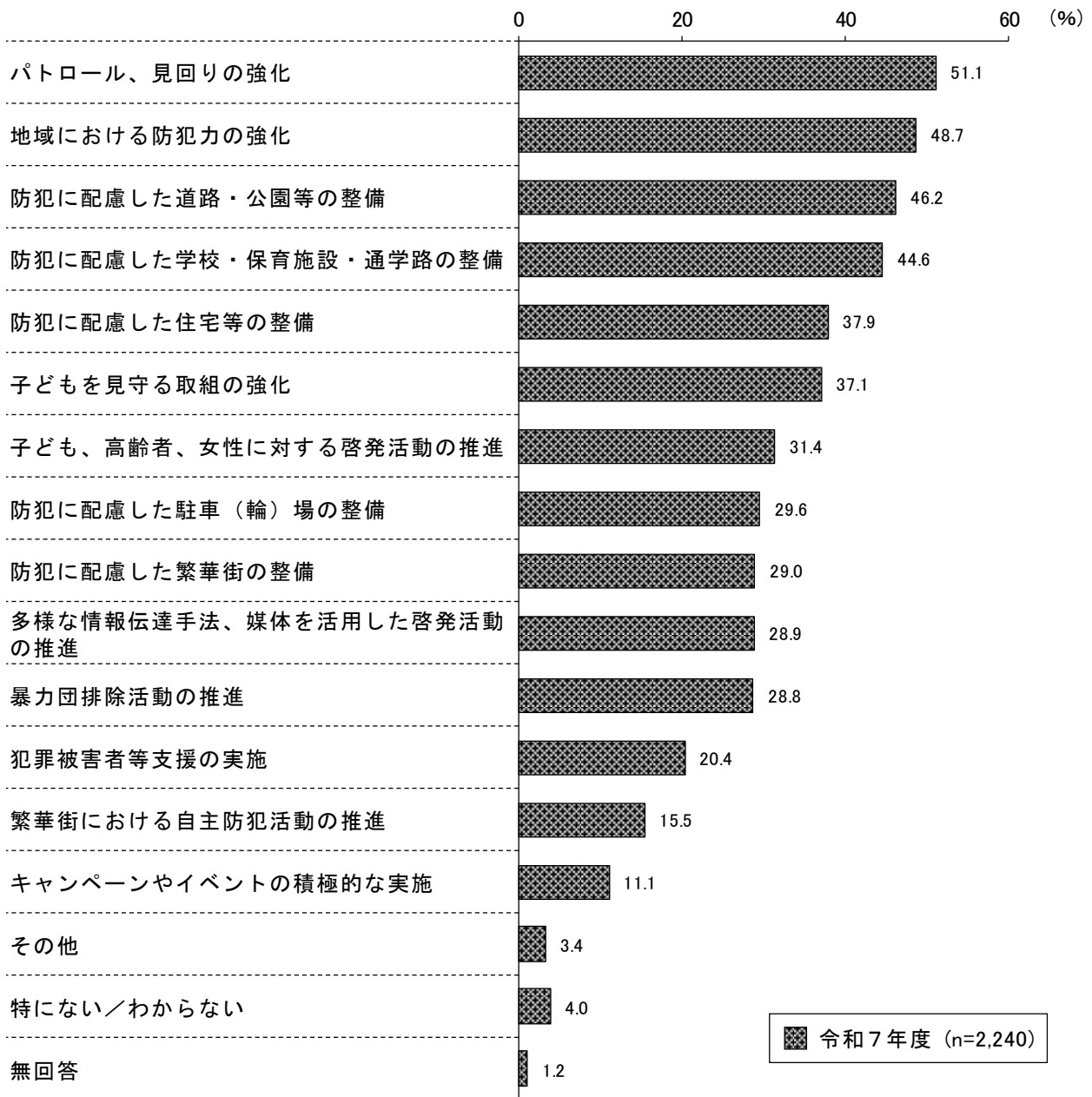
(図5-5-1)

6. 防犯対策

(1) 「防犯対策」で特に重視すべきこと

問15 「防犯対策」の施策を進めるにあたって、あなたが特に重視するとよいと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

図6-1-1 「防犯対策」で特に重視すべきこと



全体結果

「パトロール、見回りの強化」が51.1%で最も高く、「地域における防犯力の強化」(48.7%)、「防犯に配慮した道路・公園等の整備」(46.2%)が続いた。(図6-1-1)

表 6－1－1 「防犯対策」で特に重視すべきこと－性・年代別、居住区別－（上位 10 項目）

											(%)
	n	パトロール、見回りの強化	地域における防犯力の強化	防犯に配慮した道路・公園等の整備	防犯に配慮した学校・保育施設・通学路の整備	防犯に配慮した住宅等の整備	子どもを見守る取組の強化	子ども、高齢者、女性に対する啓発活動の推進	防犯に配慮した駐車（輪）場の整備	防犯に配慮した繁華街の整備	多様な情報伝達手法、媒体を活用した啓発活動の推進
全 体	2,240	51.1	48.7	46.2	44.6	37.9	37.1	31.4	29.6	29.0	28.9
<性・年代別>											
男 性	944	49.4	46.4	41.5	41.2	35.1	36.0	30.0	27.9	29.2	29.6
18～29 歳	86	41.9	34.9	31.4	34.9	29.1	34.9	22.1	22.1	27.9	24.4
30 代	124	52.4	42.7	44.4	50.0	37.9	41.9	22.6	31.5	30.6	15.3
40 代	160	59.4	45.6	45.6	51.9	43.1	46.9	30.0	30.6	39.4	28.8
50 代	205	48.3	47.3	43.4	37.1	37.1	28.8	26.8	33.2	30.7	34.1
60 代	172	41.3	50.6	37.2	38.4	32.6	26.7	26.2	25.0	30.2	35.5
70 歳以上	197	50.8	49.7	42.6	36.5	29.4	39.6	44.7	22.8	18.3	31.5
女 性	1,232	52.8	51.0	49.7	47.6	40.2	38.5	32.8	30.8	29.0	28.3
18～29 歳	131	51.1	48.1	49.6	46.6	44.3	32.8	26.0	35.1	31.3	29.8
30 代	165	61.2	43.0	50.9	61.8	38.2	58.8	32.7	26.1	25.5	23.6
40 代	230	53.0	48.7	53.0	55.2	42.6	42.2	24.3	30.4	35.2	24.3
50 代	254	51.6	48.8	50.0	37.0	40.2	29.9	26.8	35.4	29.1	31.1
60 代	211	50.7	55.9	51.7	44.5	41.2	36.5	38.9	33.2	29.4	29.4
70 歳以上	238	50.0	57.6	43.3	45.0	35.7	34.5	45.4	24.8	23.1	30.3
<居住区別>											
西 区	145	47.6	46.2	37.2	50.3	35.9	32.4	35.2	26.2	22.8	29.0
北 区	256	47.7	51.2	46.9	43.4	40.2	34.4	31.6	32.8	32.0	30.1
大 宮 区	230	51.3	47.8	44.8	45.2	36.5	41.3	28.7	31.3	35.7	27.4
見 沼 区	269	61.3	46.8	49.1	46.1	39.0	38.3	34.6	31.2	29.0	26.0
中 央 区	177	48.6	50.8	39.5	42.9	36.2	39.0	33.9	21.5	29.9	31.1
桜 区	155	54.2	54.8	43.9	40.0	38.7	33.5	24.5	31.6	30.3	25.2
浦 和 区	286	44.8	49.0	46.5	42.0	38.1	39.2	32.5	29.0	29.0	26.2
南 区	315	51.4	49.5	50.8	47.0	37.5	35.2	27.6	29.5	30.2	29.5
緑 区	211	53.6	45.0	52.6	51.7	41.2	40.8	28.9	30.8	25.1	32.7
岩 槻 区	176	51.1	47.7	43.2	37.5	35.2	35.8	37.5	29.0	22.7	33.5

属 性 別

性・年代別でみると、上位 8 項目は女性が男性より高く、「防犯に配慮した道路・公園等の整備」、「防犯に配慮した学校・保育施設・通学路の整備」、「防犯に配慮した住宅等の整備」は、5 ポイント以上高かった。「防犯に配慮した学校・保育施設・通学路の整備」は、男女とも 30～40 代で高く、女性 30 代（61.8%）で 6 割を超えた。

居住区別でみると、「パトロール、見回りの強化」は、見沼区（61.3%）で 6 割を超えた。また、「防犯に配慮した学校・保育施設・通学路の整備」は、緑区（51.7%）、西区（50.3%）で 5 割台だった。

（表 6－1－1）

表 6－1－2 「防犯対策」で特に重視すべきこと

－家族構成別、子どもの有無別、子どもの年齢階層別－（上位 10 項目）

											(%)
	n	パトロール、見回りの強化	地域における防犯力の強化	防犯に配慮した道路・公園等の整備	防犯に配慮した学校・保育施設・通学路の整備	防犯に配慮した住宅等の整備	子どもを見守る取組の強化	子ども、高齢者、女性に対する啓発活動の推進	防犯に配慮した駐車（輪）場の整備	防犯に配慮した繁華街の整備	多様な情報伝達手法、媒体を活用した啓発活動の推進
全 体	2,240	51.1	48.7	46.2	44.6	37.9	37.1	31.4	29.6	29.0	28.9
＜家族構成別＞											
一人暮らし	249	41.0	48.6	40.2	31.3	34.5	22.5	29.3	25.3	28.1	29.7
夫婦だけ	608	50.5	51.0	46.9	39.0	37.2	32.4	34.4	27.6	26.5	32.9
親子（2世代）	1,181	53.5	47.5	48.0	50.0	38.8	42.5	29.7	31.9	30.7	27.4
親と子と孫（3世代）	104	55.8	55.8	47.1	61.5	44.2	50.0	37.5	28.8	32.7	29.8
その他	55	50.9	41.8	36.4	27.3	41.8	20.0	30.9	30.9	23.6	18.2
＜子どもの有無別＞											
いる	1,471	53.1	49.6	46.7	49.8	37.0	42.7	34.1	29.3	27.6	29.0
いない	717	47.8	47.4	45.7	34.6	40.7	25.9	25.7	31.0	32.2	29.7
＜子どもの年齢階層別＞											
小学校入学前（0～6歳）	198	58.6	42.4	48.5	70.7	39.4	65.2	33.3	28.8	28.3	23.7
小学生・中学生	337	59.3	46.0	48.7	62.0	36.2	53.7	30.3	28.5	32.9	26.1
高校生・大学生・大学院生 ・短大生・専門学校生	263	52.9	49.8	46.0	47.9	40.3	39.2	30.4	34.2	33.8	28.1
学校教育終了	761	51.2	53.4	46.6	43.8	36.3	35.7	36.1	30.2	24.8	33.4
その他	109	51.4	47.7	50.5	43.1	42.2	34.9	48.6	25.7	24.8	21.1

属 性 別

家族構成別でみると、「防犯に配慮した学校・保育施設・通学路の整備」は、「親と子と孫（3世代）」が 61.5%で6割を超えた。

子どもの有無別でみると、「パトロール、見回りの強化」、「防犯に配慮した学校・保育施設・通学路の整備」、「子どもを見守る取組の強化」、「子ども、高齢者、女性に対する啓発活動の推進」は、「いる」が「いない」より5ポイント以上高かった。

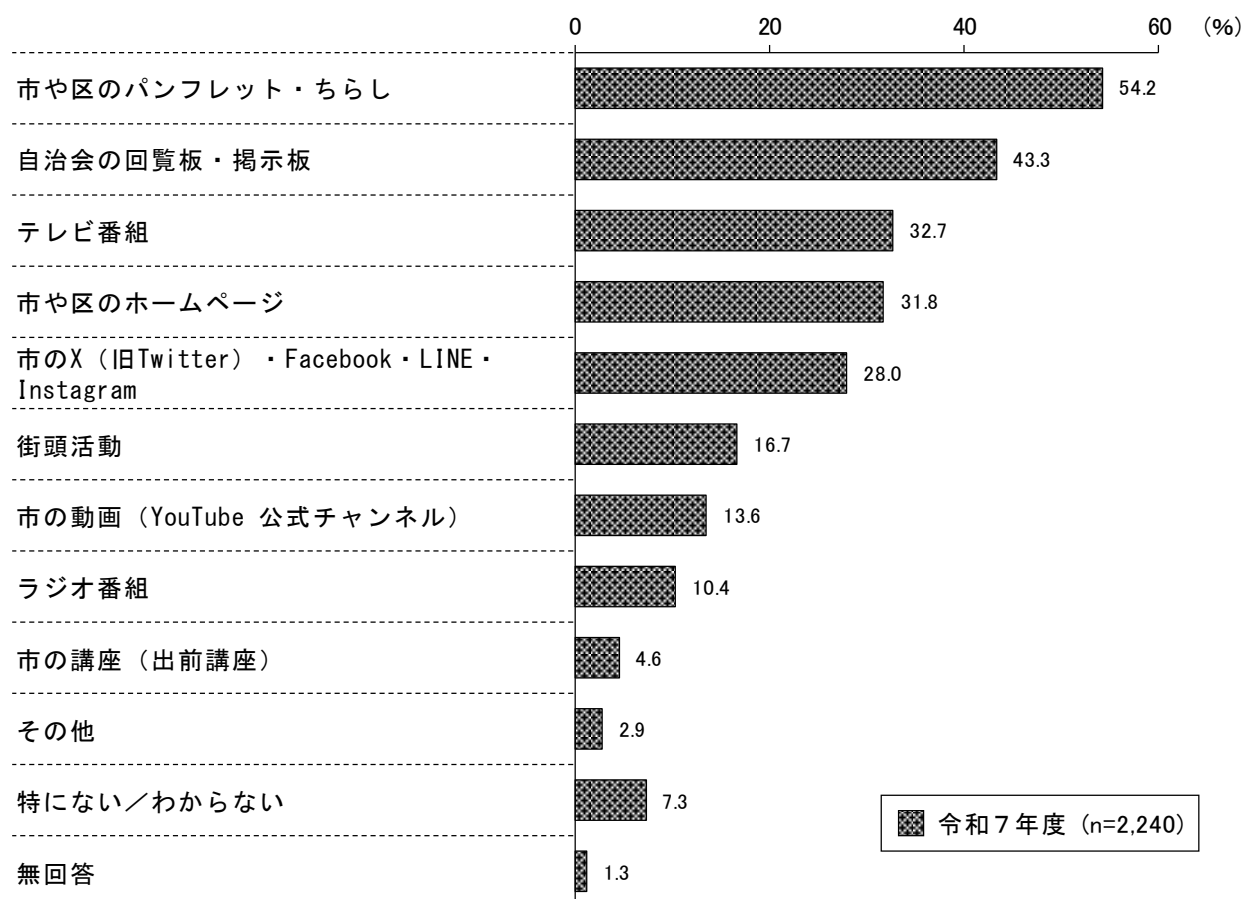
子どもの年齢階層別でみると、「防犯に配慮した学校・保育施設・通学路の整備」、「子どもを見守る取組の強化」は、年代が下がるにつれ高くなった。（表 6－1－2）

(2)「特殊詐欺防止」に関する情報を入手しやすいと思う媒体

問16 昨今、オレオレ詐欺や振り込め詐欺を含む特殊詐欺被害が増加し社会問題になっています。特殊詐欺は、地域におけるパトロールや環境整備等で防止するだけでなく、個人の理解や意識向上に向けた啓発・情報提供も重要となります。そこで、「特殊詐欺防止」に関する情報をさいたま市が発信するにあたって、あなたが入手しやすいと思う媒体は何ですか。(〇はいくつでも)

※特殊詐欺とは、被害者に電話などで対面することなく信用させ、指定した口座への振込み等の方法により、不特定多数の者から現金等をだまし取る犯罪の総称です。

図 6－2－1 「特殊詐欺防止」に関する情報を入手しやすいと思う媒体



全体結果

「市や区のパンフレット・ちらし」が54.2%で最も高く、「自治会の回覧板・掲示板」(43.3%)、「テレビ番組」(32.7%)、「市や区のホームページ」(31.8%)が続いた。(図 6－2－1)

表 6-2-1 「特殊詐欺防止」に関する情報を入手しやすいと思う媒体
—性・年代別、居住区別—

													(%)
	n	市や区のパ ンフレット・ち らし	自治会 の回覧板・掲 示板	テレビ 番組	市や区 のホームペ ージ	市の X (旧 Twitter)・ Facebook・ LINE・ Instagram	街頭 活動	市の動画 (YouTube 公式チャ ンネル)	ラジ オ番 組	市の講 座(出前 講座)	その他	特 に な い ／ わ か ら な い	無 回 答
全 体	2,240	54.2	43.3	32.7	31.8	28.0	16.7	13.6	10.4	4.6	2.9	7.3	1.3
＜性・年代別＞													
男 性	944	49.8	39.3	31.3	33.5	27.2	17.7	15.4	11.0	3.9	2.2	9.4	1.2
18～29 歳	86	37.2	22.1	17.4	29.1	38.4	16.3	17.4	7.0	1.2	1.2	19.8	—
30 代	124	44.4	29.0	25.8	25.0	39.5	14.5	15.3	7.3	0.8	3.2	8.9	1.6
40 代	160	42.5	31.9	24.4	28.8	36.3	18.1	16.3	10.0	5.0	1.9	11.9	0.6
50 代	205	47.3	41.0	37.6	35.1	24.4	19.0	14.6	14.6	4.9	2.9	7.8	0.5
60 代	172	51.7	40.1	35.5	43.6	24.4	15.1	15.7	16.3	4.7	1.7	5.8	—
70 歳以上	197	65.5	56.9	36.0	34.0	12.7	20.8	14.2	7.6	4.6	2.0	8.1	3.6
女 性	1,232	58.2	47.2	34.1	30.8	28.9	16.2	12.4	10.1	5.3	3.2	5.3	0.7
18～29 歳	131	38.2	32.1	23.7	36.6	54.2	15.3	14.5	9.2	1.5	—	10.7	—
30 代	165	41.8	36.4	24.2	33.3	52.1	10.3	12.7	5.5	1.2	4.8	4.8	—
40 代	230	54.3	44.3	26.5	31.7	37.8	18.3	13.5	10.9	4.8	4.3	7.0	0.4
50 代	254	64.6	39.8	33.1	33.5	25.2	15.7	13.0	11.8	5.5	4.3	3.1	0.4
60 代	211	63.0	55.5	41.7	27.5	15.6	22.3	12.8	11.8	7.6	2.8	4.7	0.5
70 歳以上	238	73.1	66.4	48.7	24.4	5.5	13.9	8.4	10.1	8.4	2.1	3.8	2.5
＜居住区別＞													
西 区	145	57.9	50.3	29.7	26.2	26.9	14.5	11.7	11.0	7.6	3.4	6.2	1.4
北 区	256	60.2	41.8	29.3	35.9	30.9	18.4	16.0	10.9	2.3	3.1	6.3	0.8
大宮 区	230	52.2	42.6	33.0	27.4	36.1	19.1	13.5	14.3	3.5	4.3	8.7	—
見沼 区	269	54.6	40.5	37.5	35.7	27.1	15.2	16.0	13.4	4.1	3.3	7.4	0.7
中央 区	177	54.8	41.8	39.5	31.1	29.9	15.3	14.1	11.3	4.0	2.8	5.6	1.1
桜 区	155	52.9	42.6	29.7	25.8	26.5	16.8	12.9	7.7	4.5	1.3	9.7	1.9
浦和 区	286	53.5	46.5	26.2	33.9	29.4	19.9	14.0	8.4	5.6	2.8	6.6	0.3
南 区	315	52.4	42.2	36.2	35.2	27.9	16.5	10.8	7.0	4.1	1.6	7.0	1.0
緑 区	211	50.2	39.8	32.7	29.4	27.0	13.3	12.3	12.3	7.6	3.3	6.6	1.9
岩槻 区	176	54.0	50.0	32.4	29.0	15.3	17.0	14.2	9.1	4.0	2.8	10.2	1.7

属 性 別

性・年代別でみると、「市や区のパンフレット・ちらし」、「自治会の回覧板・掲示板」は、女性が男性より7ポイント以上高かった。「市や区のパンフレット・ちらし」は、男女とも、年齢が上がるにつれ高くなる傾向があった。一方、「市の X (旧 Twitter)・Facebook・LINE・Instagram」は、女性では、年代が下がるにつれ高くなった。

居住区別でみると、「市や区のパンフレット・ちらし」は、すべての区で5割以上であった。

(表 6-1-1)

表 6－2－2 「特殊詐欺防止」に関する情報を入手しやすいと思う媒体－家族構成別－

(%)

	n	市や区のパ ンフレット・ち らし	自治会の回 覧板・掲示 板	テレビ番 組	市や区 のホーム ページ	市の X (旧 Twitter)・ Facebook・ LINE・ Instagram	街頭活 動	市の動画 (YouTube 式チャ ンネル)	ラジ オ番 組	市の講 座(出 前講 座)	そ 他	特 に な い ／ わ か ら な い	無 回 答
全 体	2,240	54.2	43.3	32.7	31.8	28.0	16.7	13.6	10.4	4.6	2.9	7.3	1.3
＜家族構成別＞													
一人暮らし	249	47.4	34.9	35.3	27.7	24.9	18.1	12.0	13.7	4.8	3.6	8.4	2.8
夫婦だけ	608	59.7	47.9	36.0	32.7	20.6	17.4	14.0	11.2	5.1	3.1	6.4	2.0
親子（2世代）	1,181	53.9	43.1	30.7	32.2	32.9	16.4	13.4	10.2	4.4	2.4	7.0	0.3
親と子と孫（3世代）	104	55.8	48.1	36.5	31.7	28.8	15.4	16.3	5.8	3.8	1.9	5.8	－
その他	55	41.8	30.9	25.5	30.9	23.6	14.5	9.1	5.5	5.5	7.3	18.2	1.8

属 性 別

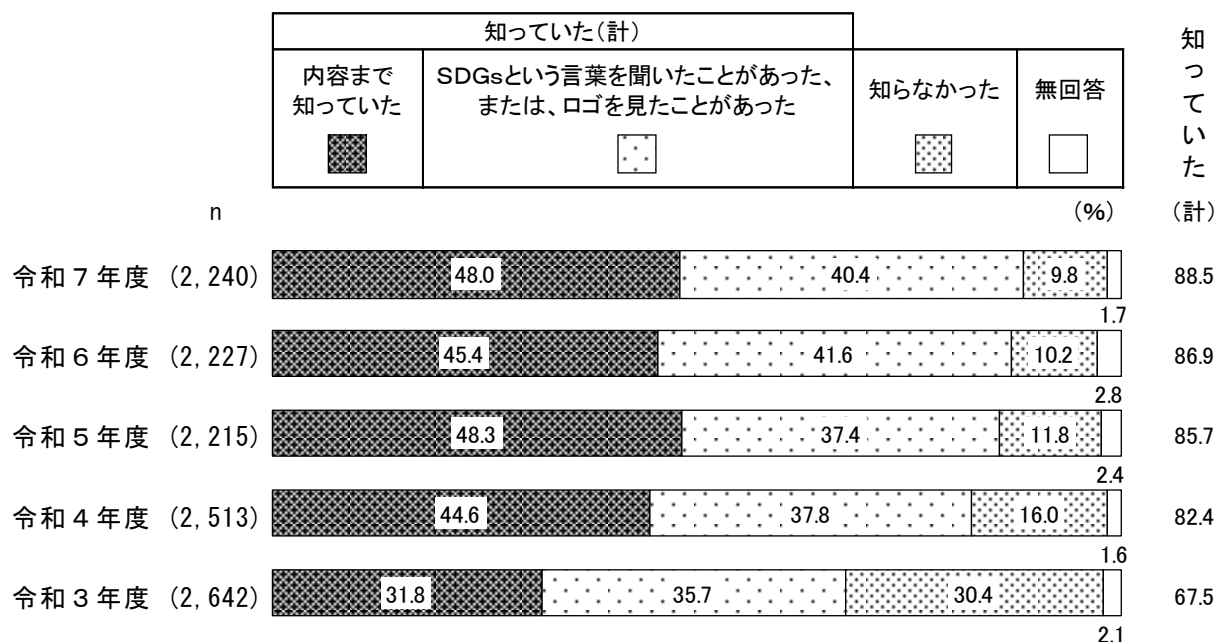
家族構成別でみると、「市や区のパフレット・ちらし」は、「夫婦だけ」(59.7%)、「親子（2世代）」(53.9%)、「親と子と孫（3世代）」(55.8%) で、5割台であった。「市の X (旧 Twitter)・Facebook・LINE・Instagram」は、「親子（2世代）」(32.9%) で3割を超えた。(表 6－2－2)

7. S D G s

(1) S D G s の認知度

問 17 あなたは、S D G s についてどの程度知っていましたか。(○は1つ)

図 7-1-1 S D G s の認知度

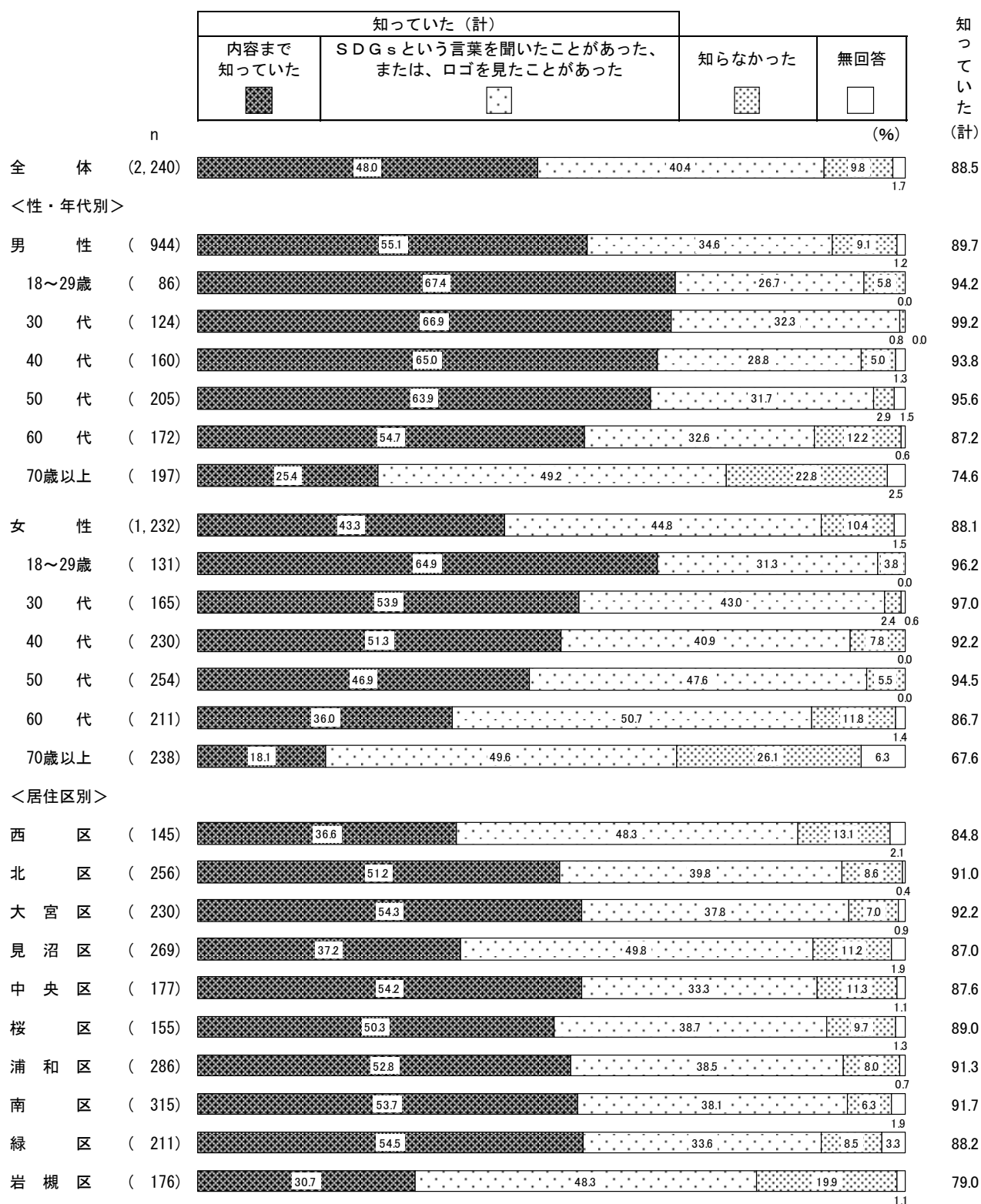


全体結果

「内容まで知っていた」(48.0%)と「S D G s という言葉を聞いたことがあった、または、ロゴを見たことがあった」(40.4%)を合わせた『知っていた(計)』(88.5%)は、9割近くであった。一方、「知らなかった」(9.8%)は、1割であった。

過去4年間の調査結果と比較すると、『知っていた(計)』は増加傾向にある。(図7-1-1)

図 7-1-2 SDGs の認知度－性・年代別、居住区別－



属 性 別

性・年代別でみると、『知っていた (計)』は、男女とも 50 代以下で 9 割台であった。一方、70 歳以上は、男女とも 7 割前後であった。

居住区別でみると、『知っていた (計)』は、大宮区が 92.2% で最も高く、岩槻区 (79.0%) を除くすべての区で 8 割以上であった。(図 7-1-2)

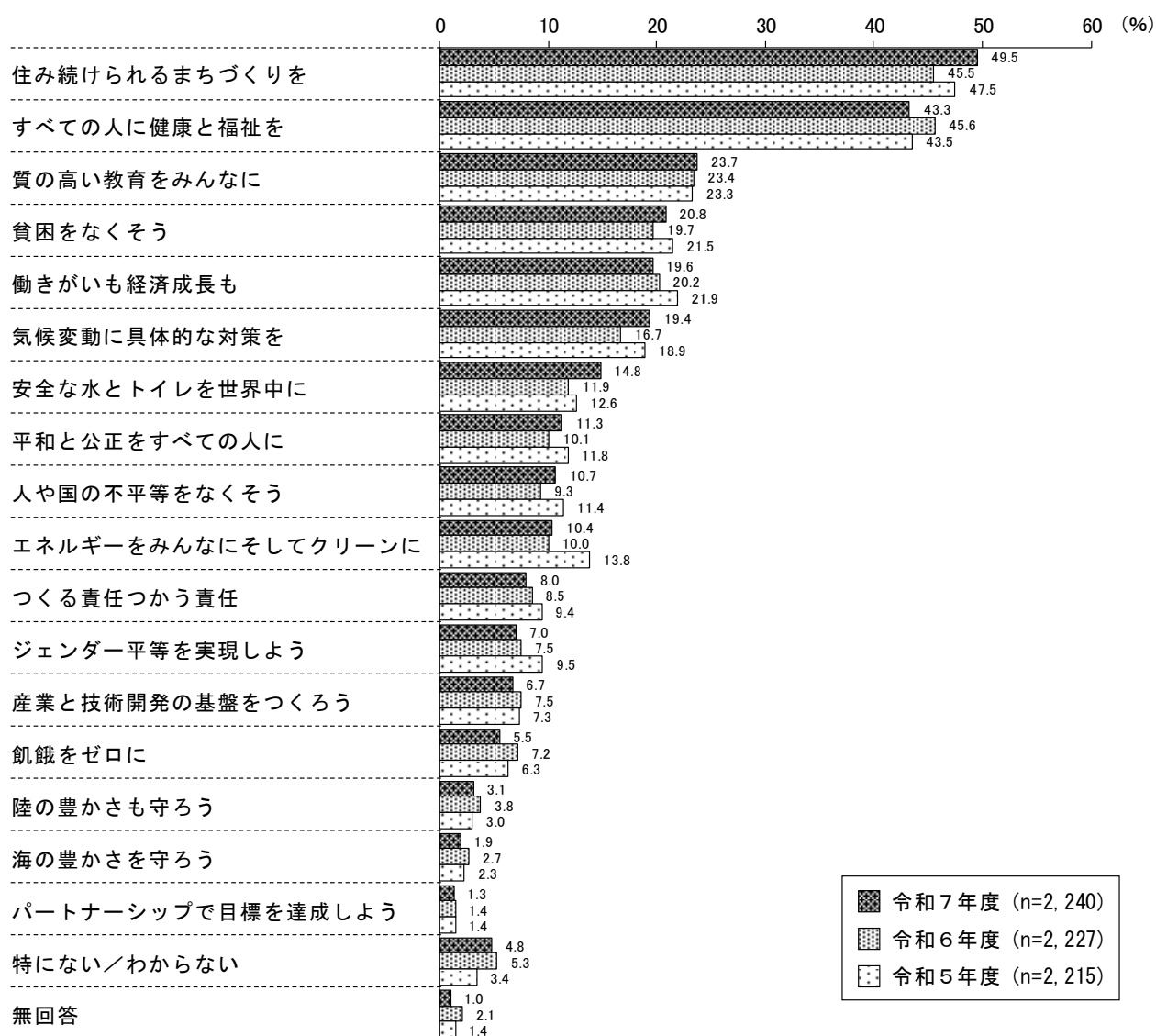
(2) さいたま市が「持続可能な都市」となっていくために実現を重視する目標

問 18 SDGsは国際的な目標ですが、様々な地域で一人ひとりがその達成に向けて取り組んでいます。

今後、さいたま市が「持続可能な都市」となっていくために、どの目標の実現を重視するとよいと思いますか。以下の中から、あてはまるものを3つまで選んでください。

(○は3つまで)

図 7-2-1 さいたま市が「持続可能な都市」となっていくために実現を重視する目標



全体結果

「住み続けられるまちづくりを」が49.5%で最も高く、「すべての人に健康と福祉を」(43.3%)、「質の高い教育をみんなに」(23.7%)が続いた。

過去2年間の調査結果と比較すると、令和6年度と比べ、「住み続けられるまちづくりを」は4.0ポイント増加した。(図7-2-1)

表 7-2-1 さいたま市が「持続可能な都市」となっていくために実現を重視する目標
—性・年代別、居住区別—（上位 10 項目）

											(%)
	n	住み続けられるまちづくりを	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	貧困をなくそう	働きがいも経済成長も	気候変動に具体的な対策を	安全な水とトイレを世界中に	平和と公正をすべての人に	人や国の不平等をなくそう	エネルギーをみんなにそしてクリーンに
全 体	2,240	49.5	43.3	23.7	20.8	19.6	19.4	14.8	11.3	10.7	10.4
<性・年代別>											
男 性	944	51.8	40.3	26.3	22.4	20.7	15.1	12.8	10.0	9.1	12.7
18～29歳	86	43.0	30.2	39.5	22.1	25.6	8.1	11.6	10.5	4.7	7.0
30 代	124	58.1	34.7	44.4	19.4	19.4	11.3	15.3	8.9	4.8	12.1
40 代	160	50.6	33.8	41.3	16.9	27.5	13.1	11.9	11.9	5.0	12.5
50 代	205	50.7	42.0	23.9	23.9	23.4	15.1	13.2	6.3	12.7	13.2
60 代	172	50.6	45.3	16.9	26.2	18.0	20.3	8.7	12.2	13.4	14.5
70歳以上	197	54.8	47.2	7.6	23.9	13.2	17.8	15.7	10.7	9.6	13.7
女 性	1,232	48.3	46.1	22.4	19.7	18.4	23.1	16.3	12.6	11.9	9.1
18～29歳	131	59.5	43.5	29.0	11.5	16.8	10.7	20.6	6.9	9.2	11.5
30 代	165	57.0	37.0	41.2	18.8	21.2	14.5	17.0	12.7	8.5	3.0
40 代	230	50.4	44.8	28.3	20.0	18.3	16.5	13.5	10.9	13.9	9.1
50 代	254	45.7	49.6	16.5	19.7	22.0	23.2	15.0	15.0	11.0	9.4
60 代	211	41.2	48.8	14.2	20.9	18.5	29.4	18.5	13.3	12.8	11.8
70歳以上	238	42.9	48.7	13.9	23.5	13.0	36.6	15.5	14.3	13.9	9.2
<居住区別>											
西 区	145	46.9	42.8	15.9	29.0	18.6	20.7	13.1	11.7	12.4	10.3
北 区	256	48.8	40.6	19.5	16.8	23.8	20.3	14.1	12.9	10.2	11.7
大 宮 区	230	48.3	43.5	26.5	20.4	22.6	22.6	12.6	10.4	8.3	10.9
見 沼 区	269	50.2	44.2	22.7	21.6	19.3	22.7	14.9	7.8	8.2	10.8
中 央 区	177	55.9	41.8	26.0	15.3	23.2	15.8	14.7	10.7	11.9	7.3
桜 区	155	45.8	43.9	23.2	24.5	18.1	18.7	16.8	9.0	14.2	12.9
浦 和 区	286	51.7	45.5	25.9	18.5	16.1	20.6	16.8	10.5	12.6	11.2
南 区	315	52.1	40.6	27.9	22.5	20.0	20.0	14.9	13.3	10.8	12.7
緑 区	211	48.3	45.0	30.8	15.2	19.9	16.1	11.4	13.7	10.4	8.5
岩 槻 区	176	46.0	45.5	14.8	29.0	13.6	13.6	19.3	12.5	9.7	6.8

属 性 別

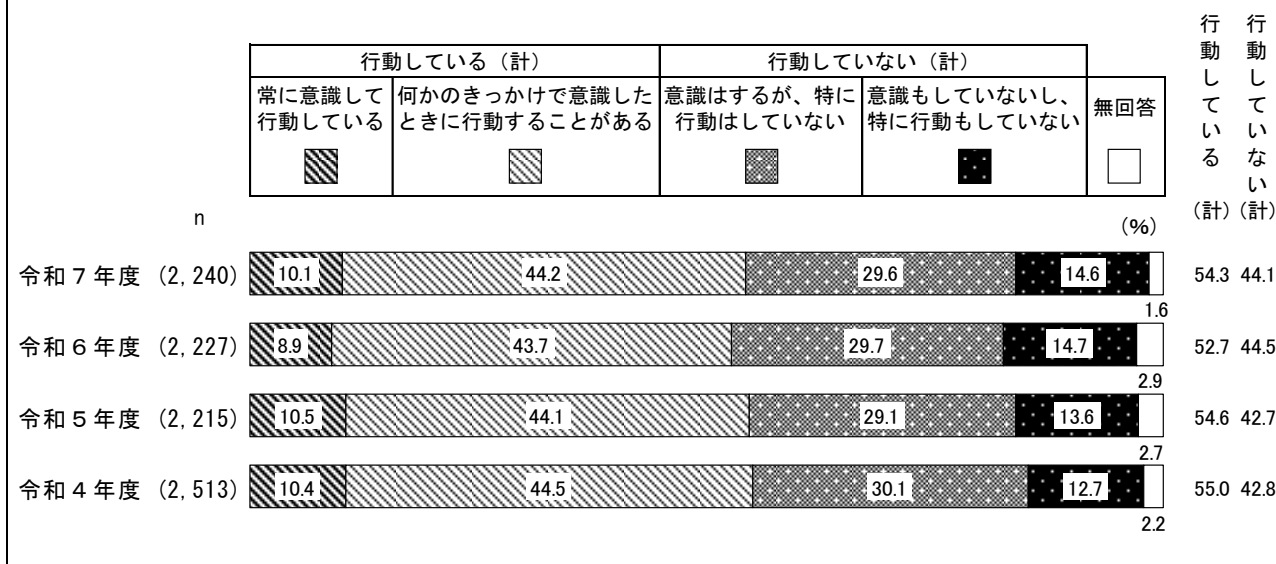
性・年代別でみると、「すべての人に健康と福祉を」、「気候変動に具体的な対策を」は、女性が男性より 5 ポイント以上高かった。「質の高い教育をみんなに」は、男性 30～40 代、女性 30 代(41.2%)で 4 割台であった。

居住区別でみると、「住み続けられるまちづくりを」、「すべての人に健康と福祉を」は、すべての区で 4 割以上であった。(表 7-2-1)

(3) SDGsを意識した行動の有無

問 19 あなたは、家庭や仕事などの日常生活において、SDGsの17の目標のうち、1つでも意識して行動をしていますか。(〇は1つ)

図 7-3-1 SDGsを意識した行動の有無

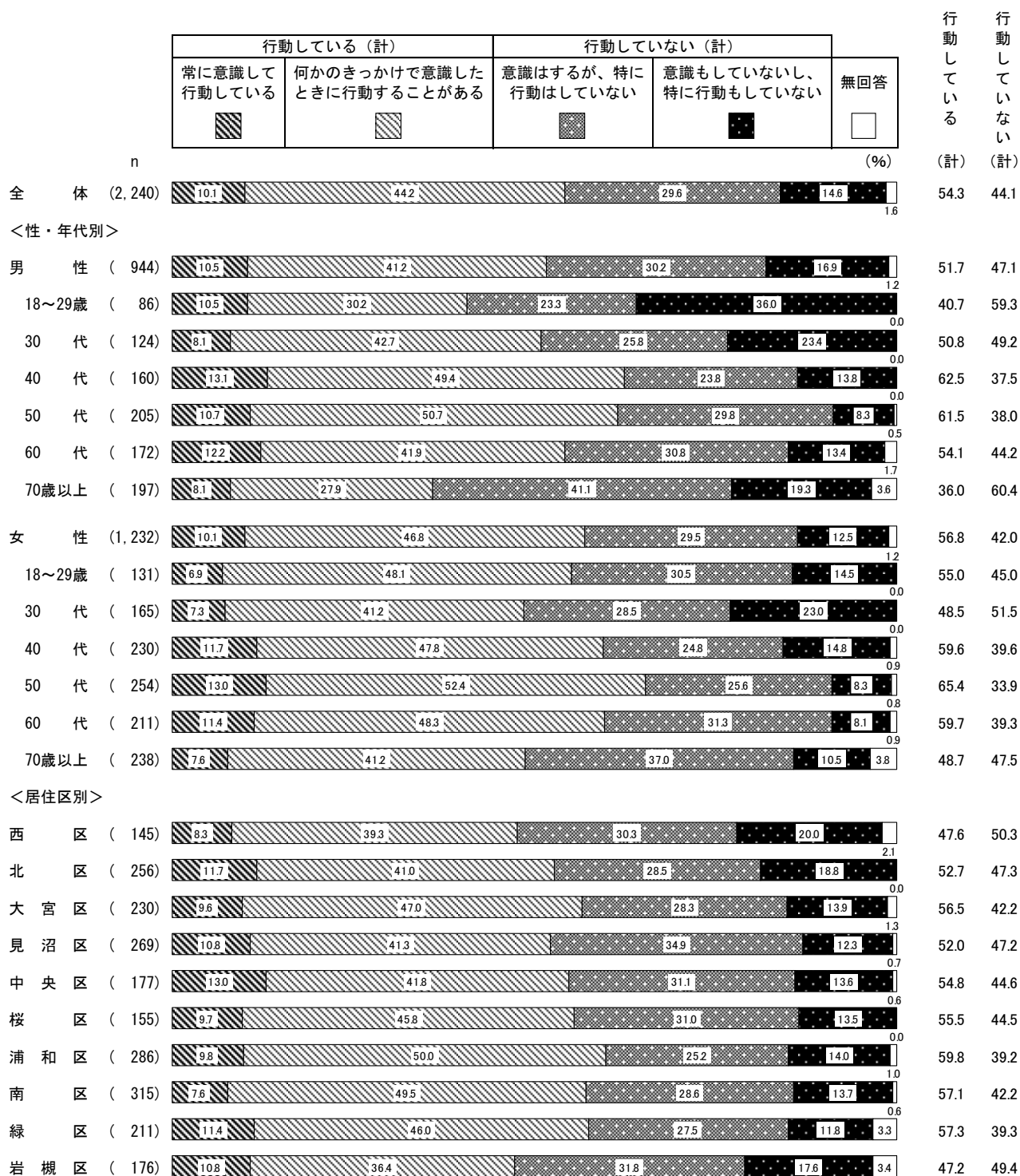


全体結果

「常に意識して行動している」(10.1%)と「何かのきっかけで意識したときに行動することがある」(44.2%)を合わせた『行動している(計)』(54.3%)は、5割半ばであった。一方、「意識はするが、特に行動はしていない」(29.6%)と「意識もしていないし、特に行動もしていない」(14.6%)を合わせた『行動していない(計)』(44.1%)は、4割半ばであった。

過去3年間の調査結果と、おおむね同じであった。(図7-3-1)

図 7-3-2 SDGsを意識した行動の有無一性・年代別、居住区別一



属 性 別

性・年代別でみると、『行動している (計)』は、女性 (56.8%) が男性 (51.7%) より 5.1 ポイント高く、男性 30~60 代、女性 18~29 歳、40 代~60 代で 5 割以上であった。一方、男性 70 歳以上 (36.0%) は、3 割半ばであった。

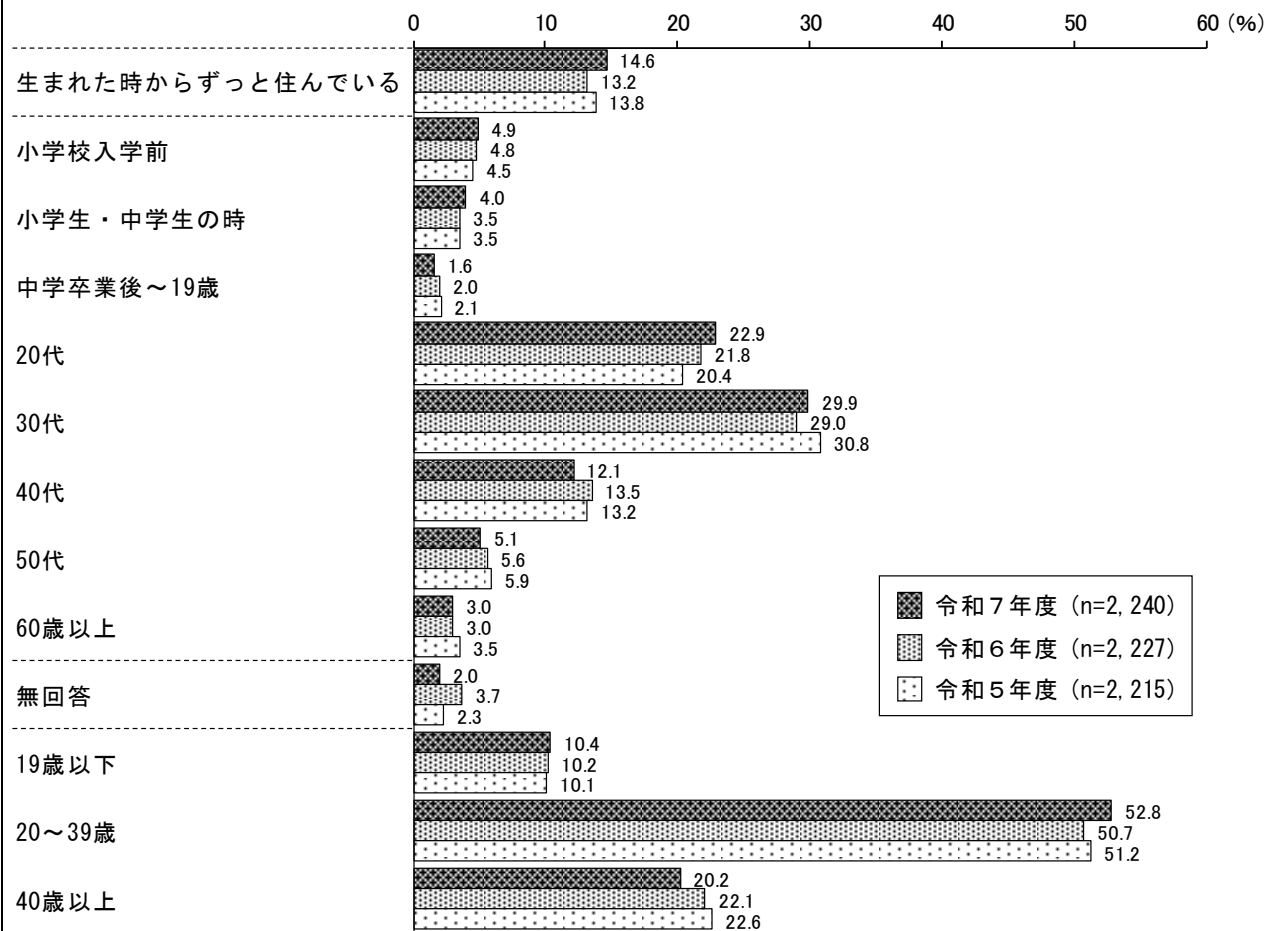
居住区別でみると、『行動している (計)』は、浦和区が 59.8% で最も高く、緑区 (57.3%)、南区 (57.1%) が続いた。(図 7-3-2)

8. 今の地域を選んだ理由

(1) 住み始めた年齢

問 20 今の地域に住み始めたのは、あなたがいくつの時ですか。(○は1つ)

図 8-1-1 住み始めた年齢



(注記) 『19歳以下』は、「小学校入学前」「小学生・中学生の時」「中学卒業後～19歳」の合計
『20～39歳』は、「20代」「30代」の合計
『40歳以上』は、「40代」「50代」「60歳以上」の合計

全体結果

「30代」が29.9%で最も高く、「20代」(22.9%)が続いた。全体の半数以上が20～30代に転入している。

過去2年間の調査結果と、おおむね同じであった。(図8-1-1)

表 8－1－1 住み始めた年齢－性・年代別、居住区別－

	n	生 ま れ た 時 か ら ず と 住 ん で い る	19歳以下			20～39歳		40歳以上			無 回 答	(%)		
			小 学 校 入 学 前	小 学 生 ・ 中 学 生 の 時	中 学 卒 業 後 1 9 歳	2 0 代	3 0 代	4 0 代	5 0 代	6 0 歳 以 上		1 9 歳 以 下	2 0 ～ 3 9 歳	4 0 歳 以 上
全 体	2,240	14.6	4.9	4.0	1.6	22.9	29.9	12.1	5.1	3.0	2.0	10.4	52.8	20.2
<性・年代別>														
男 性	944	16.3	5.0	4.2	1.6	17.5	30.9	14.7	5.1	3.4	1.3	10.8	48.4	23.2
18～29歳	86	34.9	15.1	15.1	4.7	30.2	—	—	—	—	—	34.9	30.2	—
30 代	124	13.7	3.2	1.6	1.6	25.0	54.0	—	—	—	0.8	6.5	79.0	—
40 代	160	18.1	5.6	3.1	—	13.8	38.8	19.4	—	—	1.3	8.8	52.5	19.4
50 代	205	13.2	5.9	3.4	1.5	15.6	30.2	23.9	5.9	—	0.5	10.7	45.9	29.8
60 代	172	12.8	3.5	5.8	1.7	15.1	31.4	14.5	10.5	2.3	2.3	11.0	46.5	27.3
70歳以上	197	14.7	1.5	1.5	1.5	14.2	23.9	17.3	9.1	14.2	2.0	4.6	38.1	40.6
女 性	1,232	13.1	4.9	4.0	1.6	27.4	29.5	10.1	5.4	2.9	1.1	10.5	56.9	18.4
18～29歳	131	32.8	15.3	12.2	4.6	35.1	—	—	—	—	—	32.1	35.1	—
30 代	165	11.5	4.8	4.8	1.8	33.9	41.8	—	—	—	1.2	11.5	75.8	—
40 代	230	11.3	4.8	2.6	1.3	23.5	42.2	14.3	—	—	—	8.7	65.7	14.3
50 代	254	12.2	5.1	3.9	0.8	24.0	29.1	16.1	7.5	—	1.2	9.8	53.1	23.6
60 代	211	10.4	2.4	3.3	1.4	26.1	29.9	8.5	11.4	5.2	1.4	7.1	55.9	25.1
70歳以上	238	8.8	0.8	0.8	1.3	27.3	25.6	13.4	9.7	10.5	1.7	2.9	52.9	33.6
<居住区別>														
西 区	145	22.1	3.4	2.1	0.7	18.6	32.4	15.2	2.1	2.1	1.4	6.2	51.0	19.3
北 区	256	16.0	4.3	3.5	0.8	25.4	30.1	9.4	4.3	3.9	2.3	8.6	55.5	17.6
大 宮 区	230	17.0	3.5	3.9	1.3	21.7	33.5	9.6	6.5	2.2	0.9	8.7	55.2	18.3
見 沼 区	269	11.9	5.6	4.5	2.6	26.4	27.9	11.5	5.9	2.6	1.1	12.6	54.3	20.1
中 央 区	177	13.0	4.5	6.2	1.7	23.7	27.7	13.0	5.6	2.8	1.7	12.4	51.4	21.5
桜 区	155	14.8	5.2	5.2	3.2	26.5	24.5	11.0	5.2	4.5	—	13.5	51.0	20.6
浦 和 区	286	15.0	4.5	3.1	1.7	19.2	31.5	15.4	4.9	3.5	1.0	9.4	50.7	23.8
南 区	315	13.0	6.0	3.5	1.0	24.4	31.7	12.1	4.1	2.5	1.6	10.5	56.2	18.7
緑 区	211	9.0	4.7	5.7	1.9	20.4	33.2	13.7	7.1	4.3	—	12.3	53.6	25.1
岩 槻 区	176	18.8	7.4	2.8	1.1	22.7	26.7	11.4	5.7	2.3	1.1	11.4	49.4	19.3

属 性 別

性・年代別でみると、『20～39歳』は、女性（56.9%）が男性（48.4%）より8.5ポイント高かった。一方、『40歳以上』は、男性（23.2%）が女性（18.4%）より4.8ポイント高かった。

居住区別でみると、「生まれた時からずっと住んでいる」は、西区（22.1%）が最も高かった。一方、『20～39歳』は、岩槻区（49.4%）以外の9区で5割台であった。（表8－1－1）

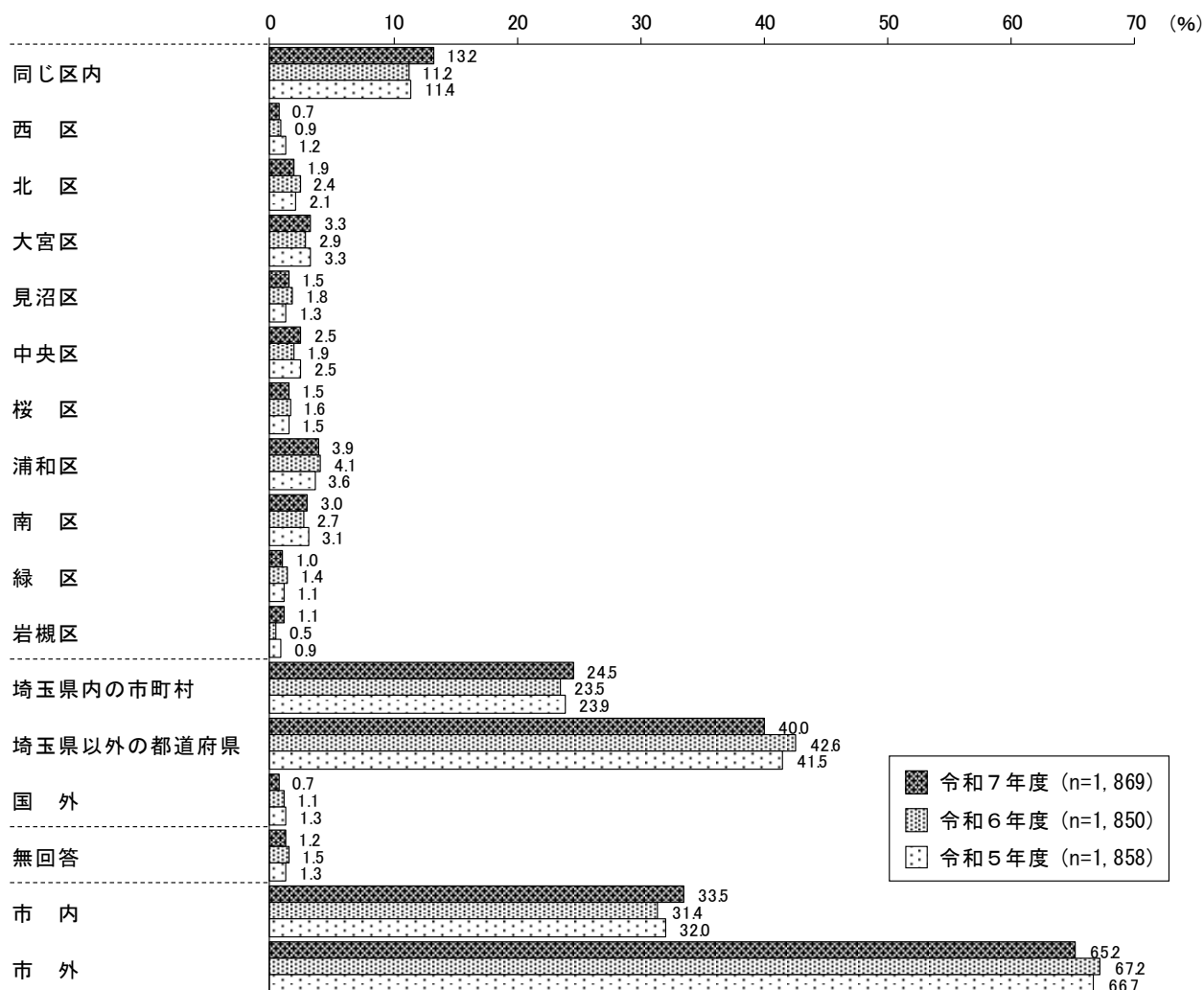
(2) 以前住んでいた地域

(引っ越してきた人に質問します。)

問 20-1 どこから、今の地域に引っ越してきましたか。

同じ区内で転居した方は、現在お住まいの区を選んでください。(○は1つ)

図 8-2-1 以前住んでいた地域



(注記1) 『市内』は、「同じ区内」「西区」「北区」「大宮区」「見沼区」「中央区」「桜区」「浦和区」「南区」「緑区」「岩槻区」の合計

『市外』は、「埼玉県内の市町村」「埼玉県以外の都道府県」「国外」の合計

(注記2) この質問でさいたま市内の10区を答えた人の回答が、居住区(参照: 報告書7ページ・(4)居住区)の回答と同じである人を「同じ区内」に区分して再集計した結果を示している。

全体結果

『市内』は33.5%、「埼玉県内の市町村」は24.5%、「埼玉県以外の都道府県」は40.0%であった。過去2年間の調査結果と、おおむね同じであった。(図8-2-1)

表 8-2-1 以前住んでいた地域－性別、今の地域に住み始めた年齢別、居住区別－

	n	市 内											市 外				(%)	
		同じ区内	西区	北区	大宮区	見沼区	中央区	桜区	浦和区	南区	緑区	岩槻区	埼玉県内の市町村	埼玉県以外の都道府県	国外	無回答	市内	市外
全 体	1,869	13.2	0.7	1.9	3.3	1.5	2.5	1.5	3.9	3.0	1.0	1.1	24.5	40.0	0.7	1.2	33.5	65.2
< 性 別 >																		
男 性	778	12.5	0.9	1.8	4.0	1.4	2.2	2.3	4.4	3.2	0.8	0.5	24.6	40.0	0.4	1.2	33.9	64.9
女 性	1,057	13.8	0.6	2.1	2.8	1.2	2.6	0.9	3.4	2.9	1.0	1.5	24.2	40.5	1.0	1.2	33.0	65.8
<今の地域に住み始めた年齢別>																		
小 学 校 入 学 前	110	19.1	1.8	0.9	3.6	1.8	0.9	0.9	2.7	3.6	0.9	0.9	22.7	32.7	0.9	6.4	37.3	56.4
小学生・中学生の時	89	14.6	－	1.1	2.2	－	1.1	2.2	4.5	1.1	1.1	2.2	21.3	46.1	－	2.2	30.3	67.4
中学卒業後～19歳	35	5.7	－	－	2.9	2.9	2.9	－	2.9	2.9	－	－	25.7	48.6	5.7	－	20.0	80.0
20 代	512	10.9	0.6	1.6	1.8	1.4	1.8	1.4	4.1	2.1	0.8	1.8	27.0	43.6	0.4	1.0	28.1	70.9
30 代	670	13.4	0.6	2.5	3.1	1.8	2.7	1.5	3.3	2.4	0.9	0.7	24.9	41.0	0.6	0.4	33.0	66.6
40 代	270	13.0	1.5	2.2	4.4	1.1	3.3	1.9	4.4	4.1	1.1	－	22.6	37.8	1.9	0.7	37.0	62.2
50 代	115	13.9	0.9	0.9	6.1	1.7	3.5	1.7	3.5	4.3	1.7	1.7	22.6	33.9	－	3.5	40.0	56.5
60 歳 以 上	68	20.6	－	2.9	7.4	1.5	4.4	1.5	8.8	10.3	1.5	1.5	17.6	22.1	－	－	60.3	39.7
< 居 住 区 別 >																		
西 区	111	16.2	－	5.4	8.1	5.4	5.4	0.9	1.8	1.8	0.9	0.9	21.6	30.6	－	0.9	46.8	52.3
北 区	209	17.2	2.4	－	4.8	2.4	1.4	1.4	3.3	3.3	－	0.5	24.9	37.3	－	1.0	36.8	62.2
大 宮 区	189	10.6	0.5	4.8	－	3.2	5.8	－	6.9	1.1	1.6	3.2	18.5	42.9	1.1	－	37.6	62.4
見 沼 区	234	15.8	0.9	3.4	7.3	－	1.3	0.9	4.3	0.9	1.3	2.6	23.1	36.8	－	1.7	38.5	59.8
中 央 区	151	7.3	1.3	0.7	2.0	1.3	－	6.6	6.6	4.0	－	0.7	21.9	43.0	2.6	2.0	30.5	67.5
桜 区	132	15.2	0.8	0.8	3.0	1.5	3.8	－	6.1	6.1	0.8	0.8	13.6	46.2	0.8	0.8	38.6	60.6
浦 和 区	240	10.4	－	1.7	2.5	0.4	4.2	2.1	－	6.3	2.9	0.4	20.8	46.3	1.3	0.8	30.8	68.3
南 区	269	9.7	0.4	0.7	－	－	1.5	1.5	4.5	－	0.4	1.1	29.4	49.8	0.4	0.7	19.7	79.6
緑 区	192	15.1	－	1.0	1.0	－	1.0	1.6	4.7	6.3	－	－	33.3	32.8	0.5	2.6	30.7	66.7
岩 槻 区	141	17.7	1.4	2.1	7.1	3.5	1.4	－	1.4	1.4	1.4	－	34.0	24.8	1.4	2.1	37.6	60.3

属 性 別

今の地域に住み始めた年齢別でみると、『市外』は、60 歳以上（39.7%）を除き 5 割以上であり、20 代（70.9%）はほぼ 7 割であった。一方、『市内』は、60 歳以上（60.3%）で 6 割であった。

居住区別でみると、『市内』は、西区（46.8%）が最も高く、南区（19.7%）以外の 8 区は 3 割台であった。一方、『市外』は、南区（79.6%）が最も高く、すべての区で 5 割以上であった。

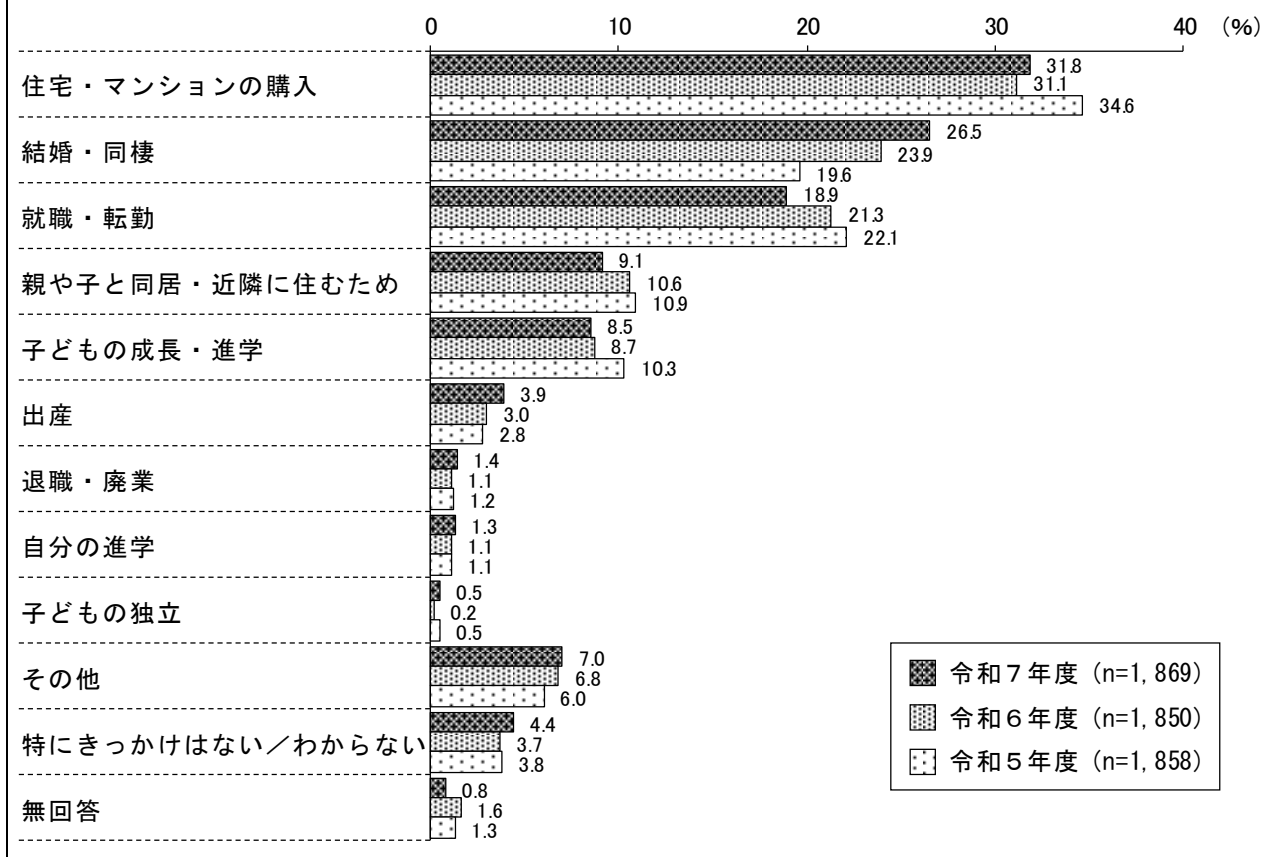
(表 8-2-1)

(3) 以前の場所から引っ越してきたきっかけ

(引っ越してきた人に質問します。)

問 20-2 以前の地域から引っ越してきたきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

図 8-3-1 以前の場所から引っ越してきたきっかけ



全体結果

「住宅・マンションの購入」が31.8%で最も高く、「結婚・同棲」(26.5%)、「就職・転勤」(18.9%)が続いた。

過去2年間の調査結果と比較すると、「結婚・同棲」が増加傾向にある。一方、「就職・転勤」は減少傾向にある。(図8-3-1)

表 8-3-1 以前の場所から引っ越してきたきっかけ-性別、今の地域に住み始めた年齢別、
以前住んでいた地域別、居住区別-

													(%)
	n	購 住 入 宅・ マ ン シ ョ ン の	結 婚・ 同 棲	就 職・ 転 勤	に 親 や 子 と 同 居・ 近 隣	子 ど も の 成 長・ 進 学	出 産	退 職・ 廃 業	自 分 の 進 学	子 ど も の 独 立	そ 他	／ 特 に け つ け は ない	無 回 答
全 体	1,869	31.8	26.5	18.9	9.1	8.5	3.9	1.4	1.3	0.5	7.0	4.4	0.8
< 性 別 >													
男 性	778	35.6	21.7	22.6	7.6	9.8	3.7	2.2	1.4	0.4	5.7	4.6	0.8
女 性	1,057	29.7	29.8	16.2	10.3	7.6	3.7	0.9	1.1	0.6	8.1	4.1	0.9
<今の地域に 住み始めた年齢別>													
小 学 校 入 学 前	110	36.4	1.8	12.7	13.6	4.5	1.8	-	3.6	-	9.1	15.5	7.3
小 学 生・中 学 生 の 時	89	25.8	2.2	19.1	16.9	6.7	-	-	1.1	-	12.4	16.9	1.1
中 学 卒 業 後 ～ 19 歳	35	20.0	-	14.3	28.6	-	-	-	28.6	-	8.6	8.6	-
20 代	512	17.4	54.9	21.1	6.1	3.9	5.3	0.6	1.6	0.4	4.3	2.5	0.4
30 代	670	38.7	26.9	18.2	6.6	10.9	5.7	0.7	-	0.1	5.1	1.9	0.4
40 代	270	41.9	8.9	24.1	7.0	17.8	1.9	1.1	0.4	-	9.3	3.3	-
50 代	115	40.0	4.3	17.4	15.7	4.3	-	5.2	-	1.7	11.3	5.2	0.9
60 歳 以 上	68	26.5	1.5	2.9	27.9	1.5	-	14.7	-	5.9	19.1	10.3	-
<以前住んでいた地域別>													
市 内	627	43.9	20.3	7.5	9.1	10.0	3.3	1.3	1.0	1.0	8.1	5.4	0.5
同 じ 区 内	247	42.9	16.2	8.1	8.9	10.9	2.0	1.2	1.2	0.4	7.7	7.7	1.2
西 区	14	50.0	21.4	7.1	14.3	14.3	-	-	-	7.1	-	-	-
北 区	36	52.8	19.4	11.1	11.1	16.7	2.8	-	-	-	5.6	-	-
大 宮 区	61	55.7	21.3	3.3	6.6	9.8	3.3	3.3	-	3.3	6.6	6.6	-
見 沼 区	28	32.1	21.4	7.1	7.1	3.6	7.1	-	3.6	3.6	14.3	7.1	-
中 央 区	46	54.3	19.6	6.5	2.2	6.5	8.7	-	-	-	4.3	4.3	-
桜 区	28	32.1	25.0	-	7.1	17.9	3.6	3.6	3.6	3.6	10.7	7.1	-
浦 和 区	73	37.0	30.1	6.8	9.6	5.5	2.7	1.4	-	-	11.0	4.1	-
南 区	56	53.6	19.6	8.9	10.7	10.7	5.4	-	-	-	8.9	1.8	-
緑 区	18	22.2	11.1	11.1	22.2	5.6	-	5.6	5.6	-	16.7	-	-
岩 槻 区	20	25.0	35.0	15.0	15.0	10.0	5.0	-	-	-	5.0	5.0	-
市 外	1,219	25.9	29.9	25.0	9.4	7.7	4.2	1.6	1.5	0.2	6.5	3.9	0.1
埼 玉 県 内 の 市 町 村	457	33.0	31.9	13.8	8.5	9.8	3.9	1.1	0.7	0.7	7.4	6.1	-
埼 玉 県 以 外 の 都 道 府 県	748	22.1	28.7	32.0	9.8	6.1	4.4	1.9	1.9	-	5.9	2.5	0.1
国 外	14	-	21.4	21.4	14.3	21.4	-	-	7.1	-	7.1	7.1	-
< 居 住 区 別 >													
西 区	111	49.5	25.2	10.8	7.2	8.1	2.7	0.9	0.9	-	6.3	2.7	-
北 区	209	31.1	24.4	20.6	8.1	6.7	5.3	1.4	1.0	1.0	6.2	5.7	0.5
大 宮 区	189	27.5	30.2	24.3	9.5	6.9	3.7	-	2.6	-	9.0	2.1	-
見 沼 区	234	35.5	21.8	15.8	13.7	8.5	4.3	2.1	1.3	0.9	7.3	4.7	2.1
中 央 区	151	33.8	25.8	19.2	7.9	10.6	4.0	3.3	2.0	1.3	4.0	5.3	1.3
桜 区	132	28.0	29.5	17.4	8.3	6.1	3.0	0.8	2.3	-	7.6	6.1	0.8
浦 和 区	240	24.2	25.4	22.5	8.8	14.6	3.8	2.1	0.8	0.4	9.2	1.7	0.4
南 区	269	26.8	30.9	22.7	8.6	5.9	4.1	1.5	1.1	0.7	5.9	5.2	0.7
緑 区	192	37.5	25.0	14.1	8.3	10.4	3.6	-	0.5	-	6.8	4.2	1.6
岩 槻 区	141	35.5	27.0	14.9	8.5	5.0	2.8	2.1	0.7	-	7.1	7.8	-

属 性 別

性別でみると、「住宅・マンションの購入」、「就職・転勤」は男性が女性より 5 ポイント以上高く、「結婚・同棲」は女性（29.8%）が男性（21.7%）より 8.1 ポイント高かった。

今の地域に住み始めた年齢別でみると、「住宅・マンションの購入」は、40～50 代が 4 割台、「結婚・同棲」は、20 代が 54.9%で最も高く、30 代（26.9%）が続いた。「親や子と同居・近隣に住むため」は、中学卒業後～19 歳（28.6%）、60 歳以上（27.9%）が 2 割台だった。

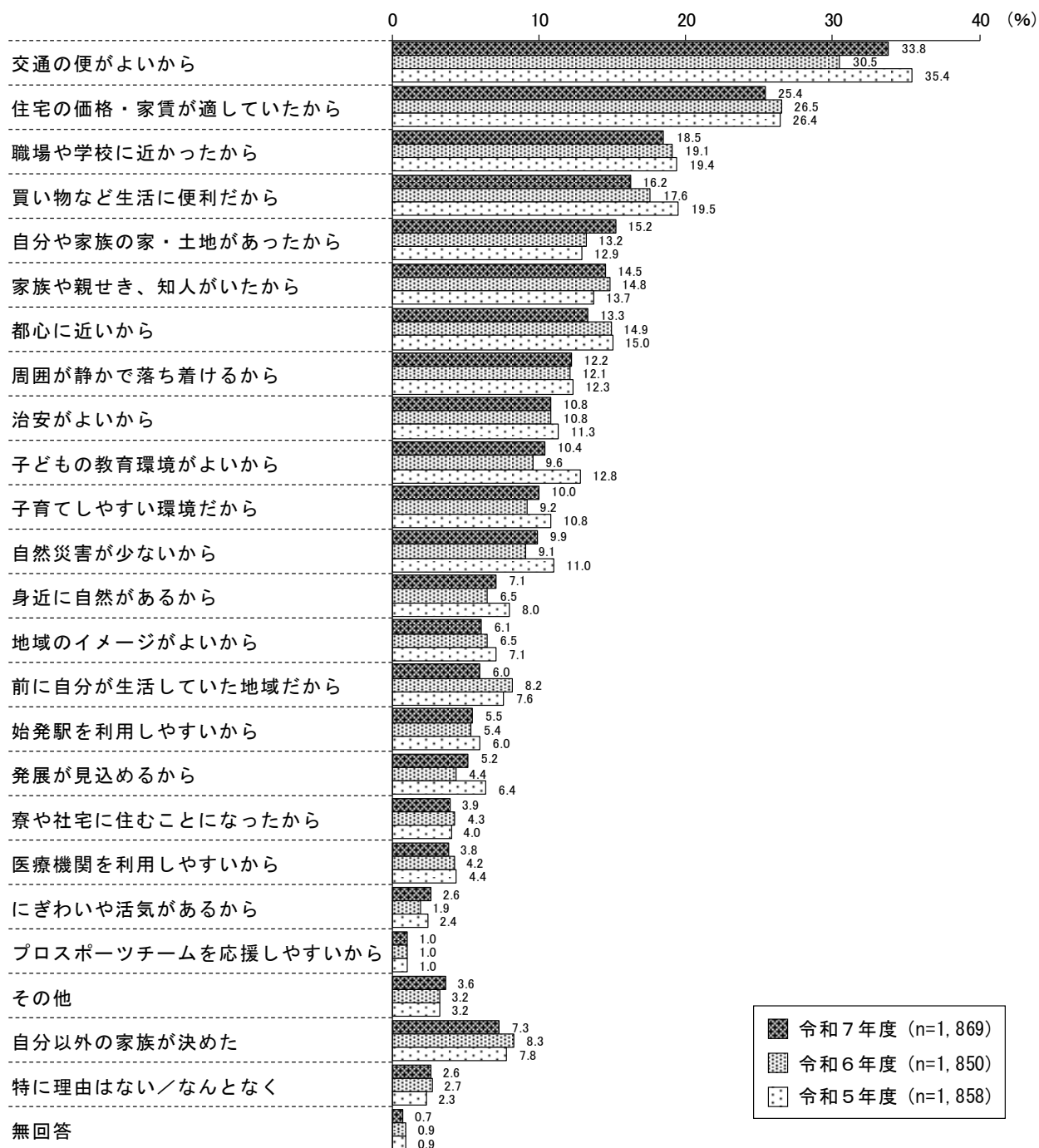
以前住んでいた地域別でみると、「住宅・マンションの購入」は、『市内』（43.9%）が『市外』（25.9%）より 18 ポイント高かった。一方、「就職・転勤」は、『市外』（25.0%）が『市内』（7.5%）より 17.5 ポイント高かった。（表 8-3-1）

(4) 今の地域を選んだ理由

(引っ越してきた人に質問します。)

問 20-3 今の地域を選んだ大きな理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図 8-4-1 今の地域を選んだ理由



全体結果

「交通の便がよいから」が 33.8% で最も高く、「住宅の価格・家賃が適していたから」(25.4%)、「職場や学校に近かったから」(18.5%)、「買い物など生活に便利だから」(16.2%)が続いた。

過去 2 年間の調査結果と比較すると、令和 6 年度と比べ、「交通の便がよいから」は 3.3 ポイント増加した。一方、「買い物など生活に便利だから」は、減少傾向にある。(図 8-4-1)

表 8－4－1 今の地域を選んだ理由－性別、今の地域に住み始めた年齢別、
以前住んでいた地域別、居住区別－（上位 10 項目）

			交通の便がよいから	住宅の価格・家賃が適していたから	職場や学校に近かったから	買い物など生活に便利だから	自分や家族の家・土地があったから	家族や親せき、知人がいたから	都心に近いから	周囲が静かで落ち着ける	治安がよいから	子どもの教育環境がよいから
全体	1,869		33.8	25.4	18.5	16.2	15.2	14.5	13.3	12.2	10.8	10.4
＜性別＞												
男性	778		33.3	27.9	22.4	15.6	10.4	15.6	12.9	13.5	10.0	11.2
女性	1,057		34.2	23.7	15.9	17.1	19.1	13.7	13.8	11.5	11.5	10.0
＜今の地域に住み始めた年齢別＞												
小学校入学前	110		14.5	9.1	7.3	6.4	16.4	10.0	6.4	3.6	5.5	5.5
小学生・中学生の時	89		10.1	5.6	3.4	4.5	21.3	16.9	4.5	2.2	3.4	5.6
中学卒業後～19歳	35		17.1	11.4	20.0	8.6	22.9	22.9	8.6	2.9	—	5.7
20代	512		29.9	23.6	24.2	13.9	20.7	13.9	11.9	10.4	9.4	6.8
30代	670		40.0	26.9	19.6	20.3	13.1	16.4	15.8	13.0	13.9	15.4
40代	270		41.5	32.6	20.0	16.7	8.1	11.9	15.9	17.0	12.6	14.4
50代	115		40.9	37.4	12.2	22.6	12.2	11.3	14.8	17.4	13.0	1.7
60歳以上	68		30.9	35.3	7.4	16.2	13.2	16.2	11.8	22.1	4.4	2.9
＜以前住んでいた地域別＞												
市内	627		30.1	29.8	17.5	16.3	15.8	10.2	8.8	13.7	9.7	8.3
同 じ 区 内	247		26.7	25.5	17.8	14.2	17.0	11.3	9.3	10.9	9.3	6.5
西 北 区	14		28.6	42.9	14.3	21.4	7.1	7.1	14.3	28.6	—	7.1
大 宮 区	36		44.4	38.9	8.3	16.7	16.7	8.3	8.3	11.1	8.3	13.9
見 沼 区	61		19.7	26.2	21.3	11.5	19.7	16.4	6.6	11.5	6.6	8.2
中 央 区	28		39.3	28.6	21.4	25.0	10.7	7.1	7.1	14.3	3.6	3.6
桜 浦 区	46		32.6	43.5	21.7	15.2	6.5	4.3	6.5	15.2	13.0	8.7
浦 和 区	28		50.0	25.0	7.1	35.7	14.3	14.3	10.7	28.6	17.9	10.7
南 緑 区	73		27.4	31.5	17.8	9.6	21.9	8.2	8.2	11.0	4.1	6.8
岩 槻 区	56		26.8	41.1	19.6	19.6	10.7	5.4	10.7	23.2	17.9	10.7
市 外	18		55.6	27.8	11.1	38.9	11.1	11.1	—	16.7	27.8	11.1
埼 玉 県 内 の 市 町 村	20		30.0	10.0	20.0	10.0	20.0	15.0	15.0	5.0	5.0	20.0
埼 玉 県 以 外 の 都 道 府 県	1,219		36.1	23.5	19.2	16.2	14.7	16.9	15.7	11.6	11.1	11.5
国 外	457		38.3	25.8	20.4	19.3	14.7	13.6	12.3	14.0	11.2	12.0
埼 玉 県 以 外 の 都 道 府 県	748		34.8	22.3	18.6	14.3	14.4	19.0	17.6	10.3	10.8	11.0
国 外	14		35.7	7.1	14.3	21.4	28.6	14.3	21.4	—	21.4	21.4
＜居住区別＞												
西 北 区	111		18.9	32.4	15.3	4.5	18.0	7.2	9.9	13.5	7.2	0.9
大 宮 区	209		36.8	21.5	20.6	19.1	12.4	13.4	12.9	12.4	8.6	4.8
見 沼 区	189		49.7	15.9	20.1	22.2	18.0	15.9	14.3	6.3	4.8	7.4
中 央 区	234		24.4	32.1	13.7	13.2	17.1	18.8	12.0	13.2	6.0	3.8
桜 浦 区	151		45.7	26.5	19.9	25.2	11.3	14.6	17.2	11.3	11.3	9.9
浦 和 区	132		21.2	35.6	23.5	12.1	14.4	14.4	8.3	6.8	2.3	6.1
南 緑 区	240		42.9	14.2	17.5	20.4	11.7	11.7	21.7	12.5	29.6	27.5
岩 槻 区	269		43.9	25.3	22.7	14.1	17.5	16.0	14.9	9.3	10.8	13.4
市 外	192		26.0	28.6	13.5	16.7	12.5	15.1	11.5	24.5	14.1	15.1
国 外	141		10.6	31.9	18.4	8.5	20.6	14.2	3.5	11.3	4.3	4.3

属 性 別

性別でみると、「職場や学校に近かったから」は 6.5 ポイント、「住宅の価格・家賃が適していたから」は 4.2 ポイント、男性が女性より高かった。一方、「自分や家族の家・土地があったから」は、女性（19.1％）が男性（10.4％）より 8.7 ポイント高かった。

今の地域に住み始めた年齢別でみると、「交通の便がよいから」は、30～50 代が 4 割台、「住宅の価格・家賃が適していたから」は、40 代以上が 3 割台であった。

以前住んでいた地域別でみると、「住宅の価格・家賃が適していたから」は『市内』（29.8％）が『市外』（23.5％）より 6.3 ポイント高かった。一方、「交通の便がよいから」、「家族や親せき、知人がいたから」、「都心に近いから」は『市外』が『市内』より 6 ポイント以上高かった。

居住区別でみると、「交通の便がよいから」は、大宮区（49.7％）、中央区（45.7％）、南区（43.9％）、浦和区（42.9％）が 4 割台であった。一方、「住宅の価格・家賃が適していたから」は、「桜区」（35.6％）、西区（32.4％）、岩槻区（31.9％）、見沼区（32.1％）が 3 割台であった。（表 8－4－1）

